

取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

SPADE



イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に必ずお読みいただきたいこと

2 メーターの見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転

運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能

室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	10
検索のしかた	11
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全に お使いいただくために	
運転する前に	22
安全なドライブのために	24
シートベルト	26
SRS エアバッグ	33
排気ガスに対する注意	41
1-2. お子さまの安全	
お子さまを乗せるときは	42
チャイルドシート	43
1-3. 盗難防止装置	
エンジンイモビライザー システム	67

2 メーターの見方

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯	70
計器類	74
マルチインフォメーション ディスプレイ	76

3 各部の操作

3-1. キー	
キー	84
3-2. ドアの開閉、 ロックのしかた	
スマートエントリー& スタートシステム	87
ワイヤレスリモコン	96
運転席側ドア （フロントドア・ リヤドア）	98
スライドドア	101
バックドア	112
3-3. シートの調整	
フロントシート	117
リヤシート	119
ヘッドレスト	125
シートアレンジ	128
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	137
インナーミラー	138
ドアミラー	139
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウィンドウ	142

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	146
荷物を積むときの注意	155

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション） スイッチ	157
オートマチック トランスミッション	163
方向指示レバー	166
パーキングブレーキ	167
ホーン（警音器）	169

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	170
ワイパー＆ウォッシャー （フロント）	174
ワイパー＆ウォッシャー （リヤ）	176

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	178
---------	-----

4-5. Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense	182
PCS（プリクラッシュ セーフティ）	187
LDA （レーンディパーチャー アラート）	198
オートマチック ハイビーム	205
先行車発進告知機能	209

4-6. 運転支援装置について

Stop & Start System （SMART STOP）	211
4WD オートモード スイッチ	222
運転を補助する装置	223
クリアランスソナー	229
パーキングサポート ブレーキ（静止物）	236

4-7. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	248
--------	-----

5 室内装備・機能

5-1. エアコンと

デフォグガーの使い方

マニュアルエアコン	252
オートエアコン	257
リヤウインドウ デフォグガー （曇り取り）	266
フロントワイパー デアイサー	268

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	269
・インテリアランプ （前側）	270
・パーソナルランプ	270
・インテリアランプ （うしろ側）	270

5-3. 収納装備

収納装備一覧.....	272
・ 運転席アッパートレイ	274
・ 助手席アッパートレイ	275
・ 助手席グローブ ボックス	275
・ カップホルダー	277
・ ベンチシート カップホルダー付 クッショントレイ	278
・ カードホルダー	279
・ 小物入れ	279
・ センターマルチ ボックス	281
・ シートポケット	283
・ ボトルホルダー	284
・ アンブレラホルダー	285
・ ドアポケット	286

5-4. その他の室内装備の
使い方

サンバイザー/ バニティミラー	287
時計	288
外気温度表示	289
アクセサリーソケット	290
ポストカードホルダー	291
運転席アームレスト	292
シートヒーター	293
ステアリングヒーター	295
買い物フック	296
ステアリングスイッチ	297
ラゲージルーム内装備	299
アシストグリップ	301
コートフック	302

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	304
内装の手入れ	309

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	312
ガレージジャッキ	314
ウォッシュャー液の補充	317
タイヤについて	318
タイヤ空気圧について	322
キーの電池交換	324
ヒューズの点検・交換	326
電球（バルブ）の交換	333
エアコンフィルターの 交換	348

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは	352
非常点滅灯 (ハザードランプ)	353
発炎筒	354
車両を緊急停止するには	356
水没したときは	357

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	358
警告灯がついたときは	365
警告メッセージが 表示されたときは	371
パンクしたときは (スペアタイヤ装着車)	375
パンクしたときは (タイヤパンク 応急修理キット装着車)	386
エンジンが かからないときは	400
電子キーが 正常に働かないときは	402
バッテリーが あがったときは	404
オーバーヒートした ときは	408
スタックしたときは	412

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ (指定燃料・ オイル量など)	416
--------------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	426
--------------------	-----

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目	429
------------	-----

さくいん

こんなときは (症状別さくいん)	432
車から音が鳴ったときは (音さくいん)	437
アルファベット順さくいん	439
五十音順さくいん	440

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

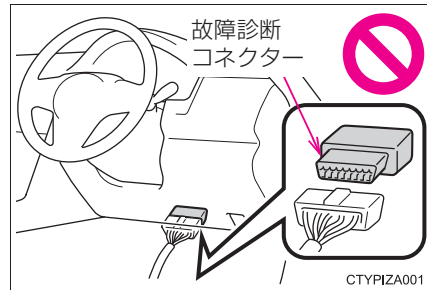
不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・スライドドアのドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

- ・ エンジン回転数／電気モーター回転数
- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ 運転支援システム（ABS、プリクラッシュセーフティなど）の作動状況
- ・ 前方カメラの画像情報

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

- 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティ作動時のデータは残りません。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRSエアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。

EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDRは次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDRは衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。EDRで記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両またはEDRへ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDRデータの情報開示

次の場合を除き、トヨタはEDRで記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー
- Toyota Safety Sense

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

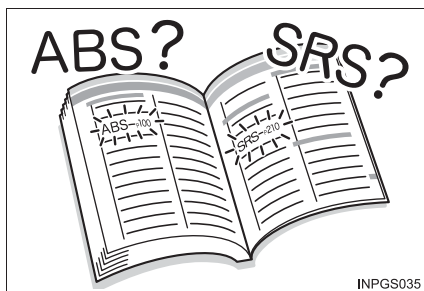
保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

検索のしかた

■ 名称から探す

- ・ 五十音順さくいん440
- ・ アルファベット順
さくいん439



■ 取り付け位置から探す

- ・ イラスト目次 12



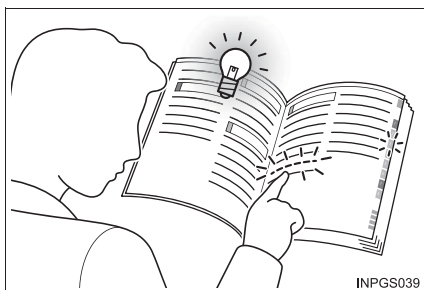
■ 症状や音から探す

- ・ こんなときは
(症状別さくいん)432
- ・ 車から音が鳴ったときは
(音さくいん)437



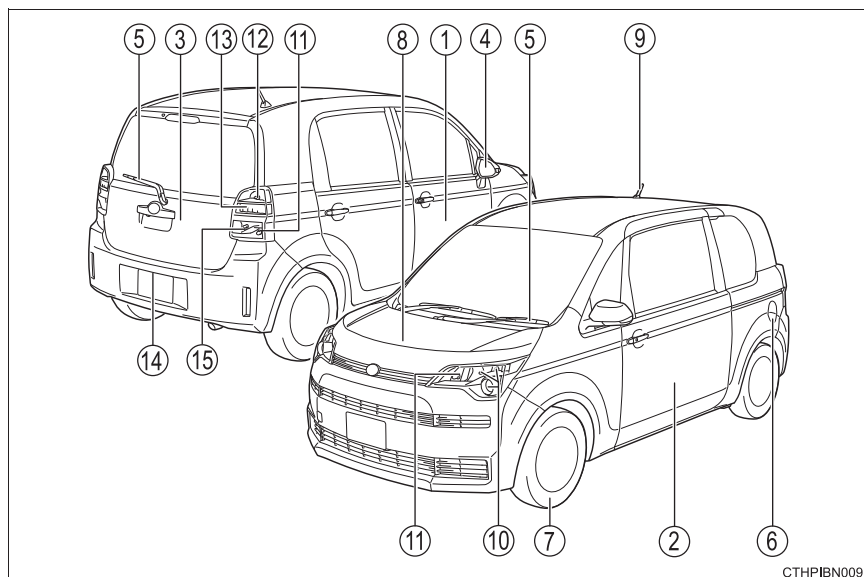
■ タイトルから探す

- ・ 目次2



イラスト目次

■ 外観



CTHPIB009

- ① 運転席側ドア P. 98
 - 施錠／解錠 P. 88, 96, 98
 - ドアガラスの開閉 P. 142
 - メカニカルキーでの施錠／解錠 P. 402
 - 警告灯 P. 368
- ② スライドドア P. 101
 - 施錠／解錠 P. 88, 96, 101
 - ドアガラスの開閉 P. 142
 - 警告灯 P. 368
- ③ バックドア P. 112
 - 車外から開ける P. 88, 96, 112
 - 警告灯 P. 368
- ④ ドアミラー P. 139
 - 鏡面の角度調整 P. 139
 - ミラーの格納 P. 139
 - 曇りを取る (ミラーヒーター) ★ P. 140

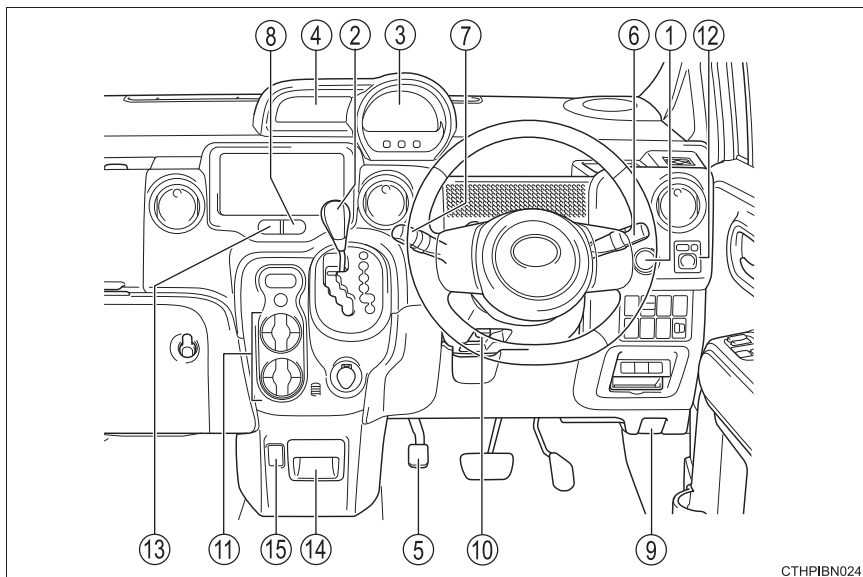
- ⑤ **ワイパー**.....P. 174, 176
 冬季の注意P. 248
 凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★P. 268
- ⑥ **給油口**.....P. 178
 給油方法P. 178
 燃料の種類・燃料タンク容量P. 178, 416
- ⑦ **タイヤ**.....P. 318
 サイズ・空気圧P. 423
 冬用タイヤ・タイヤチェーンP. 248
 点検・ローテーションP. 318
 パンク時の対処P. 375, 386
- ⑧ **ボンネット**.....P. 312
 開け方P. 312
 エンジンオイルP. 417
 オーバーヒート時の対処P. 408
- ⑨ **アンテナ**.....P. 304

走行に関わる外装のランプバルブ

（交換要領：P. 333, ワット数：P. 424）

- ⑩ **ヘッドランプ・車幅灯**.....P. 170
- ⑪ **方向指示灯**P. 166
- ⑫ **尾灯**P. 170
- ⑬ **制動灯**
 緊急ブレーキシグナルP. 223
- ⑭ **番号灯**.....P. 170
- ⑮ **後退灯**
 シフトポジションを R にするP. 163

■ インストルメントパネル



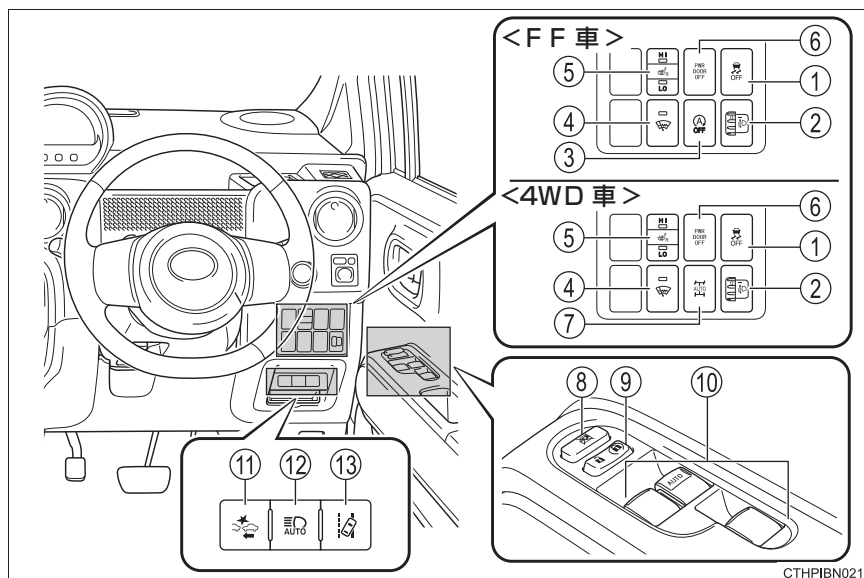
CTHP1BN024

- | | |
|----------------------|-------------|
| ① エンジン スイッチ |P. 157 |
| エンジンの始動・モード切りかえ |P. 157 |
| エンジンの緊急停止 |P. 356 |
| エンジンが始動できないときの対処 |P. 400 |
| ② シフトレバー |P. 163 |
| シフトポジションの切りかえ |P. 163 |
| けん引時の注意 |P. 358 |
| シフトレバーが動かないときの対処 |P. 164 |
| ③ メーター |P. 74 |
| 見方 |P. 74 |
| 明るさの調整 |P. 77 |
| 警告灯／表示灯 |P. 70 |
| 警告灯点灯時の対処 |P. 365 |
| ④ マルチインフォメーションディスプレイ |P. 76 |
| 警告メッセージ表示時の対処 |P. 371 |

- ⑤ パーキングブレーキP. 167
 - かける・解除するP. 167
 - 冬季の注意P. 249
 - 警告ブザーP. 365
- ⑥ 方向指示レバーP. 166
 - ランプスイッチP. 170
 - ヘッドランプ・車幅灯・尾灯P. 170
- ⑦ ワイパー&ウォッシャースイッチP. 174, 176
 - 使い方P. 174, 176
 - ウォッシャー液の補充P. 317
- ⑧ 非常点滅灯スイッチP. 353
- ⑨ ボンネット解除レバーP. 312
- ⑩ ハンドル位置調整レバーP. 137
- ⑪ マニュアルエアコン★P. 252
 - オートエアコン★P. 257
 - 操作方法P. 252, 257
 - リヤウインドウの曇り取り (リヤウインドウデフォグガー) ...P. 266
- ⑫ ドアミラースイッチP. 139
- ⑬ パワースライドドアスイッチP. 102
- ⑭ センターマルチボックス★P. 281
 - センタークラスター小物入れ★P. 279
- ⑮ 助手席シートヒータースイッチ★P. 293

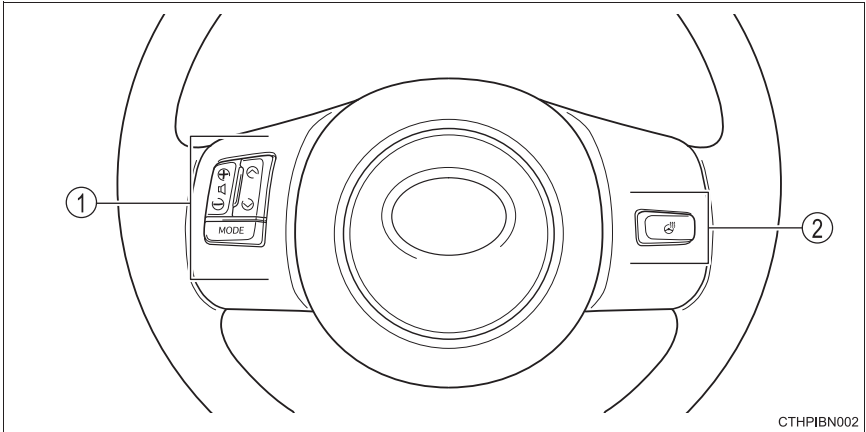
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■スイッチ類



CTHP1BN021

- | | | |
|---|---------------------------|-------------|
| ① | VSC OFF スイッチ |P. 224 |
| ② | 手動光軸調整ダイヤル★ |P. 171 |
| ③ | Stop & Start キャンセルスイッチ★ |P. 213 |
| ④ | フロントワイパーデアイサースイッチ★ |P. 268 |
| ⑤ | 運転席シートヒータースイッチ★ |P. 293 |
| ⑥ | パワースライドドアメインスイッチ |P. 102 |
| ⑦ | 4WD オートモードスイッチ★ |P. 222 |
| ⑧ | ウインドウロックスイッチ |P. 142 |
| ⑨ | ドアロックスイッチ |P. 98 |
| ⑩ | パワーウインドウスイッチ |P. 142 |
| ⑪ | PCS (プリクラッシュセーフティ) スイッチ |P. 187 |
| ⑫ | オートマチックハイビームスイッチ |P. 205 |
| ⑬ | LDA (レーンディパーチャーアラート) スイッチ |P. 198 |

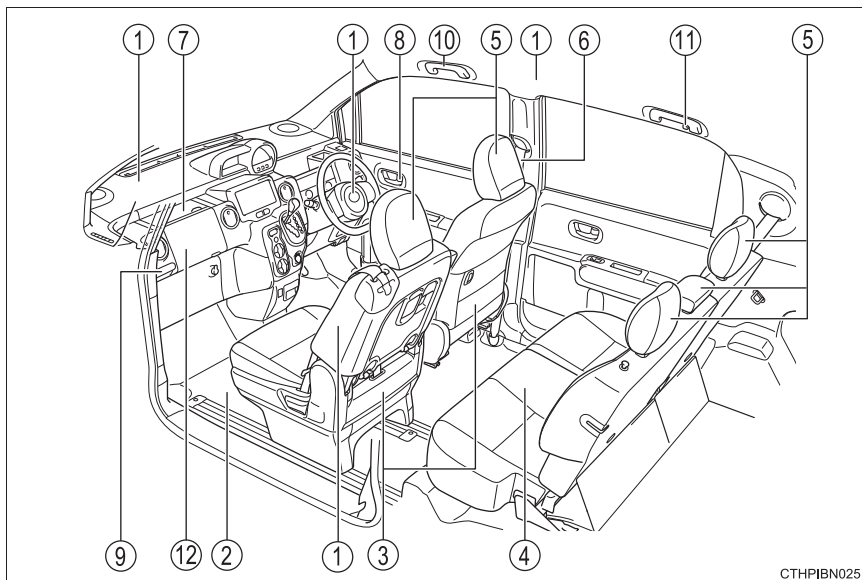


CTHPIBN002

- ① オーディオ操作スイッチ★.....P. 297
② ステアリングヒータースイッチ★.....P. 295

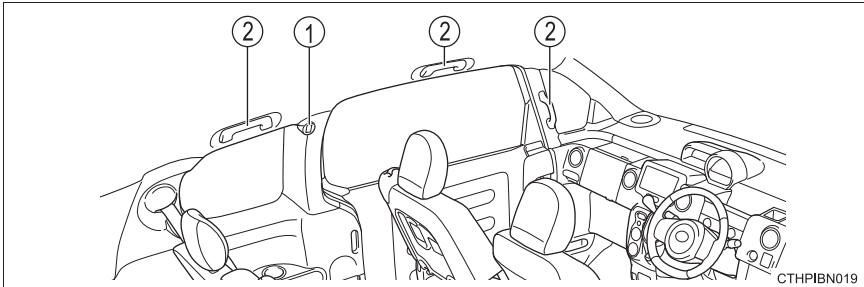
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 室内



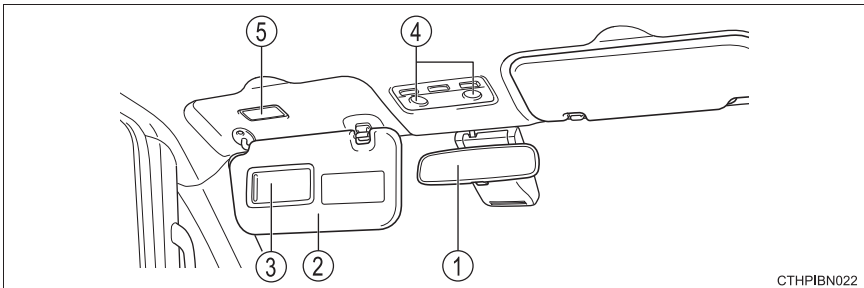
CTHPBN025

- | | | | |
|---|-------------|-------|--------|
| ① | SRS エアバッグ | | P. 33 |
| ② | フロアマット | | P. 22 |
| ③ | フロントシート | | P. 117 |
| ④ | リヤシート | | P. 119 |
| ⑤ | ヘッドレスト★ | | P. 125 |
| ⑥ | シートベルト | | P. 26 |
| ⑦ | 助手席アッパートレイ | | P. 275 |
| ⑧ | ロックレバー | | P. 98 |
| ⑨ | カップホルダー | | P. 277 |
| ⑩ | アシストグリップ | | P. 301 |
| ⑪ | コートフック★ | | P. 302 |
| ⑫ | 助手席グローブボックス | | P. 275 |



CTHP1BN019

- ① パワースライドドアスイッチ.....P. 102
 ② アシストグリップP. 301

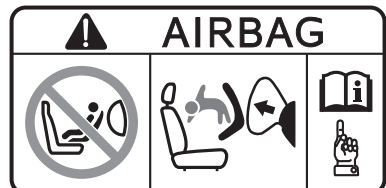


CTHP1BN022

- ① インナーミラー.....P. 138
 ② サンバイザー※¹P. 287
 ③ バニティミラー.....P. 287
 ④ パーソナルランプ／インテリアランプ（前側）※².....P. 270
 ⑤ バニティランプ★P. 287

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※¹：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→ P. 46）



※²：☒はフロントですが、リヤにも装着されています。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

- 1-1. 安全に
 お使いいただくために
 - 運転する前に.....22
 - 安全なドライブのために24
 - シートベルト.....26
 - SRS エアバッグ.....33
 - 排気ガスに対する注意41
- 1-2. お子さまの安全
 - お子さまを乗せるときは42
 - チャイルドシート.....43
- 1-3. 盗難防止装置
 - エンジンイモビライザー
システム.....67

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、お車に異常がないことを確認してください。

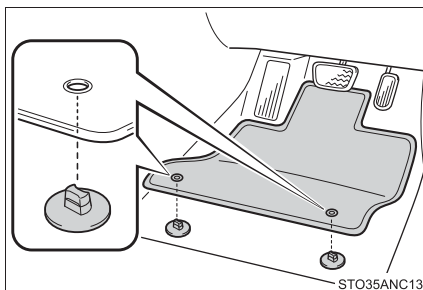
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

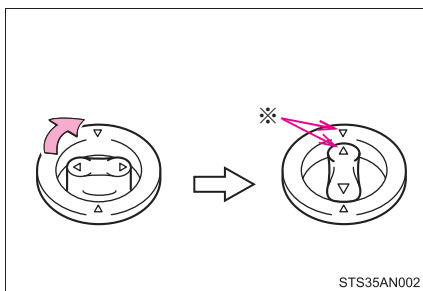
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

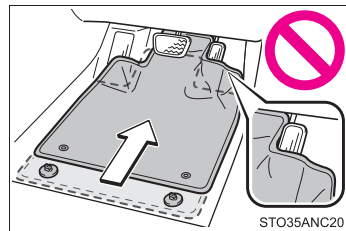
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

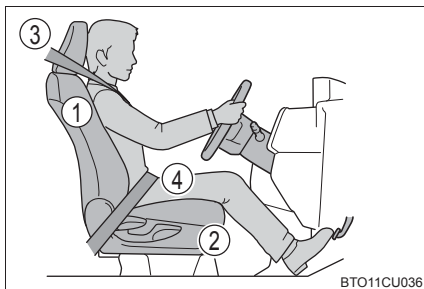


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 117）
- ② ペダルをしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 117）
- ③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 125）
- ④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 26）



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 26）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 43）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 138, 139）

 **警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

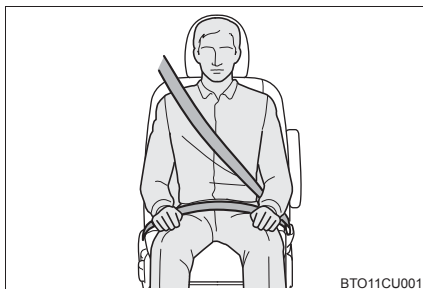
- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

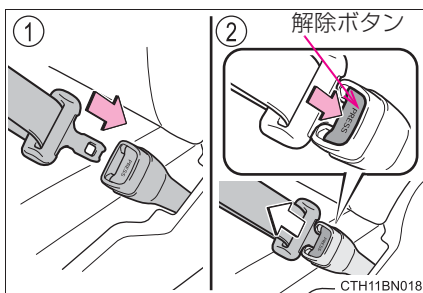
正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



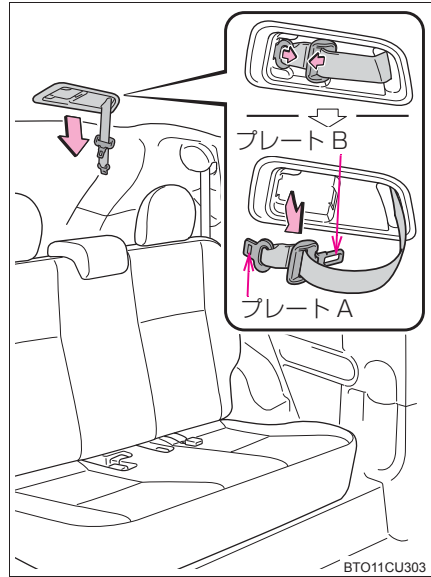
着け方・はずし方（リヤ中央席を除く）

- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



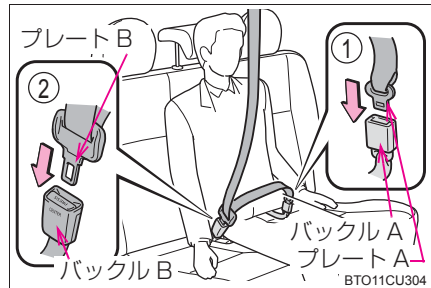
着け方（リヤ中央席）

- 1 プレートを取り出す



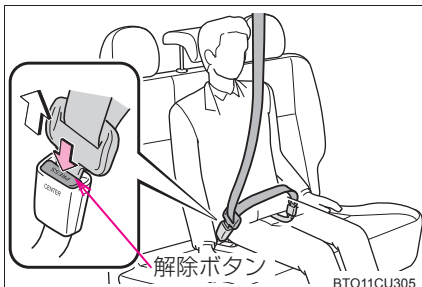
- 2 ベルトを固定するには、プレート A、プレート B の順に“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

- ① プレート A、バックル A
- ② プレート B、バックル B



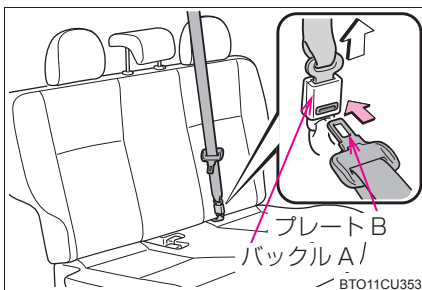
はずし方・格納の仕方（リヤ中央席）

- 1 バックル B の解除ボタンを押して、ベルトを解除する



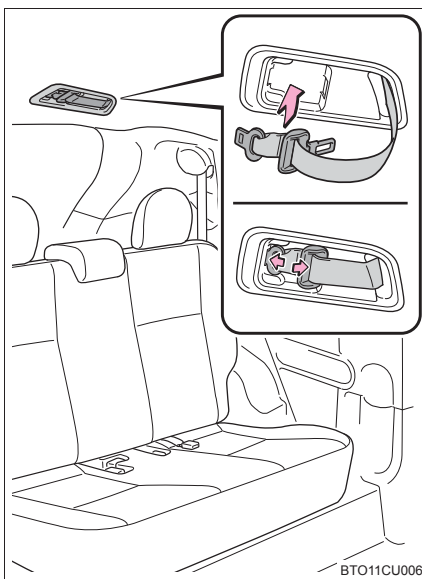
- 2 キー、またはプレート B をバックル A に挿し込み、ベルトを分離する

シートベルトを格納するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。

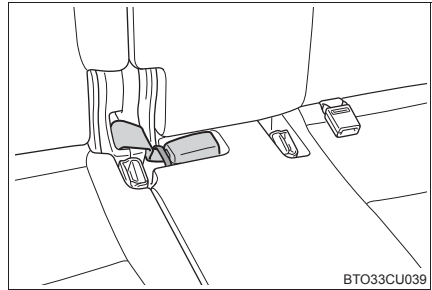


- 3 プレート A、B を図のようにし、もともにもどす

確実に固定されるよう、しっかりと奥まで挿し込みます。



- 4 バックルをシートクッションの穴に格納してください。

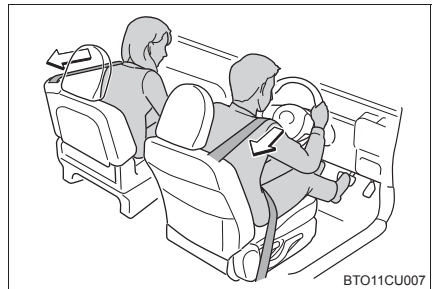


BT033CU039

シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



BT011CU007

知識

■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

また、助手席シートベルトが引き出せないときは、一度、助手席背もたれを前に倒すとシートベルトを引き出すことができます。

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→P. 43）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→P. 26）

■ シートベルトプリテンショナーについて

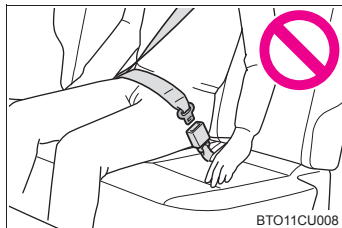
シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- リヤシート左右席シートベルトを使用するときは、ベルトハンガーにシートベルトがかかっていること
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- リヤ中央席のシートベルトを使用するときは、プレート A とバックル A および、プレート B とバックル B を結合する



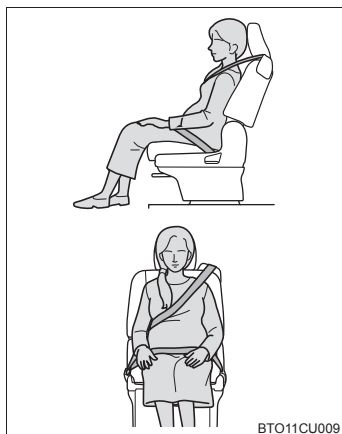
BTO11CU008

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 26)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



BTO11CU009

 **警告****■ 疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

→ P. 60

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

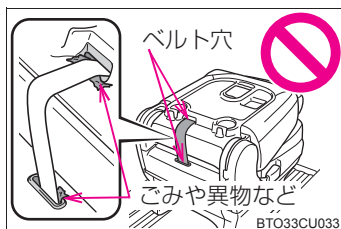
■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

警告

■助手席シートベルトについて

- 助手席シートうしろのベルト穴にごみや異物などを入れないでください。ごみや異物などが入ると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

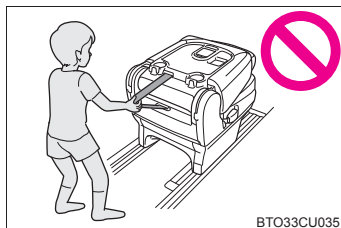


- 助手席シートうしろのベルト穴付近に足などをのせないでください。プリテンショナー付きシートベルトが作動したとき、やけどをするおそれがあり危険です。

- 助手席の背もたれをリクライニングさせた状態で、ベルトが巻き取りにくいときは、背もたれを起こしてください。

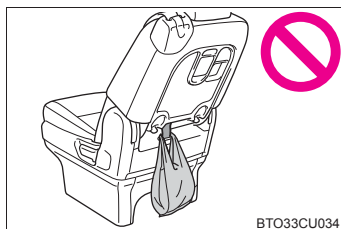
- 炎天下での駐車後は、シートベルトのプレートが熱くなり、やけどをするおそれがあり危険です。熱くないことを確認してから使用してください。

- シートベルトを背もたれうしろのベルト穴から引っ張り出したり、ベルトにものを引っ掛けたりしないでください。シートベルトがロックしたまま引き出せなくなります。



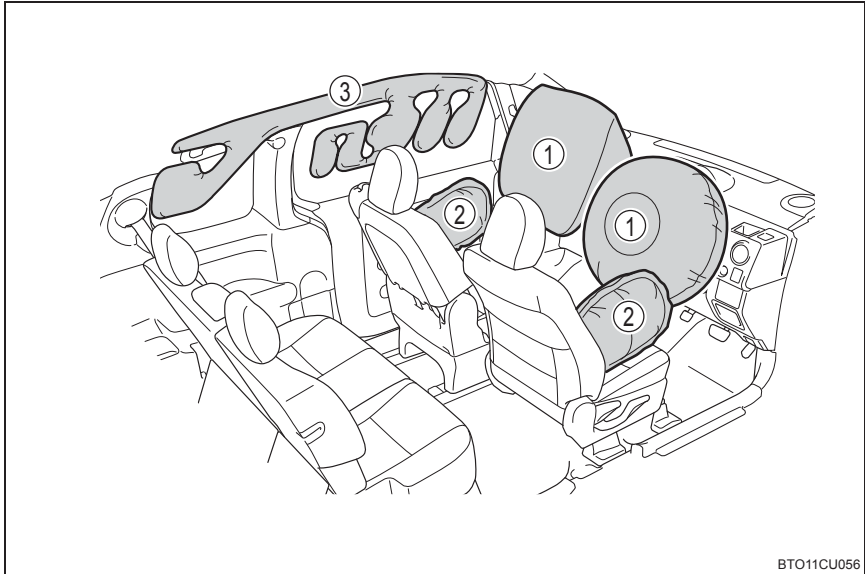
シートベルトがロックしてしまったときは、次のように操作してください。

- ・ 背もたれが起きた状態でベルトが引き出せないときは、いったん背もたれを前に倒します。
- ・ テーブル状態でベルトがロックして、背もたれが起こせないときは、背もたれを途中まで起こしたあと、いったん倒し、その後、起こします。または、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。



SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

- ① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

◆ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

- ② SRS サイドエアバッグ★
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)
- ③ SRS カーテンシールドエアバッグ★
(フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

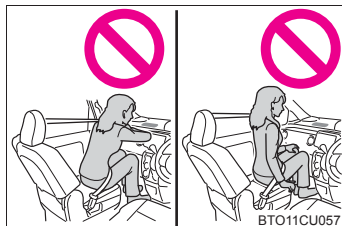
警告

■ SRS エアバッグについて

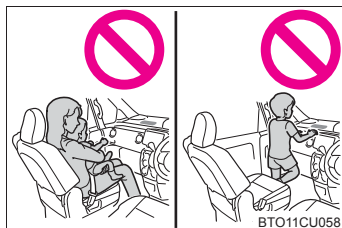
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に寄せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 43)
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



- SRS サイドエアバッグ & SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



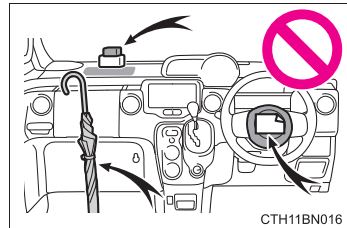
警告

■ SRS エアバッグについて

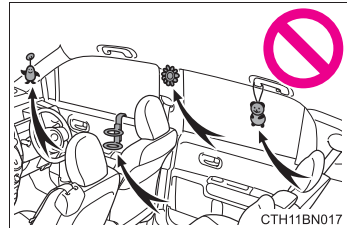
- SRS サイドエアバッグ & SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：助手席やリヤシートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・助手席アッパートレイのフタの上・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



- SRS サイドエアバッグ & SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く→ P. 393）



 **警告****■ SRS エアバッグについて**

- SRSサイドエアバッグ&SRSカーテンシールドエアバッグ装着車:SRSサイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりするおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたかなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRSサイドエアバッグ&SRSカーテンシールドエアバッグ非装着車:SRSエアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。
- SRSサイドエアバッグ&SRSカーテンシールドエアバッグ装着車:SRSエアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

 **警告****■改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

 **知識****■SRS エアバッグが作動すると**

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- SRS カーテンシールドエアバッグ非装着車：フロント席などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

- ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
- ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

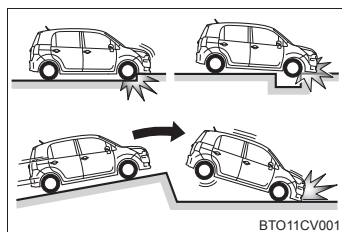
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

- 前面衝突時でも、とくに衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが開く場合があります。

■ 衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグ・SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

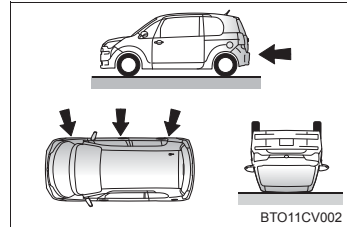


BTO11CV001

■ SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

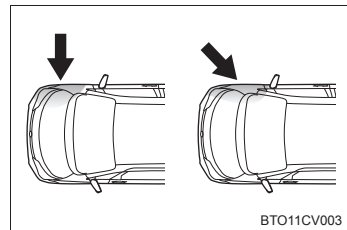
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



■ SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

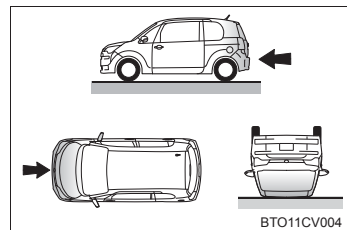
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

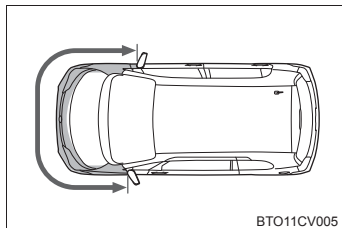
- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



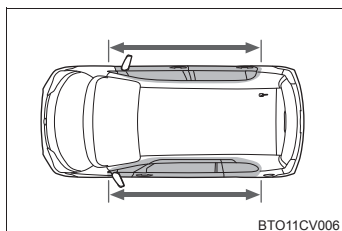
■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理等が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

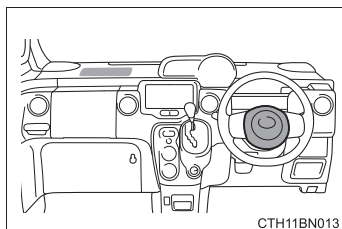
- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



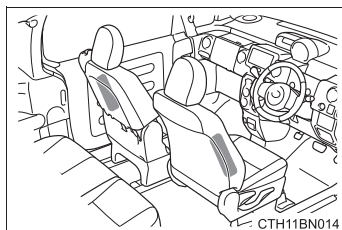
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよび、その周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



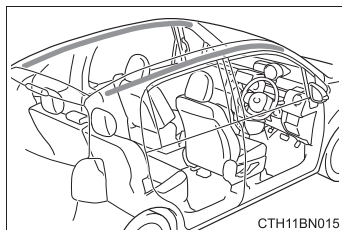
- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席SRSエアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→ P. 43)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→ P. 99)・ウィンドウロックスイッチ(→ P. 142)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・スライドドア・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた、P. 43 を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと	P. 43
チャイルドシートを使用するときは	P. 45
シート位置別チャイルドシートの適合性について	P. 48
チャイルドシートの取り付け方法	P. 56
・ シートベルトで固定する	P. 58
・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する	P. 61
・ トップテザーアンカレッジを使用する	P. 63

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。(→ P. 48)

 **警告****■ お子さまを乗せるときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いいため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認ください。(→ P. 48) 本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

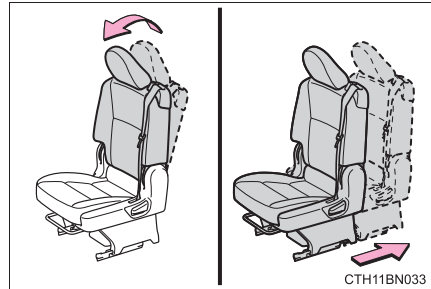
● 背もたれを可能な限り起こす

背もたれとチャイルドシートの間ですき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

● シートをいちばんうしろに下げる

● ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げる



⚠ 警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

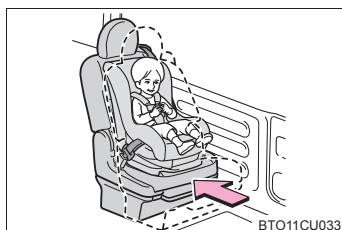
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



BTO11CU054

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



BTO11CU033

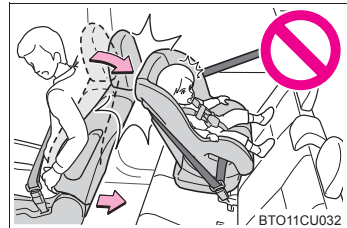
警告**■チャイルドシートを使用するとき**

- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 50）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→ P. 54）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

① チャイルドシートの規格を確認する

UN (ECE) R44 ※¹ または、UN (ECE) R129 ※¹ に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

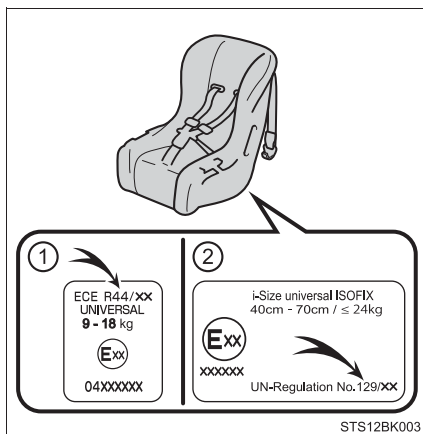
法規番号の表示例

① UN (ECE) R44 認可マーク※²

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

② UN (ECE) R129 認可マーク※²

対象となるお子さまの身長、および使用可能な体重が記載されています。



※¹ UN (ECE) R44、UN (ECE) R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

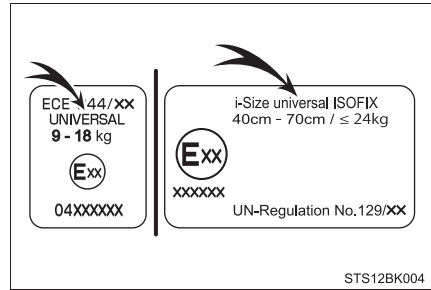
※² 表示されているマークは、商品により異なります。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

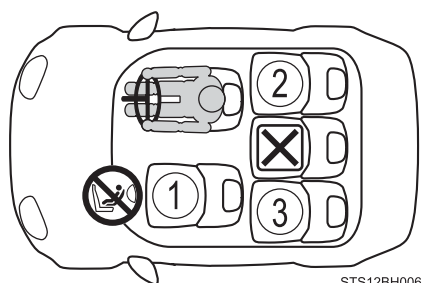
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。





また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

- ・ユニバーサル「universal（汎用）」
- ・セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
- ・リストラクティッド「restricted（限定）」
- ・ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



■ シート位置別チャイルドシートの適合性



※ 1,2,3 ①	※ 4 U L
※ 2,3 ②	U L  
※ 2,3 ③	U L  



車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。



推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ P. 54）に記載されたチャイルドシートに適しています。



ISOFIX チャイルドシートに適しています。



トップテザーアンカレッジが装備されています。



チャイルドシートの取り付けに適していません。

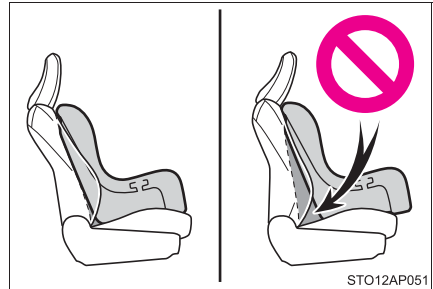


やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けなくてください。

※¹ シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※² 背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※³ ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

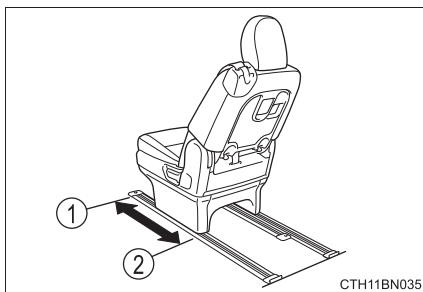
※⁴ チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有	有	有
アイサイズ着座位置（有／無）	無	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシート着座位置の治具（L1 / L2）	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1 / R2X / R2 / R3）	×	R1、R2、R3	R1、R2、R3※ ¹
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X / F2 / F3）	×	F2X、F2、F3	F2X、F2、F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 / B3）	×	×	×

※¹ 助手席の前後位置を1段目から14段目（後ろから4段目）の範囲で調整してください。

- ① 1段目
- ② 14段目



ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にある）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

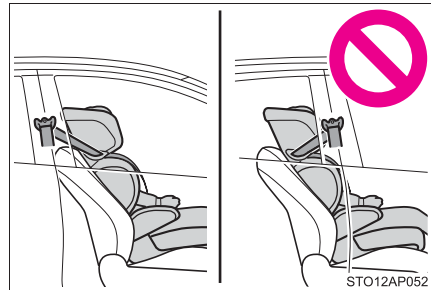
治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置		
		①	②	③
0, 0+ (13kg まで)	トヨタ純正NEO G-Child baby	×	○	○
	トヨタ純正NEO G-Child ISO leg	×	○	○
	BABYSAFE PLUS	×	○	○
I (9 ~ 18kg)	トヨタ純正NEO G-Child baby	○ 前向きのみ	○	○
	トヨタ純正NEO G-Child ISO leg	×	○	○
	DUO+	○ ベルト固定のみ	○	○
II, III (15 ~ 36kg)	トヨタ純正ジュニアシート	○	○	○
	KIDFIX XP SICT	○ ベルト固定のみ	○	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。


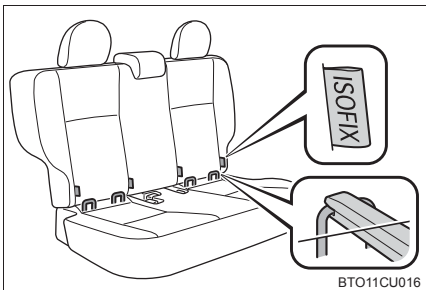
- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。

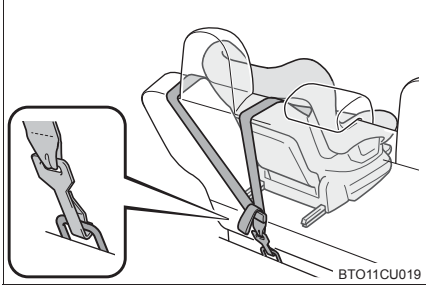
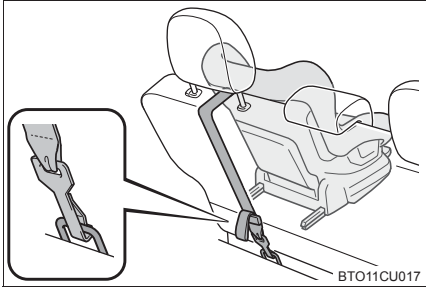
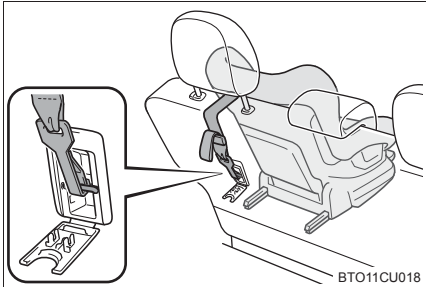


- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

■ チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルト で固定する		P. 58
ISOFIX ロア アンカレッジ で固定する		P. 61

	固定方法	ページ
テザーベルト を固定する	<p>▶ FF 車（非調整式ヘッドレスト装着車）</p> 	
	<p>▶ FF 車（調整式ヘッドレスト装着車）</p> 	P. 63
	<p>▶ 4WD 車</p> 	

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない(または必要な情報が表の中にない)場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→ P. 48、50)

- 1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。(→ P. 45)
- 2 リヤシートリクライニング調整機構装着車は、背もたれを可能な限り起こす

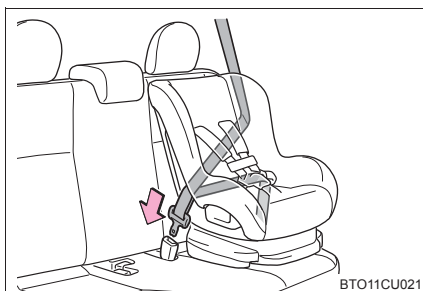
前向きにチャイルドシートを取り付けるとき：

背もたれとチャイルドシートのにすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

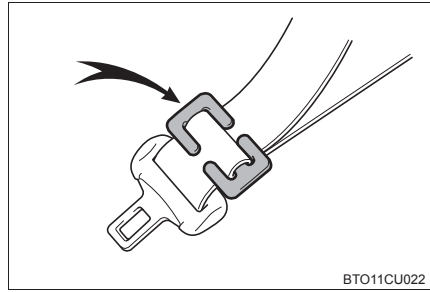
- 3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→ P. 125)

- 4 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む
ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



- 5 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロックングクリップ（別売）を使用して固定する
ロックングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロックングクリップ品番：73119-22010）



- 6 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→ P. 60）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。

チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくり戻してください。

 **警告****■チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

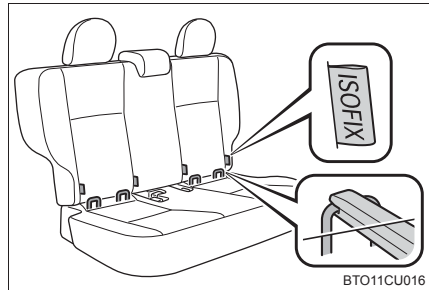
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。(ロアアンカレッジが装備されていることを示すタグがシートに付いています)



■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない(または必要な情報が表の中にある)場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→ P. 48、50)

- 1 リヤシートリクライニング調整機構装着車は、背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるとき：

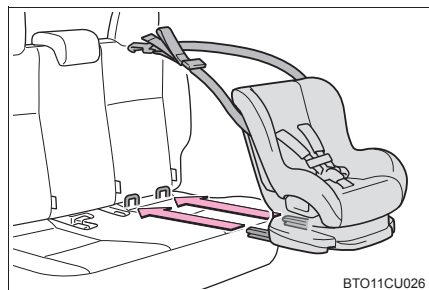
背もたれとチャイルドシートの間にはすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

- 2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→ P. 125)

- 3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ(取り付け金具)をロアアンカレッジに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



- 4 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する (→ P. 60)

 **警告**

■ **チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

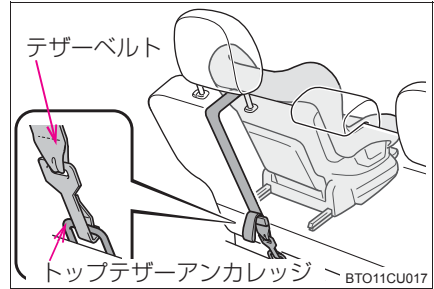
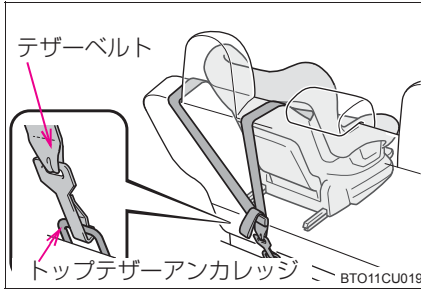
トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

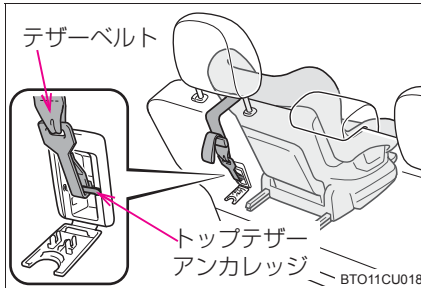
この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。

- ▶ FF 車（非調整式ヘッドレスト装着車）
- ▶ FF 車（調整式ヘッドレスト装着車）



- ▶ 4WD 車



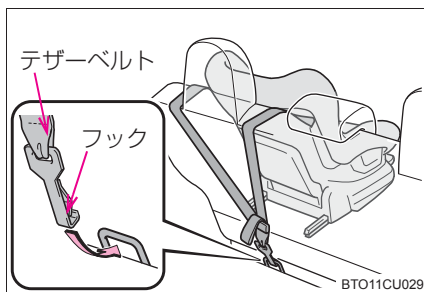
■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

▶ 非調整式ヘッドレスト装着車

トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

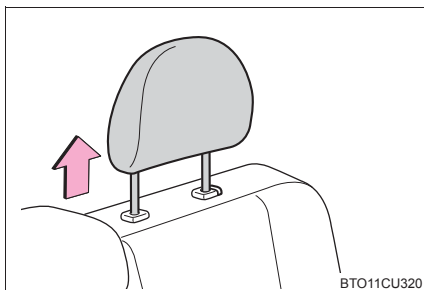


▶ 調整式ヘッドレスト装着車

1 ヘッドレストを上げる

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→ P. 125)

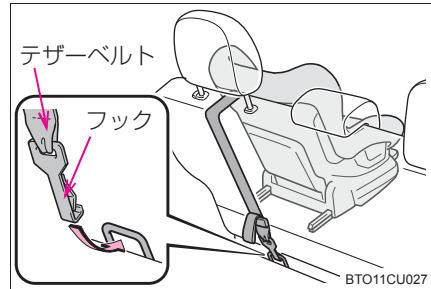


2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

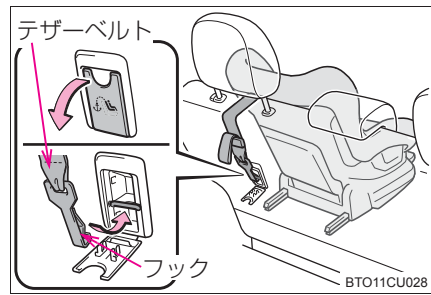
テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→ P. 60)

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。

▶ FF 車



▶ 4WD 車



 **警告****■チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けしないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

 **注意****■トップテザーアンカレッジについて（4WD 車）**

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとうフタが破損するおそれがあります。

エンジンモビライザーシステム

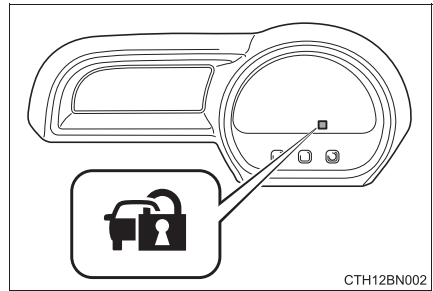
キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティー表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、セキュリティー表示灯が消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

エンジンモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

■ エンジンモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。
システムが正常に作動しないおそれがあります。

メーターの見方

2

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯.....	70
計器類.....	74
マルチインフォメーション ディスプレイ.....	76

警告灯

システム異常などを警告します。



ブレーキ警告灯
(→ P. 365)



充電警告灯 (→ P. 366)



油圧警告灯 (→ P. 366)



高水温警告灯
(→ P. 366)
(赤色点
灯また
は点滅)



エンジン警告灯
(→ P. 367)



SRSエアバッグ/
プリテンショナー警告灯
(→ P. 367)



ABS & ブレーキアシスト
警告灯 (→ P. 367)



スリップ表示灯
(→ P. 367)
(点灯)



パワーステアリング警告灯
(→ P. 367)



ブレーキオーバライドシ
ステム/ドライブスタート
コントロール警告灯
(→ P. 368)



PKSB OFF 表示灯★
(→ P. 367, 369)



Stop & Start キャンセル
表示灯★ (→ P. 367)



PCS 警告灯
(→ P. 367, 369)



半ドア警告灯 (→ P. 368)



シートベルト非着用警告灯
(→ P. 368)



燃料残量警告灯
(→ P. 368)



マスターウォーニング
(→ P. 369)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

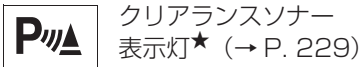
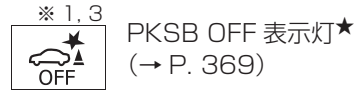
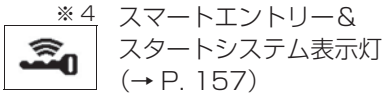
- ※¹ 作動確認のためにエンジン スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ※² マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

	方向指示表示灯 (→ P. 166)		※ ¹ エコドライブ インジケータランプ (→ P. 148)
	ハイビーム表示灯 (→ P. 170)		※ ¹ Stop & Start 表示灯★ (→ P. 211)
	オートマチックハイビーム 表示灯 (→ P. 205)		※ ^{1, 3} Stop & Start キャンセル 表示灯★ (→ P. 213)
	尾灯表示灯 (→ P. 170)		※ ¹ スリップ表示灯 (→ P. 224)
	※ ¹ 4WD オートモード表示灯★ (→ P. 222)		※ ^{1, 3} VSC OFF 表示灯 (→ P. 225)
	※ ⁴ シフトポジション表示灯 (→ P. 163)		LDA (レーンディパー チャーアラート) 表示灯 (→ P. 198)
	ステアリングヒーター 表示灯★ (→ P. 295)		※ ^{1, 3} PCS 警告灯 (→ P. 187)
	※ ² 低水温表示灯 (青色)		セキュリティ表示灯 (→ P. 67)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



- ※1 作動確認のためにエンジン スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ※2 エンジン冷却水温が低いとき点灯します。
- ※3 システムが OFF のときに点灯します。
- ※4 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

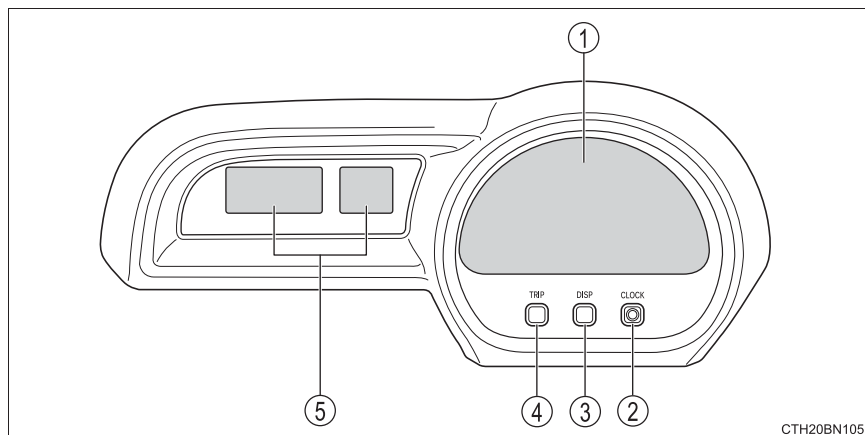
警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

計器類



CTH20BN105

- ① スピードメーター
車両の走行速度を示します。
- ② CLOCK スイッチ
→ P. 288
- ③ DISP スイッチ
→ P. 78
- ④ TRIP スイッチ
→ P. 77
- ⑤ マルチインフォメーションディスプレイ
時計や外気温、走行に関する様々な情報を表示します。(→ P. 76)
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→ P. 371)

 **注意****■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために**

この車両には、水温計のかわりに高水温警告灯（→ P. 366）が装備されています。高水温警告灯が点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 408）

■ メーターまわりの清掃をするときは

エンジン スイッチを OFF にしてください。
アクセサリモードまたは、イグニッション ON モードのままメーター内のスイッチを押してしまうと時計やマルチインフォメーションディスプレイ表示をリセットしてしまうなどのおそれがあります。

マルチインフォメーションディスプレイ

表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示したり、設定を切りかえることができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

- 外気温 (→ P. 289)

- 時計表示 (→ P. 288)

時刻を表示します。

- シフトポジション表示 (→ P. 163)

- 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油 (約5 L 以下) を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

- トリップインフォメーション/メーター照度調整 (→ P. 77)

表示される項目は次のとおりです。

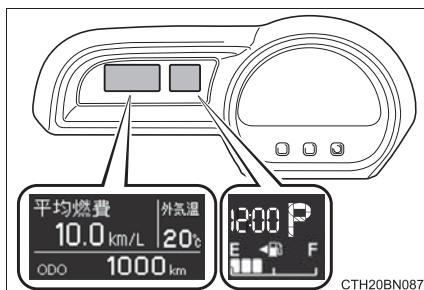
- ・ オドメーター
- ・ トリップメーター
- ・ メーター照度調整

- ドライブインフォメーション/ LDA (レーンディパーチャーアラート) 作動表示 (→ P. 78)

表示される項目は次のとおりです。

- ・ 平均燃費
- ・ 瞬間燃費
- ・ 航続可能距離
- ・ 走行時間
- ・ LDA (レーンディパーチャーアラート) 作動表示
- ・ アイドリングストップ時間★
- ・ 総アイドリングストップ時間★

- カスタマイズモード (→ P. 80)

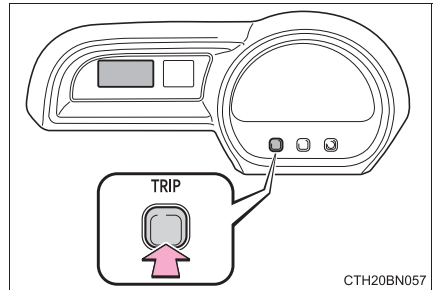


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

トリップインフォメーション／メーター照度調整

■ 表示の切りかえ

TRIP スイッチを押すごとに切りかわります。

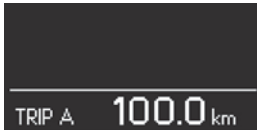


■ オドメーター



走行した総距離を表示します。

■ トリップメーター A*



リセットしてからの走行距離を表示します。
リセットするには、トリップメーター A の表示中に TRIP スイッチを長押しします。

■ トリップメーター B*



リセットしてからの走行距離を表示します。
リセットするには、トリップメーター B の表示中に TRIP スイッチを長押しします。

*区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

■ 照度調整表示

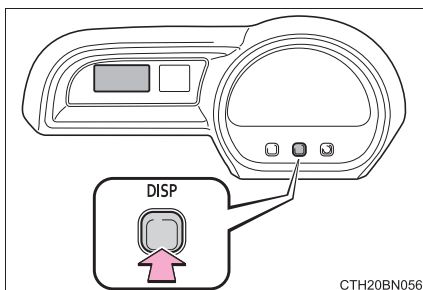


車幅灯点灯時にメーターの照度を表示します。
表示中に TRIP スイッチを長押しすることで、メーターの照度を調整できます。

ドライブインフォメーション / LDA (レーンディパーチャーアラート) 作動表示

■ 表示の切りかえ

DISPスイッチを押すごとに切りかわります。



CTH20BN056

■ 平均燃費



リセットしてからの平均燃費を表示します。

- ・リセットするには、平均燃費表示中に DISP スイッチを長押しします。
- ・表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 瞬間燃費



現在の瞬間燃費を表示します。

停車しているときは、「— .— km/L」が表示されません。

■ 航続可能距離



現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- ・運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境(気象、渋滞など)や運転方法(急発進、エアコンの使用など)に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。
- ・燃料給油量が少量(約 5L 以下)のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。(→ P. 82)

■ 走行時間



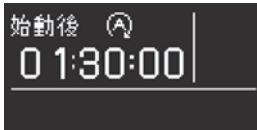
エンジン スイッチをイグニッション ON モードから OFF にするまでの走行時間を表示します。

■ LDA (レーンディパーチャーアラート) 作動表示



LDA (レーンディパーチャーアラート) (→ P. 198) の作動状況を表示します。

■ アイドリングストップ時間★



エンジン スイッチをイグニッション ON モードから OFF にするまでのアイドリングストップ時間 (Stop & Start システムによるエンジン停止時間) を通算で表示します。

■ 総アイドリングストップ時間★



リセットしてからのアイドリングストップ時間 (Stop & Start システムによるエンジン停止時間) を通算で表示します。

リセットするには、総アイドリングストップ時間表示中に DISP スイッチを長押しします。

■ 設定表示



メーターの表示設定や、各システムの設定などを切りかえることができます。(→ P. 80)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

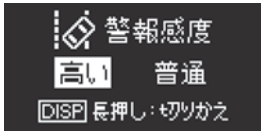


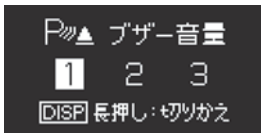

カスタマイズモード

■ 設定変更のしかた

- 1 設定表示中(→ P. 79)に DISP スイッチを長押しして、画面をカスタマイズモードに切りかえる
- 2 DISP スイッチを押して、設定を変更したい項目を表示させる
スイッチを押すごとに項目が切りかわります。
- 3 DISP スイッチを長押しして、設定を変更する
スイッチを長押しすることに表示が切りかわります。

カスタマイズモードを終了するには、画面に「設定終了」が表示されるまで DISP スイッチを押した後、スイッチを長押ししてください。

■ 設定変更できる項目

項目	設定内容	表示
LDA (レーンディパーチャアラート)の警報感度	高い	
	普通	
PKSB の ON/OFF ★	ON	
	OFF	
クリアランスソナーの ON/OFF ★	ON	
	OFF	
クリアランスソナーのブザー音量★	1	
	2	
	3	
先行車発進告知機能の ON/OFF	ON	
	OFF	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

項目	設定内容	表示
先行車発進告知機能の告知タイミング	早い	
	普通	
	遅い	
アイドリングストップ状態通知の ON/OFF ★	ON	
	OFF	
アイドリングストップ時間割り込み表示の ON/OFF ★	ON	
	OFF	
エコドライブインジケータランプの ON/OFF	ON	
	OFF	

知識

■ 外気温表示について

→ P. 289

■ メーター照度の減光制御について

ヘッドランプスイッチが ON になると、メーター照明が減光されます。ただし、照明をいちばん明るくした状態では、ヘッドランプスイッチが ON になってもメーター照明は減光されません。

■ バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

- 平均燃費
- 航続可能距離
- 走行時間
- アイドリングストップ時間★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ カスタマイズモード画面の操作について

しばらく操作しなかったときはカスタマイズモードが中断され、もとの画面に戻ります。

■ 燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

- 1 車両を平坦な場所に停車させる
- 2 TRIP スイッチを押してトリップインフォメーションの表示をオドメーター表示に切りかえる
- 3 エンジン スイッチを OFF にする
- 4 TRIP スイッチを押したまま、エンジン スイッチをイグニッション ON モードにする
- 5 そのまま約 5 秒間 TRIP スイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと、通常の表示にもどれば、更新は終了です。

警告

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

■ 設定を変更するとき

- メーター操作スイッチを使うときは、安全のため走行中に操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中にディスプレイを見るときは、必要最小限の時間にしてください。
- エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素 (CO) により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

各部の操作**3**

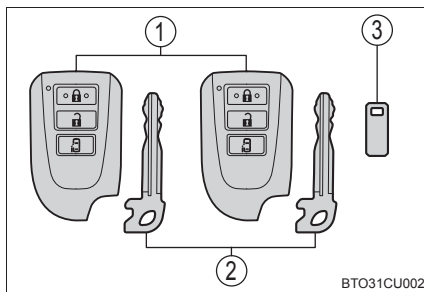
- 3-1. キー
 - キー 84
- 3-2. ドアの開閉、
ロックのしかた
 - スマートエントリー&
スタートシステム 87
 - ワイヤレスリモコン 96
 - 運転席側ドア
(フロントドア・
リヤドア) 98
 - スライドドア 101
 - バックドア 112
- 3-3. シートの調整
 - フロントシート 117
 - リヤシート 119
 - ヘッドレスト 125
 - シートアレンジ 128
- 3-4. ハンドル位置・ミラー
 - ハンドル 137
 - インナーミラー 138
 - ドアミラー 139
- 3-5. ドアガラスの開閉
 - パワーウィンドウ 142

キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

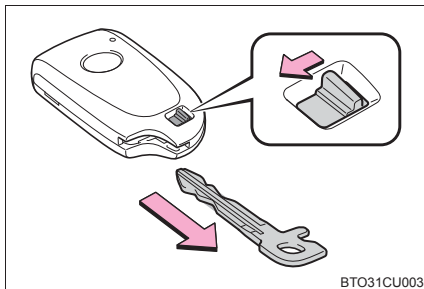
- ① 電子キー
 - ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P. 87)
 - ・ ワイヤレス機能の作動 (→P. 96)
- ② メカニカルキー
- ③ キーナンバープレート



メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除レバーをスライドしてキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→ P. 402)



知識

■メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

 **注意****■ キーの故障を防ぐために**

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- むらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■ キー取り扱いの注意

電波キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。
- 技適マークと認可番号は電池蓋を取り外した際、確認が可能です。

■ キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

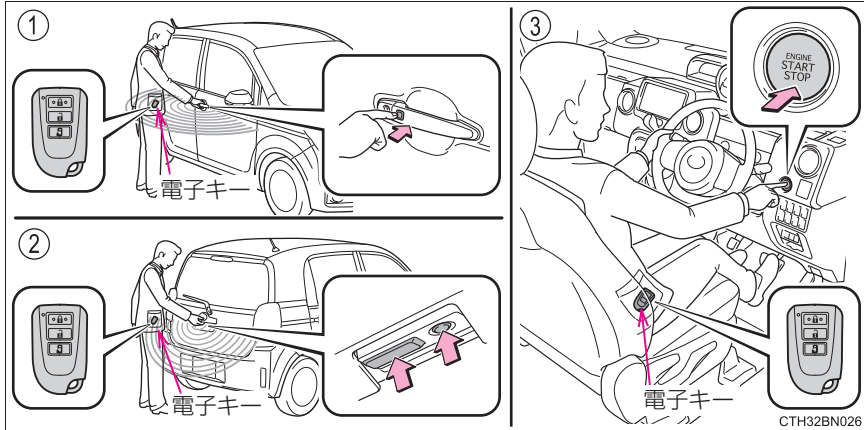
■ キーを紛失したとき

キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りのキーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

スマートエントリー&スタートシステム

機能概要

電子キーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。(必ず運転者が携帯してください)



- ① ドアを解錠・施錠する (→ P. 88)
- ② バックドアを解錠・施錠する (→ P. 88)
- ③ エンジンを始動する (→ P. 157)

知識

■ 作動の合図

ドアの解錠・施錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■ 解錠操作のセキュリティ機能

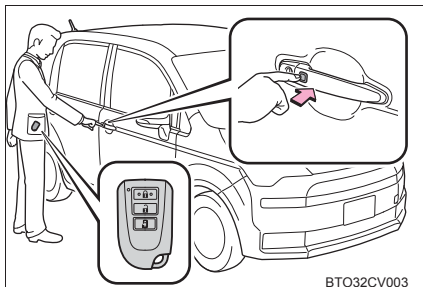
解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

ドアの解錠・施錠（運転席ドアハンドル・スライドドアハンドル）

ロック／アンロックスイッチを押して解錠する

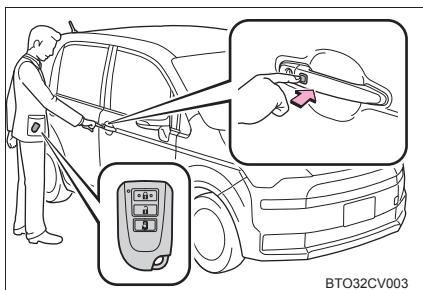
スイッチを確実に押してください。



ロック／アンロックスイッチを押して施錠する

スイッチを確実に押してください。

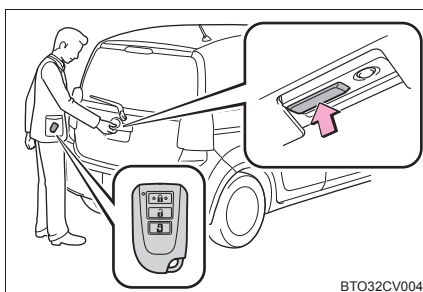
必ず施錠されたことを確認してください。



バックドアの解錠・施錠

バックドアオープンスイッチを押して解錠する

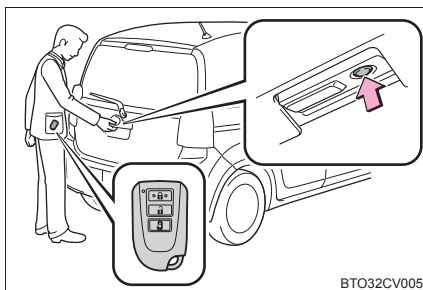
スイッチを確実に押してください。



ロックスイッチを押して施錠する

スイッチを確実に押してください。

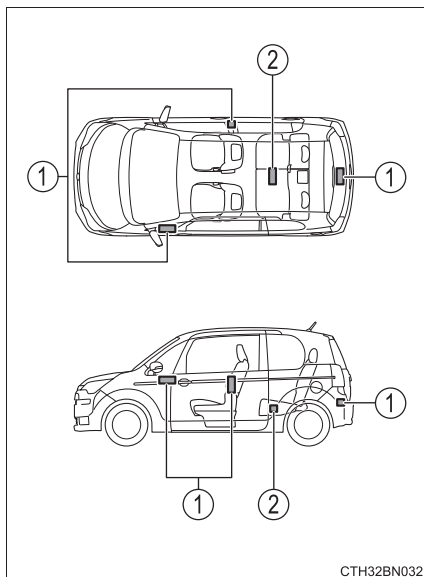
必ず施錠されたことを確認してください。



アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

- ① 車外アンテナ
- ② 車室内アンテナ



■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

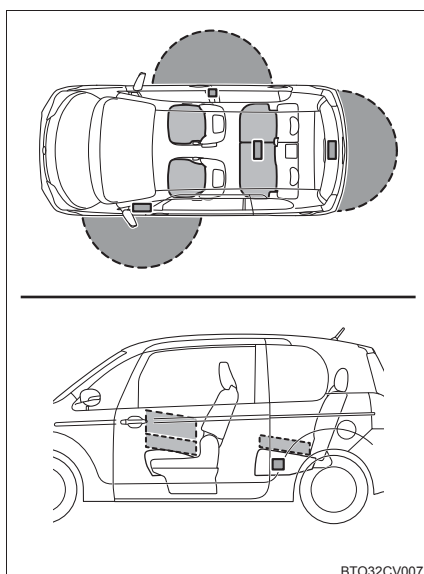
●：ドアの解錠・施錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します)

●：エンジン始動時またはモード切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

運転席シート座面から高さ 50cm 以内、助手席シート座面から高さ 15cm 以内、リヤシート座面から高さ 15cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。



 知識

■ 警告音と警告メッセージについて

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されることがあります。



警告メッセージが表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のとおりです。

警告音	警告内容	対処方法
車外から“ピー”と5秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
車内から“ピー、ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリモードにした（アクセサリモードのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める

■ 節電モード

節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの  を押しながら、 を 2 回押し、電子キーのインジケーターが 4 回点灯することを確認します。

- 節電モードの設定中はスマートエントリー&スタートシステムを使用できません。
- 節電モードを解除するには電子キーのいずれかのボタンを押してください。

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→ P. 402)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
 - ・ 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末 (PDA など)
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ドアの解錠・施錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
- 電子キーをポケットに携帯していても、ポケットの位置や形状によっては、正しく作動しないことがあります。（作動範囲：→P. 89）
- インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があります、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも解錠・施錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では、解錠できません。場合によっては、解錠操作を行ったドアと反対側のドア付近に電子キーがある場合でも、電子キーを検知し、解錠されることがあります。
- 車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジンの始動が可能になる場合があります。
- 電子キーが作動範囲内にある場合、洗車などで水圧にてドアハンドル表面にあるロック／アンロックスイッチが押され、ドアが解錠・施錠することがあります。（解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約30秒後に自動的に施錠されます）
- 車室内または車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなる場合があります。（ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します）

■施錠時の留意事項

- 電子キーを携帯して洗車などで高圧な水をドアハンドル表面にあるロック／アンロックスイッチにかけた場合、解錠・施錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から2m以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（キーの盗難に注意してください）
- 車内に電子キーがあるときに、洗車機で洗車するなどして高圧な水をドアハンドル表面にあるロック／アンロックスイッチにかけた場合、車外のブザーが吹鳴することがあります。
- ドアハンドル表面にあるロック／アンロックスイッチに氷や雪、泥が付着した場合、ロック／アンロックスイッチが押せない場合があります。押せない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。
- ロック／アンロックスイッチを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

■ 解錠時の留意事項

- ドアハンドル上のロック／アンロックスイッチを押しながらドアハンドルを引いたときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどしてから再度ロック／アンロックスイッチを押し、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 電子キーを携帯して洗車などで高圧な水をドアハンドル表面にあるロック／アンロックスイッチにかけた場合、解錠・施錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（キーの盗難に注意してください）
- 作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ロック／アンロックスイッチを押してから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。
- ロック／アンロックスイッチを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

■ 長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができません。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■ システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります：→ P. 90）

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

- ドア・バックドアの解錠・施錠：→ P. 402
- エンジンの始動：→ P. 403
- 節電モードが設定されている：→ P. 91

■電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は1～2年です。
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「キーバッテリー 残りわずか」が表示されます。新しい電池に交換してください。(→P. 324)
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。(→P. 324)
 - ・スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・作動範囲が狭くなった
 - ・電子キーのLEDが点灯しない
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。
 - ・TV
 - ・パソコン
 - ・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・電気スタンド
 - ・電磁調理器

■電池が切れたとき

→P. 324

■マルチインフォメーションディスプレイに「車室内にキーがあります」が表示されたとき

車内に電子キーを置いたまま、次のいずれかの操作を行いました。

- ・スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした
- ・フロントドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした

車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「キーが見つかりません」が表示されたとき

キーの所在を確認してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー&スタートシステムチェック」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。

ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■販売店で設定可能な機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧：→P. 426)

■ 販売店でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

- ドアの解錠・施錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの解錠・施錠ができます。(→ P. 96, 402)
- エンジンの始動・エンジン スイッチのモード切りかえ：→ P. 403
- エンジンの停止：→ P. 158

⚠ 警告**■ 電波がおよぼす影響についての警告（スマートエントリー&スタートシステムアンテナ）**

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→ P. 89）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

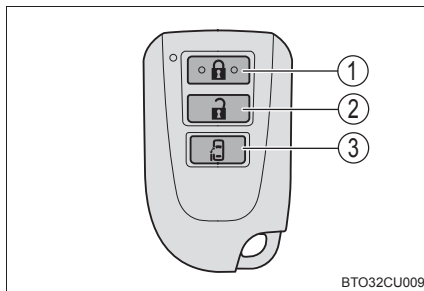
スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

ワイヤレスリモコン

機能概要

ドアを解錠・施錠できます。

- ① 全ドアを施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。
- ② 全ドアを解錠する
- ③ パワースライドドア開閉
(約 1 秒長押し)
ドア解錠時に作動させることができます。
販売店で設定することにより、施錠時でも開作動させることができます。(→ P. 427)



知識

■ 作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとする、ブザーが鳴ります。

ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■ 予約ロック機能

スライドドアを除くすべてのドアが閉まっている状態で、パワースライドドアが自動閉作動中にワイヤレスリモコンで施錠操作を行うと、スライドドアを除くすべてのドアが施錠され、スライドドアも閉まると同時に施錠されます。

■ 解錠操作のセキュリティ機能

→ P. 87

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

→ P. 91

■ ワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

ドアの解錠・施錠：→ P. 402

■ 電池の消耗について

→ P. 94

■ 電池が切れたとき

→ P. 324

■ キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■ 電子キーの状態や、エンジン スイッチのモードに関するメッセージが表示されたとき

車内への電子キーの閉じ込みや、同乗者による電子キーの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、電子キーやエンジン スイッチなどの状態の確認を促すメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。表示内容に従ってすみやかに対処してください。

■ 販売店で設定可能な機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 427)

⚠ 注意**■ 予約ロック機能について**

予約ロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、ワイヤレスリモコンを車内にもどすと、車内にワイヤレスリモコンが閉じ込められます。
予約ロック機能を使用するときは、必ずワイヤレスリモコンを携帯した状態で行ってください。

運転席側ドア（フロントドア・リヤドア）

ドアの解錠／施錠

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレス機能、メカニカルキー、ドアロックスイッチを使って解錠・施錠できます。

◆ スマートエントリー&スタートシステム

→ P. 87

◆ ワイヤレス機能

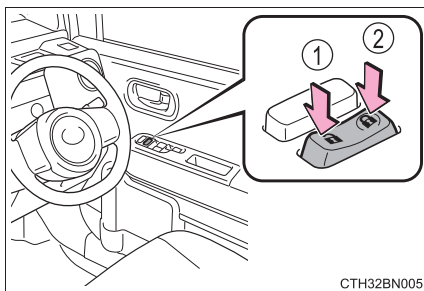
→ P. 96

◆ メカニカルキーでの解錠・施錠（運転席）

メカニカルキーを使ってドアの解錠・施錠ができます。（→ P. 402）

◆ ドアロックスイッチ

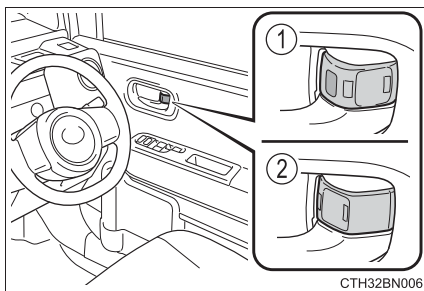
- ① 全ドアを解錠する
- ② 全ドアを施錠する



◆ ロックレバー

- ① ドアを解錠する
- ② ドアを施錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



キーを使わずに外側から運転席ドアを施錠するとき

- 1 ロックレバーを施錠側にする
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

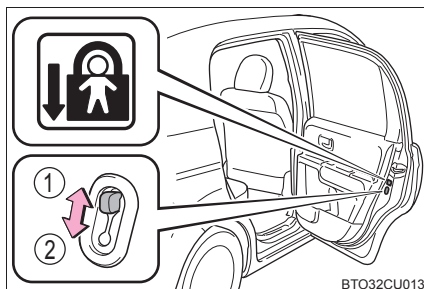
キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター（リヤ席ドア）

施錠側になると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

- ① 解錠
- ② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。



知識

■ 半ドア走行時警告

いずれかのドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると、開いているドアがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

 **警告****■ 事故を防ぐために**

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
ドアが開き車外に放り出されるおそれがあります。
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときの留意事項

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

スライドドア

ドアの解錠／施錠

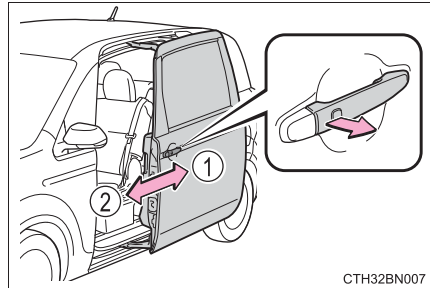
ドアハンドルやパワースライドドアスイッチ、ワイヤレス機能を使って開閉することができます。

◆ スライドドアハンドル

① 開く

② 閉じる

ロックが解除するまで確実にドアハンドルを引きます。



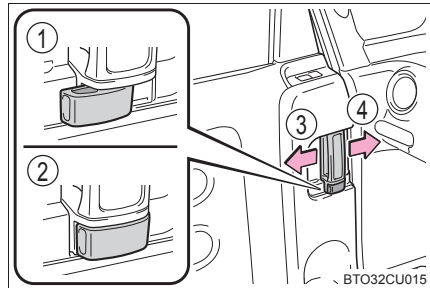
◆ インサイドドアハンドル、ロックレバー

① 解錠

② 施錠

③ 開く

④ 閉じる



◆ ワイヤレス機能

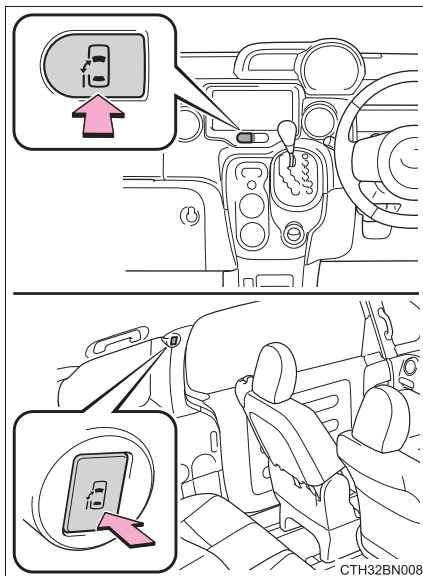
→ P. 96

◆ パワースライドドアスイッチ

スイッチ（約 1 秒長押し）

開閉作動中に再度スイッチを押すと、
反転作動します。

ただし、作動開始から約 1 秒間は反転
作動に切りかわりません。



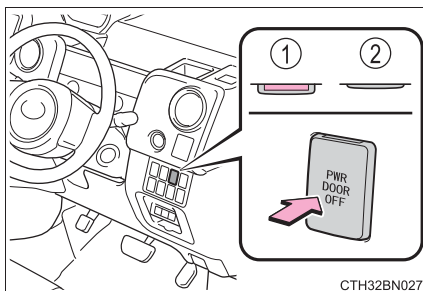
パワースライドドアを使用するときは

パワースライドドアメインスイッチを ON にする

① ON

ON にすると、スイッチ上部にオレンジ色のマークが表れます。

② OFF



 知識

■ 半ドア走行時警告

いずれかのドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると、開いているドアがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 給油口ストッパー

給油口が開いているときは、パワースライドドアは作動しません。

■ 中間ストッパー

- スライドドアのドアガラスが大きく開いていたり、給油口が開いていると、スライドドアは途中までしか開きません。(中間ストッパー位置で停止します)
- 中間ストッパー位置で停止したスライドドアを全開にするときは、ドアガラスおよび給油口を閉じ、いったんスライドドアを全閉にしてから、再度スライドドアを開けてください。

■ スライドドアイージークローザー

スライドドアが半ドア状態になったとき、イーージークローザーが作動し、スライドドアが自動で完全に閉まります。

- エンジン スイッチが OFF になっていても、イーージークローザーは作動します。
- 車内や車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イーージークローザーが作動しないことがあります。
- イーージークローザーが作動中でも、車内のドアレバーや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。(ロックレバーが施錠側のときを除く)

■ パワースライドドアの作動可能条件

パワースライドドアメインスイッチが ON で、次の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

- スライドドアのドアロックが解錠されている
- 給油口が閉じている
- エンジン スイッチがイグニッション ON モードのときは上記に加え、車速が 3km/h 以下かつ次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。ただし、ワイヤレスリモコンによる開閉はできません。
 - ・ シフトレバーが P のとき
 - ・ パーキングブレーキがかかっているとき
 - ・ ブレーキペダルを踏んでいるとき

■パワースライドドアの作動について

- パワースライドドアメインスイッチがONのとき、ハンドルを操作してブザーが鳴る位置まで操作すると自動で作動します。
- 作動開始時にブザーが鳴ります。また、閉作動中はブザーが断続的に鳴ります。
- パワースライドドアメインスイッチがOFFのときは、パワースライドドアは作動しませんが、手動で開閉できます。
- パワースライドドアの自動開閉中に、連続して3回以上反転作動させると、ブザーが鳴り、その位置で作動を停止します。
- パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り、その位置から自動的にドアは反対方向に動きます。ただし、自動で開けているときに全開位置から約20cm手前の範囲で異常を感知すると、その位置で作動を停止する場合があります。
- 連続して2回以上異常を感知すると、ブザーが鳴り、手動操作に切りかわります。このとき約12秒間スライドドアにブレーキをかけ、ドアの速度を抑制します。もう一度ドアを自動で作動させるときは、メインスイッチをOFFにしたあと、ドアをいったん手動で全閉または全開にしてから行ってください。

■給油口開警告ブザー

パワースライドドア開閉中に給油口を開けるとブザーが鳴り、手動操作に切りかわります。このとき約12秒間スライドドアにブレーキをかけ、ドアの速度を抑制します。

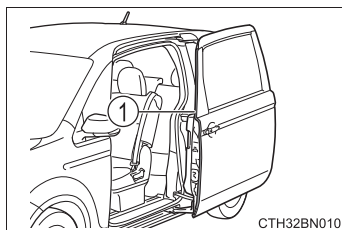
■バッテリーを再接続したときは

パワースライドドアを適切に作動させるために、下記の初期設定を行ってください。

- スライドドアのドアハンドルを操作して、手動で一度全閉にします。

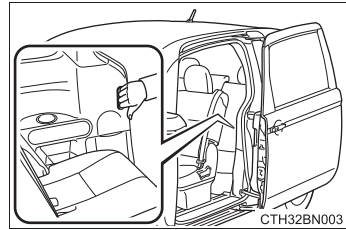
■挟み込み防止機構

パワースライドドアの前端部には、センサー(①)が付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機構が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に動き、全開位置で停止します。



■ デッキサイドグリップ

リヤ席へ乗るときにお使いください。

**■ 販売店で設定可能な機能**

パワースライドドアスイッチの操作方法などの変更ができます。
(カスタマイズ一覧：→P. 427)

 **警告****■ 走行中の警告**

走行中は次のことをお守りください。

お守りいただかないと思いきやドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず着用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを操作しない

■ お子さまを乗せているときは

走行中は次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまを車内に残さないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。
不意にパワースライドドアが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。(パワースライドドアメインスイッチを OFF にする、もしくは、スライドドアのドアロックを施錠することでパワースライドドアは作動しません)

■ スライドドアの操作にあたって

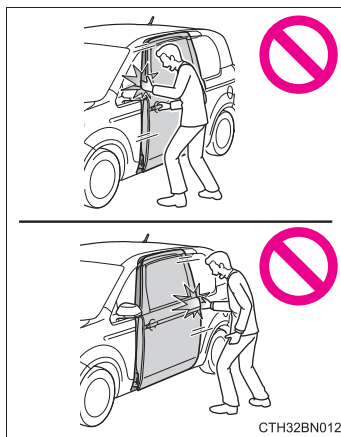
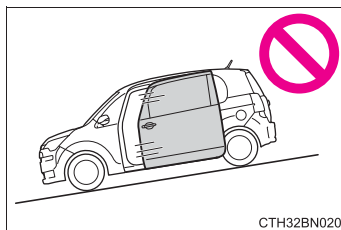
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

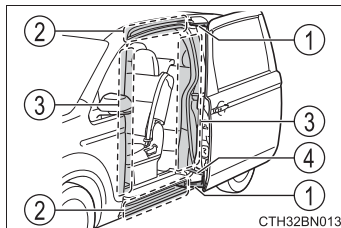
- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手、足、顔などを出さないでください。
- 人がいるときは安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- スライドドアを開けるときは、必ず全開位置まで開き固定してください。(全開にするとスライドドアがストッパーで固定されます)半開状態ではスライドドアが確実に固定されないため、傾斜地などで不意に動き出すおそれがあります。
- スライドドアが給油口ストッパーの位置で停止した場合、スライドドアは固定されません。坂道などではドアが不意に動き出すおそれがありますので、十分注意してください。

警告

- 傾斜した場所ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。ドアが体にあたりたり挟んだりしないように注意してください。
- 下り坂で乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。ドアが突然動き出すおそれがあります。
- スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



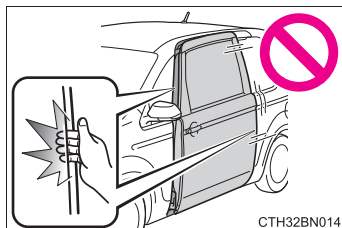
- スライドドアのアーム (①) やレール (②) やピラー部 (③) および配線部 (④) には、手足をかけないでください。



⚠ 警告

■ スライドドアイーゼークローザーについて

- スライドドアが半ドア状態になったとき、イーゼークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。(→ P. 103)

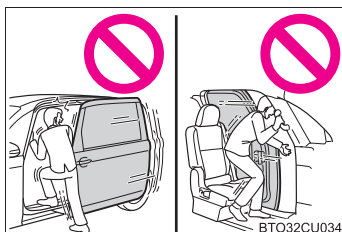


- イーゼークローザーは、パワースライドドアメインスイッチが OFF であっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。
- ロックレバーが施錠側のとき、スライドドアイーゼークローザー作動中にインサイドドアハンドルを引くとスライドドアイーゼークローザーが半ドア状態で停止し、開けられません。指などを挟まれないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ パワースライドドアについて

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

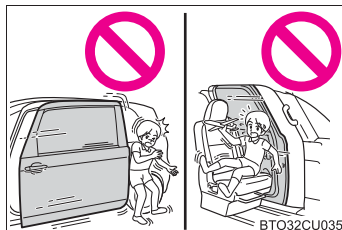
- パワースライドドア作動中に乗り降りしないでください。



- ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

警告

- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、パワースライドドアを作動させないでください。



- 自動開閉中にパワースライドドアメインスイッチを OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 自動開閉中に作動可能条件（→ P. 103）を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、坂道などの傾斜した場所ではスライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 自動開閉中、または全開以外のときは、スライドドアが急に反転作動したり、動きだすおそれがあります。必ず全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
 - ・自動作動中、障害物に干渉したとき
 - ・エンジン停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- タイヤ交換などをする際は、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。OFF にしないと、いたずらや誤ってスイッチにふれたときにスライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。
- ドアガラスを開けた状態で自動開閉するときは、絶対に窓から手足や顔などを出さないでください。

 **警告****■ 挟み込み防止機能**

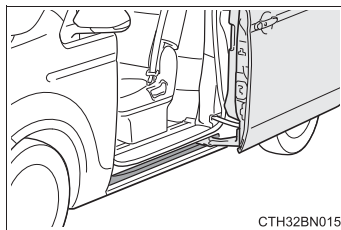
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

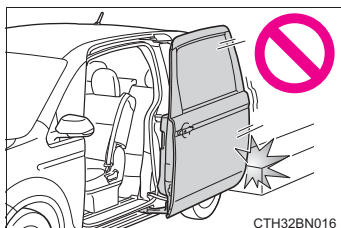
- 挟み込み防止機構を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⚠ 注意**■ スライドドアについて**

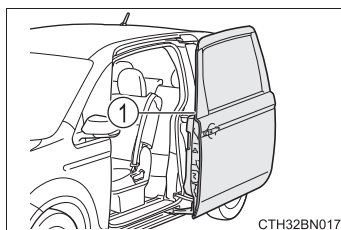
- スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。
- 走行するときやドアを開閉するときは、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。
- スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。



- スライドドアを開けるときは縁石や壁などにあたらないように注意してください。スライドドアを損傷するおそれがあります。

**■ パワースライドドアについて**

パワースライドドア前端部のセンサー（①）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、ドアはただちに停止します。



バックドア

バックドアは次の方法で解錠・施錠および開けることができます。

ドアの解錠／施錠

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレス機能、メカニカルキー、ドアロックスイッチを使って解錠・施錠できます。

◆ スマートエントリー&スタートシステム

→ P. 87

◆ ワイヤレス機能

→ P. 96

◆ メカニカルキーでの解錠・施錠

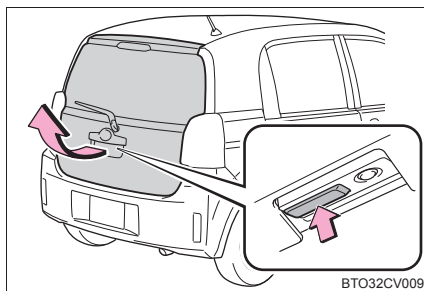
→ P. 402

◆ ドアロックスイッチ

→ P. 98

車外からバックドアを開ける

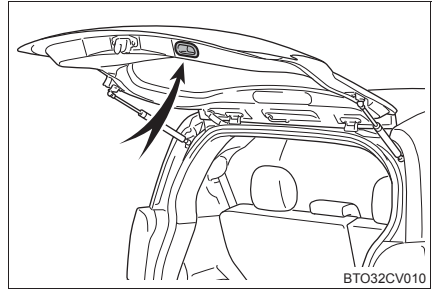
バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる



BTO32CV009

バックドアを閉めるときは

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

**知識****■半ドア走行時警告**

いずれかのドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると、開いているドアがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ラゲージルームランプ

バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

 **警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行する前に

- 走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

- 走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

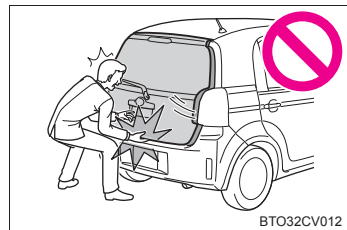
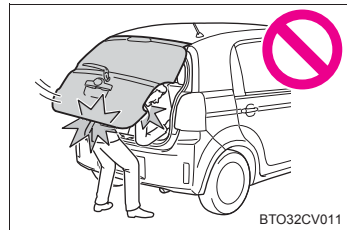
⚠ 警告

■ バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

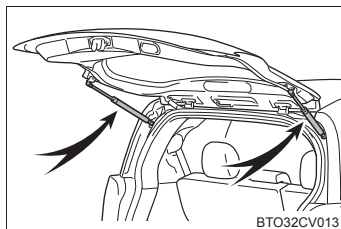
- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。
- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けしないでください。
バックドアの重量が重くなり、開けたあとにバックドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。



⚠ 注意**■ ダンパーステアについて**

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステアが取り付けられています。ダンパーステアの損傷や作動不良を防ぐため次のことをご守りください。

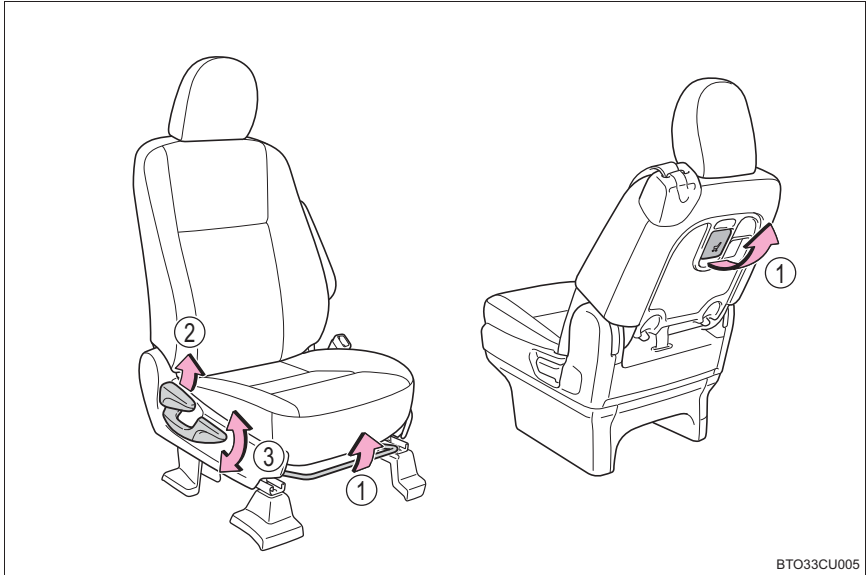
- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステアのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けない
- ステアに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



フロントシート

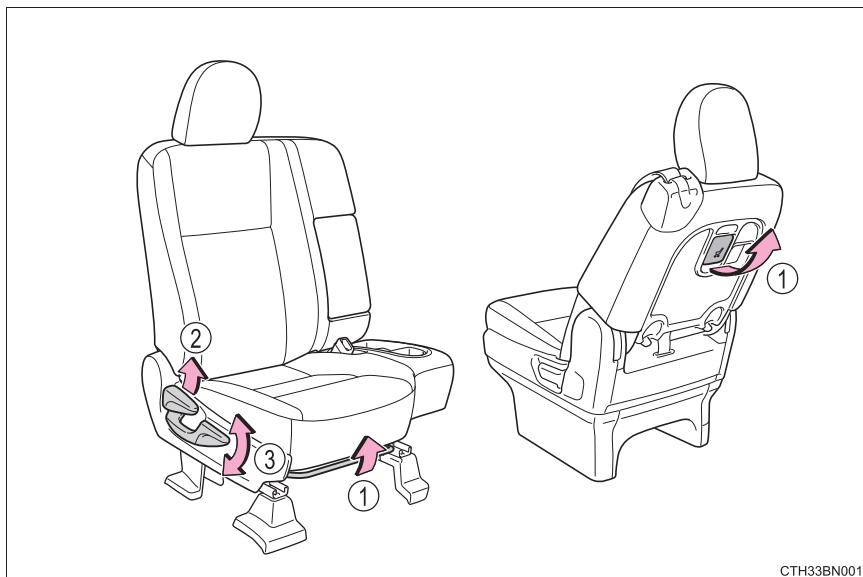
調整のしかた

▶ 分割タイプ



- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整
- ③ シート全体の上下調整
(運転席のみ)

▶ ベンチタイプ



CTH33BN001

- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整
- ③ シート全体の上下調整
(運転席のみ)

⚠ 警告

■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

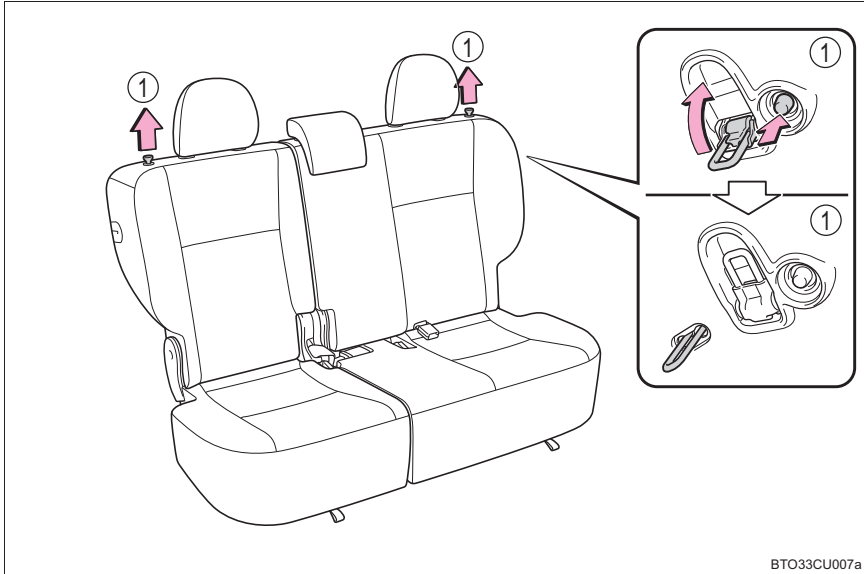
■ リクライニング調整について

- 走行中は背もたれを必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

■ 前後調整の操作をするとき

- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

リヤシート

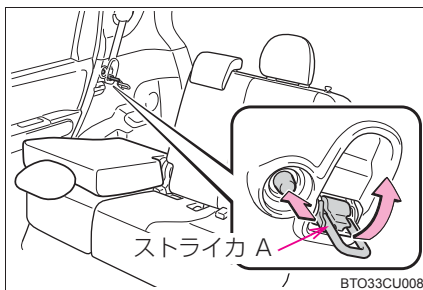


① リクライニング調整★

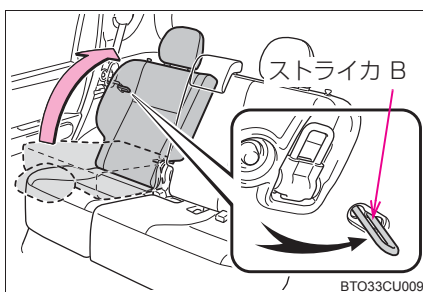
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リクライニングのしかた★

- 1 シートを前倒しする(→P. 120)
- 2 シートバックストライカ解除ボタンを押しながらストライカ A を格納する

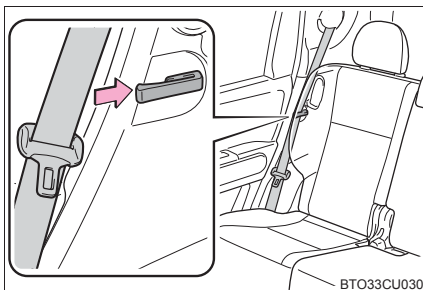


- 3 シートを起こしストライカ B に固定する



前倒しのしかた

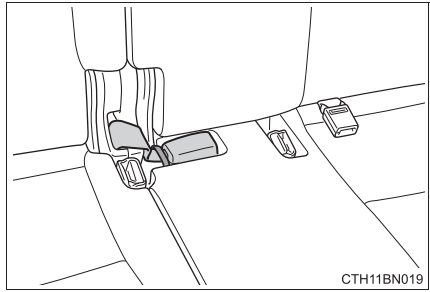
- 1 左右席のシートベルトをベルトハンガーにかける



- 2 中央席シートベルトを分離する (→ P. 28)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- 3 中央席シートベルトのバックルをポケットに格納する



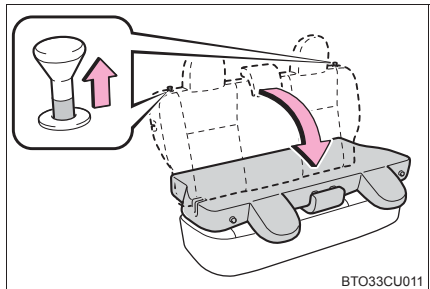
- 4 ヘッドレストをいちばん下まで下げる (→ P. 125)

- 5 背もたれを倒す

▶ 一体可倒式

固定ノブを引き、背もたれを前方に倒す

もどすときは背もたれを起こし、固定してください。

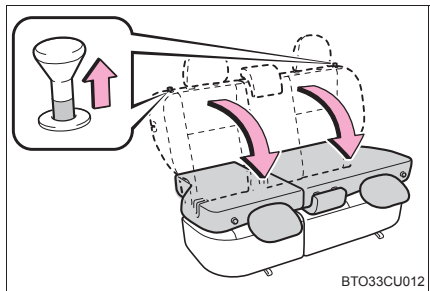


▶ 分割可倒式

固定ノブを引き、背もたれを前方に倒す

左右分割して倒します。

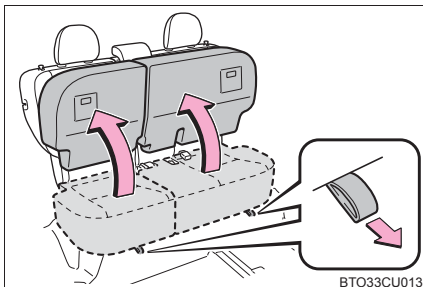
もどすときは背もたれを起こし、固定してください。



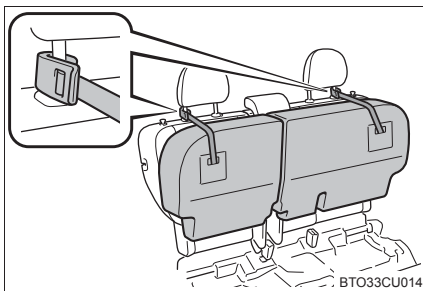
チップアップのしかた★

- 1 シートクッション下のチップアップストラップを引きロックを解除し、クッションを持ち上げる

左右分割してチップアップします。



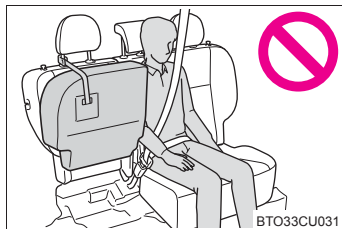
- 2 シートクッション裏面にあるポケットからシート固定ベルトを取り出し、フックをヘッドレストステーにかける



⚠ 警告

■ チップアップ時の走行について

走行するときはチップアップした状態で、中央のシートに座らないでください。事故のときにシートクッション部が体を十分に支えきれず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■ シートを調整するとき

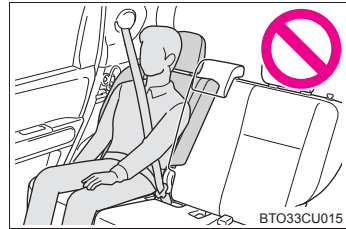
- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告**■ リクライニング調整について**

走行するときは背もたれを、シート固定ストライカー A (→ P. 120) で固定している状態で使用してください。

背もたれを倒していると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■ 背もたれを前倒しするとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- 操作するときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

警告**■ 背もたれをもとの位置にもどしたあとは**

次のことを必ずお守りください。

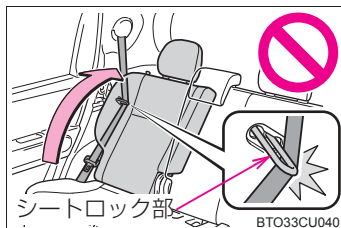
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する

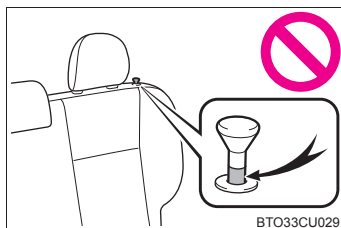
● シートベルトを巻き込まないように、左右席のシートベルトをハンガーにかけてください。(→ P. 120)

また、シートベルトをシートロック部に挟み込まないようにしてください。

シートベルトが傷付くおそれがあります。



● ロック解除ノブの赤ラベルが見えていないことを確認する



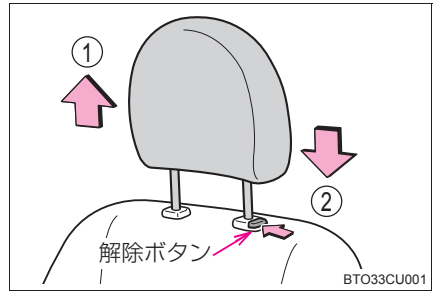
ヘッドレスト

フロント席／リヤ外側席★

上下調整

- ① 上げる
- ② 下げる

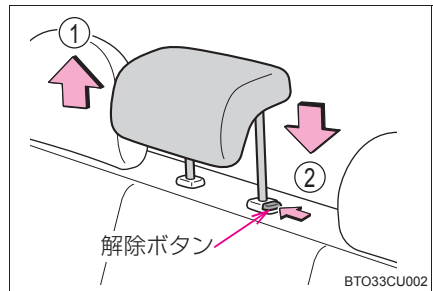
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



リヤ中央席

- ① 上げる
- ② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

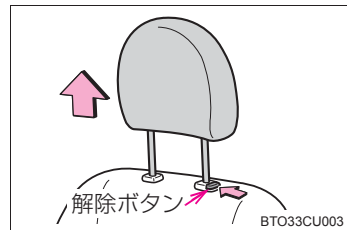


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ ヘッドレストを取りはずすとき

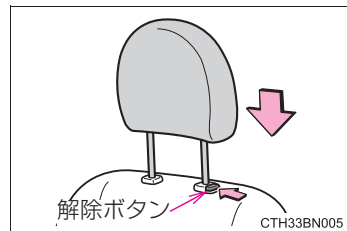
解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。



■ ヘッドレストを取り付けるとき

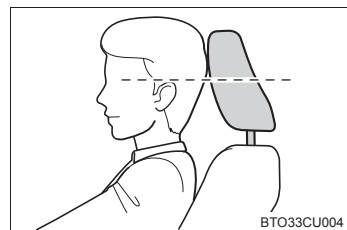
ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



■ ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■ リヤ中央席について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

 **警告****■ヘッドレストについて**

次のことをお守りください。

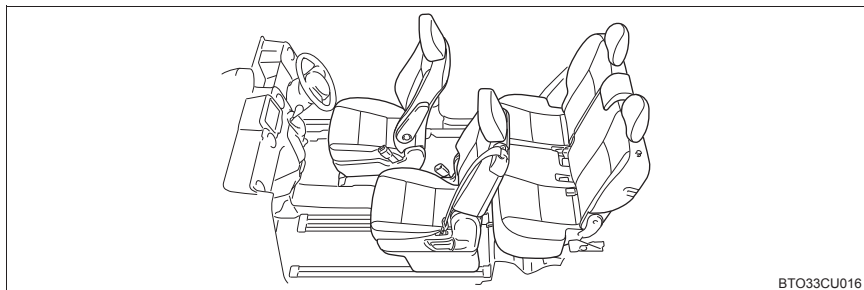
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートアレンジ

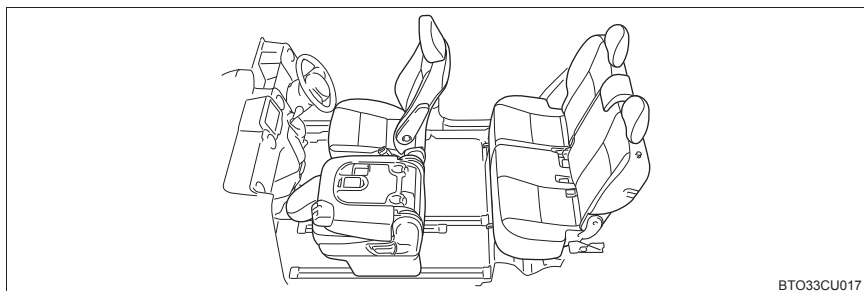
◆ トライアングルモード

助手席をいちばんうしろまで移動する (→ P. 130)



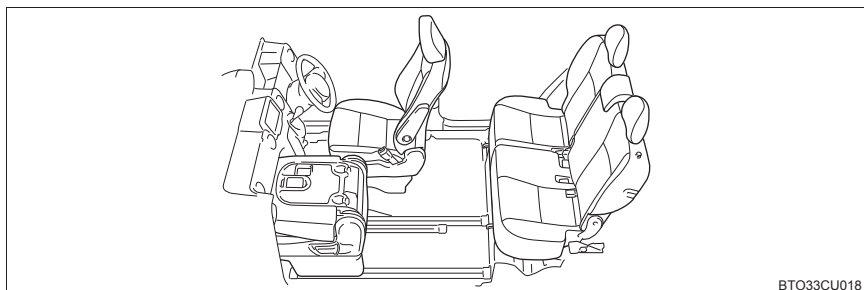
◆ テーブルモード

助手席を前倒しする (→ P. 130)



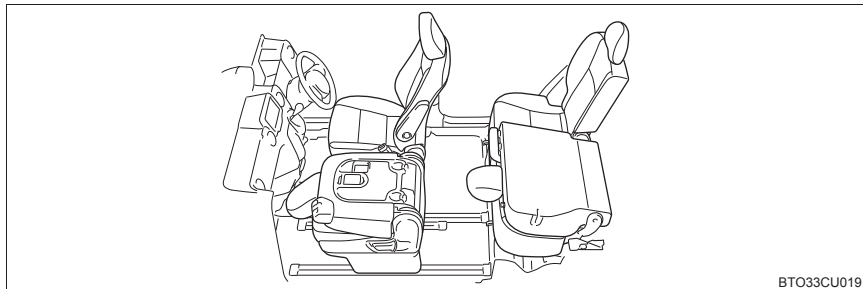
◆ フリースペースモード

(→ P. 131)



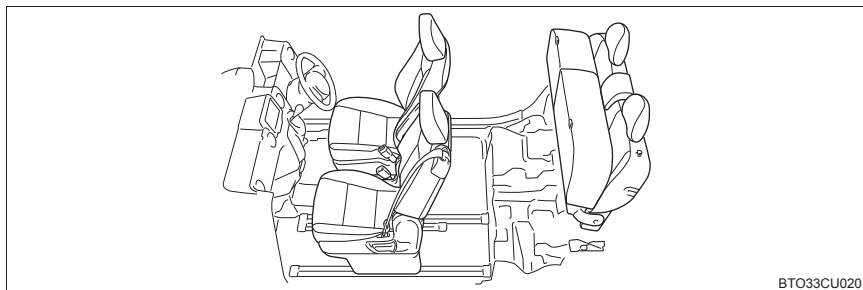
◆ ロングラゲージモード★

(→ P. 132)



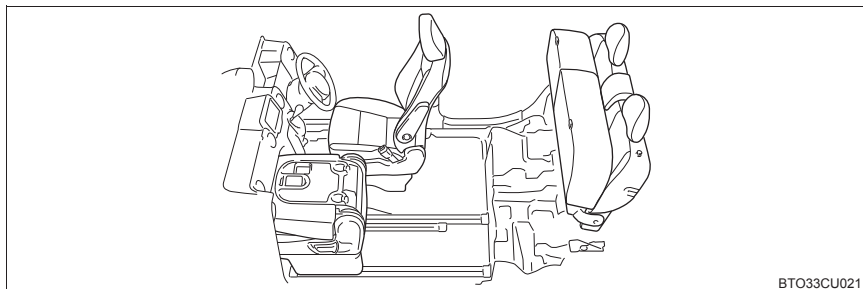
◆ トールラゲージモード★

リヤシートをチップアップする (→ P. 122)



◆ ビッグスペースモード★

(→ P. 132)



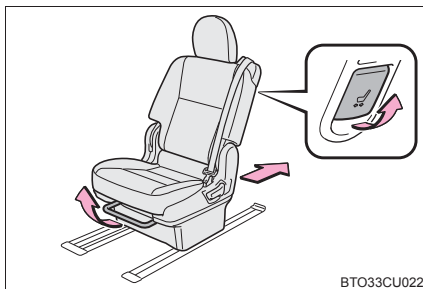
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

トライアングルモードにするには

■ 助手席をいちばんうしろまで移動する

- 1 スライドストッパーをはずす (→ P. 135)
- 2 レバーを引き、シートをスライドする

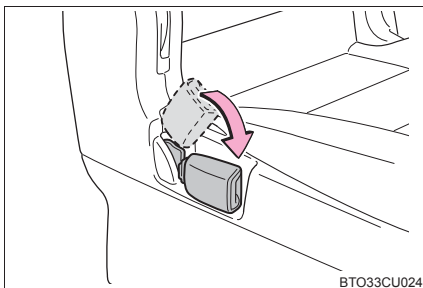
スライドするときはシートに手をそえてください。



テーブルモードにするには

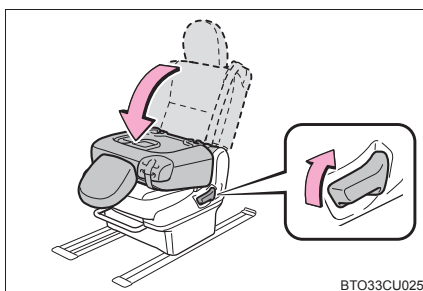
■ 助手席を前倒しする

- 1 助手席シートベルトのバックルを格納する



- 2 レバーを引き、背もたれを前に倒す

前に倒すときはシートに手をそえてください。



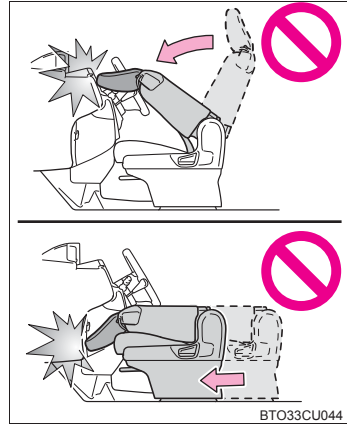
⚠ 注意

■ テーブルモード時の助手席の前後位置について

次のことをご守りください。

ご守りいただかないと、シートの故障などの原因につながるおそれがあります。

- 助手席を前倒しする時は、シートがダッシュボードなどと干渉しないようにシートの前後位置に注意してください。
- テーブルモード使用中はシートがダッシュボードなどと干渉する位置で使用しないでください。



■ フリースペースモードにするには

1 助手席シートベルトのバックルを格納する (→ P. 130)

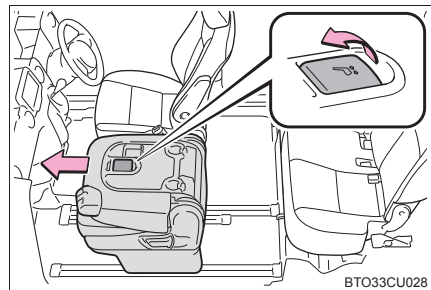
2 助手席ヘッドレストをはずす (→ P. 125)

取りはずしたヘッドレストは走行の支障にならないようラゲージルームに保管してください。

3 助手席を前倒しする (→ P. 130)

4 レバーを引き、シートをスライドする

スライドするときはシートに手をそえてください。



ロングラゲージモードにするには★

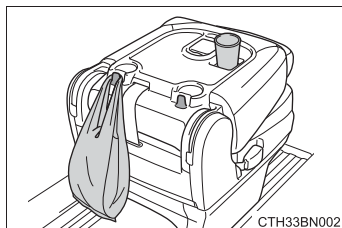
- 1 助手席を前倒しする (→ P. 130)
- 2 リヤシートを前倒しする (→ P. 120)

ビッグスペースモードにするには★

- 1 助手席をフリースペースモードの状態にする (→ P. 131)
- 2 リヤシートをチップアップする (→ P. 122)

知識**■ テーブルモード時の助手席シートバックボードについて**

図のようにカップホルダー、買い物フックとして使用できます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告**■ シートアレンジについて**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 必ず平坦な場所でシフトレバーをPに入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。
- 走行中はシートアレンジ操作をしないでください。
- シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。
- シートの間にシートベルト、バックルが挟みこまれていないか確認してください。

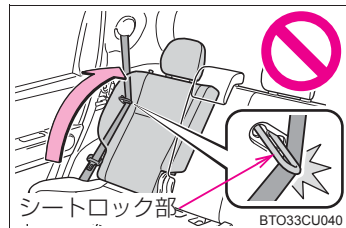
■ 背もたれの前倒しについて（リヤシート）

● 倒した背もたれの上に人をのせて走行しないでください。
ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 倒した背もたれの上には絶対に乗らないでください。シートが損傷したり、思わぬけがをするおそれがあります。

● 背もたれを倒すとき、もどすときはシートベルトを巻き込まないように左右席のシートベルトをハンガーにかけてください。（→ P. 120）

また、シートベルトをシートロック部に挟み込まないようにしてください。
シートベルトが傷付くおそれがあります。

**■ テーブルモードについて**

● 走行中はテーブルとして使用しないでください。
テーブルの上に置いている物が飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● テーブルの上には絶対に乗らないでください。シートが損傷したり、思わぬけがをするおそれがあります。

⚠ 注意**■ シートアレンジについて**

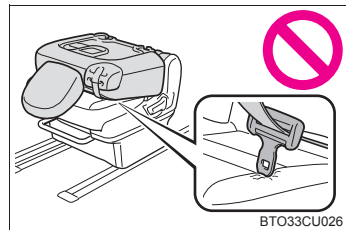
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。
- シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。
- シートレールの上にマットなどを敷かないでください。

■ 背もたれの前倒しについて

背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。

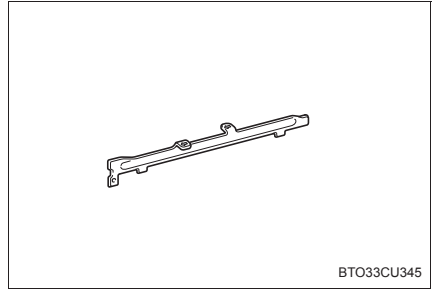
■ テーブルモードについて

- 助手席シートの前後調整をするときは、シートがインストルメントパネルにあたらぬように注意してください。
- 背もたれを前倒するとき、または、もどすときは、助手席グローブボックスのフタを必ず閉じてください。ヘッドレストがフタにあたるおそれがあります。
- 背もたれを前倒するとき、シートベルトのバックルを収納してください。シートにあとが残ることがあります。
- 背もたれを前倒するとき、シートベルトのプレートの向きに注意してください。シートにプレートのあとが残ることがあります。
- シートベルトがロックし背もたれが起こせないときは、背もたれを途中まで起こし、いったん倒し、再度背もたれを起こしてください。または、一度シートベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくりと引き出してってください。



スライドストッパー

スライドストッパーを使用することで、助手席をうしろに移動した際、リヤシートに乗車している人の脚などを挟み込むのを防止します。



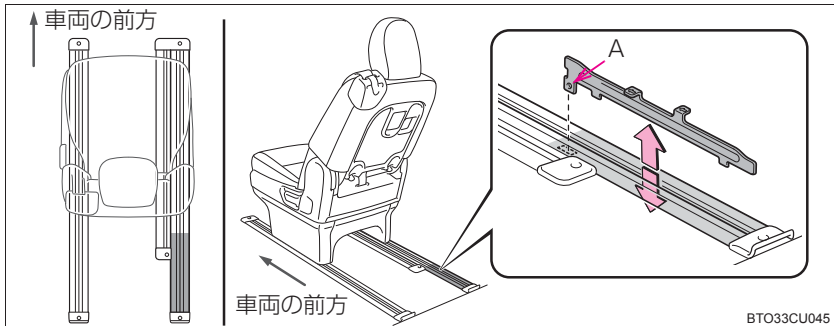
BTO33CU345

知識

■ スライドストッパーについて

ストッパーを取りはずすと、助手席の前後位置調整範囲を拡大することができます。

- ストッパーを取り付けるときは、ストッパーのツメをレール内の穴に挿し込みます。A部が車両の前方に向くように取り付けてください。



BTO33CU045

- 取りはずしたストッパーは、ラゲージルーム内の工具などと一緒に収納してください。(→ P. 376, 388)

警告**■ スライドストッパーについて**

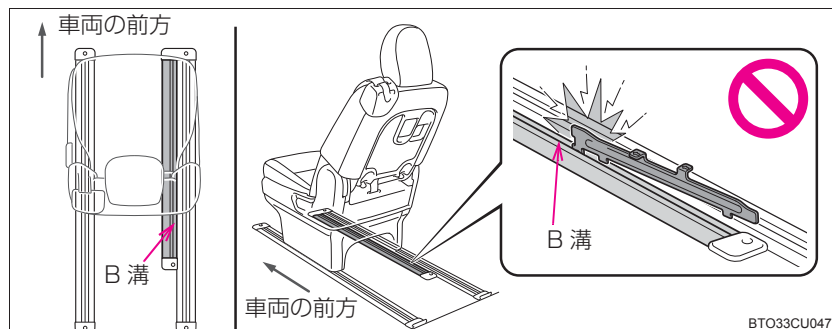
B 溝にストッパーを押し込まないでください。

押し込んだまま助手席を動かすと車両の損傷におよぶか、次のようなおそれがあります。

- B 溝には助手席シートの配線が通っているため、断線・ショートによる車両火災につながるおそれがあり危険です。

また、車両衝突時にシートベルトプリテンショナーが作動しなかったり、SRS サイドエアバッグ装着車はエアバッグが展開しないなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

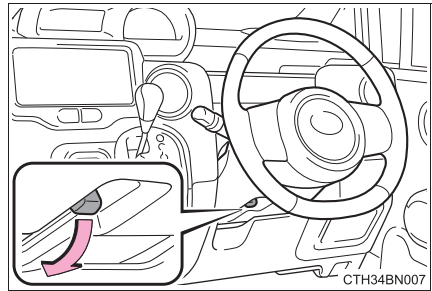
- 助手席をうしろに移動した際、ストッパーが正しく固定されていないため、リヤシートに乗車している人の脚などを挟み込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



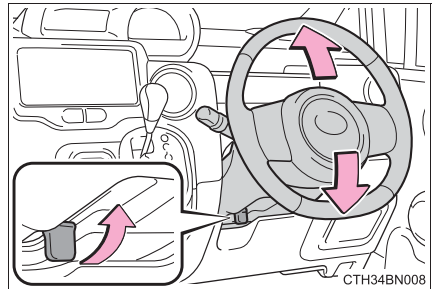
ハンドル

調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



- 2 ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする
位置が決定したら、レバーを上げて
ハンドルを固定してください。



⚠ 警告

■ 走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

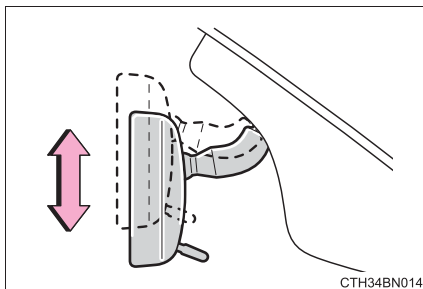
ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然変わり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

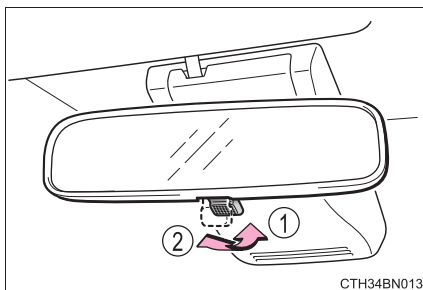
インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

- ① 通常使用時
- ② 防眩時



警告

■ 走行中の留意事項

運転中はミラーの調整をしないでください。

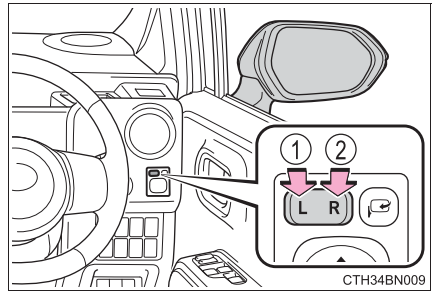
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

調整のしかた

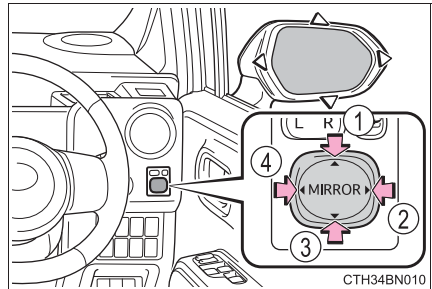
- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

- ① 左
- ② 右



- 2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

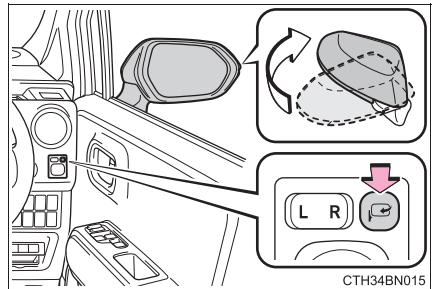
- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左



ドアミラーを格納する

ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。



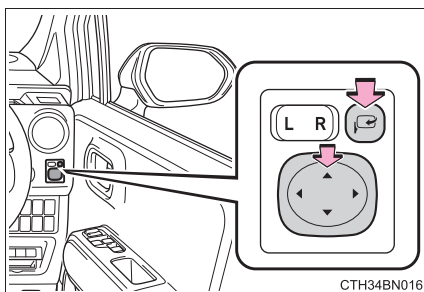
オート電動格納機能

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーが自動的に格納・復帰します。また、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにすることにより、復帰させることができます。

■ オート電動格納機能の ON（作動）・OFF（非作動）切りかえ

次の手順で機能の ON（作動）・OFF（非作動）が交互に切りかわります。

- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 ミラー格納スイッチと鏡面調整スイッチの▲を、同時に約2秒以上押す



知識

■ 鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき

■ バッテリー端子の脱着をしたとき

オート電動格納機能の設定がリセットされ、ON の状態にもどります。機能を OFF にするときは、再度、オート電動格納機能の ON・OFF 切りかえを行ってください。

■ ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 266）

■ 寒冷時にオート電動格納機能を ON（作動）で使用するとき

寒冷時にオート電動格納機能を ON（作動）で使用していると、ドアミラーが凍結して、自動で格納・復帰ができないときがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、スイッチを押してドアミラーを格納・復帰（→ P. 139）させるか、手で動かしてください。

 **警告****■ 走行中の留意事項**

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウィンドウ

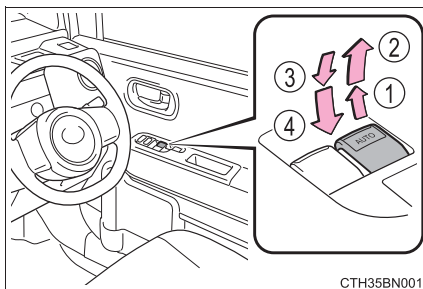
開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

- ① 閉める
- ② 自動全閉（運転席）※
- ③ 開ける
- ④ 自動全開（運転席）※

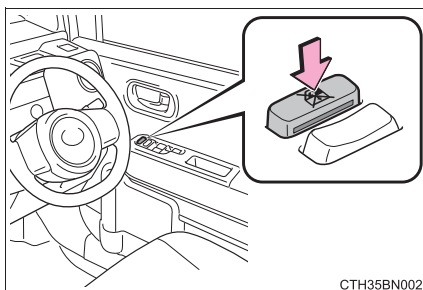
※途中で停止するときには、スイッチを反対側へ操作します。



ウィンドウロックスイッチ

スイッチを押すと運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■ 作動条件

エンジン スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ エンジン停止後の作動（運転席）

エンジン スイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能（運転席）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ 巻き込み防止機能（運転席）

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ ドアガラスを開閉することができないときは（運転席）

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、エンジン スイッチをイグニッション ON モードの状態、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- ① エンジン スイッチをイグニッション ON モードにする
- ② パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- ③ いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける
- ④ パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
- ⑤ いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける
- ⑥ 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

次のことを必ずお守りください。

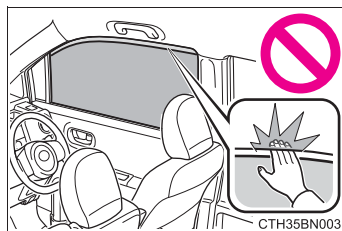
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→ P. 142)

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- 車から離れるときはエンジン スイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能（運転席）

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■ 巻き込み防止機能（運転席）

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まれないように注意してください。

運転

4

- 4-1. 運転にあたって
 運転にあたって 146
 荷物を積むときの注意 155
- 4-2. 運転のしかた
 エンジン（イグニッション）
 スイッチ 157
 オートマチック
 トランスミッション 163
 方向指示レバー 166
 パーキングブレーキ 167
 ホーン（警音器） 169
- 4-3. ランプのつけ方・
 ワイパーの使い方
 ランプスイッチ 170
 ワイパー＆ウォッシャー
 （フロント） 174
 ワイパー＆ウォッシャー
 （リヤ） 176
- 4-4. 給油のしかた
 給油口の開け方 178
- 4-5. Toyota Safety Sense
 Toyota Safety Sense 182
 PCS（プリクラッシュ
 セーフティ） 187
 LDA（レーン
 ディパーチャー
 アラート） 198
 オートマチック
 ハイビーム 205
 先駆車発進告知機能 209
- 4-6. 運転支援装置について
 Stop & Start System
 （SMART STOP） 211
 4WD オートモード
 スイッチ 222
 運転を補助する装置 223
 クリアランスソナー 229
 パーキングサポート
 ブレーキ（静止物） 236
- 4-7. 運転のアドバイス
 寒冷時の運転 248

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→ P. 157

発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをDにする (→ P. 163)
- 2 パーキングブレーキを解除する (→ P. 167)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

- 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトレバーをPまたはNにします。(→ P. 163)

駐車する

- 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 パーキングブレーキをかけて (→ P. 167)、シフトレバーをPにする (→ P. 163)
- 3 エンジンを停止する
エンジン スイッチをOFFにします。
- 4 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する
坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め[※]を使用してください。
[※]輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

- 1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、シフトレバーをDにする
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

 知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。(→ P. 223)

■ エンジン出力の抑制について (ブレーキオーバーライドシステム)

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイに「アクセルとブレーキが両方踏まれています」の警告メッセージが表示されます。
そのようなときは、アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。
- マルチインフォメーションディスプレイに「ブレーキオーバーライドシステム故障」が表示されたときは、故障している可能性があります。
ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 急発進の抑制について (ドライブスタートコントロール)

- 次のような通常と異なる操作が行われた場合、エンジン出力を抑制する場合があります。
 - ・ アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作 (R から D、D から R、N から R、P から D、P から R) したとき (D は S または B ポジションを含む) この場合、マルチインフォメーションディスプレイに「アクセルを戻してください」の警告メッセージが表示されます。
表示された画面の指示に従ってください。
 - ・ 後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき
- ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止 (→ P. 224) することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。
- マルチインフォメーションディスプレイに「ドライブスタートコントロール故障」が表示されたときは、故障している可能性があります。
ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなる場合があります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うため、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離れたとき

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

■ オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する
- 高速走行直後に急減速や急停止をする

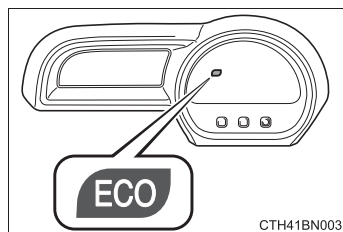
■ 環境に配慮した運転

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケータランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

次の場合エコドライブインジケータランプは作動しません。

- シフトレバーがD以外のとき
- 車速が約100km/h以上のとき

エコドライブインジケータランプの作動／非作動を設定できます。(→ P. 80)



警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリーブ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
 - ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 356を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→ P. 163)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながる恐れがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがP以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを収納装備などに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウィンドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したときは（4WD オートモード作動時★）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。脱出できないときは、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

 **注意****■ 運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **注意****■ 駐車するとき**

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP. 375, 386を参照してください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスアクスル・トランスファー（4WD車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト（4WD車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠ 警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ インstrumentパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- リヤ席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ 革調シボ付ルーフフィルム・カーボン調ルーフフィルム★について**

革調シボ付ルーフフィルム・カーボン調ルーフフィルム貼り付け部にルーフキャリアを取り付けないでください。ルーフフィルムが破損するおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

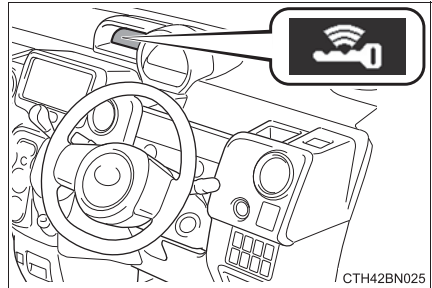
エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンのかけ方

- 1 正しい運転姿勢（→ P. 24）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する
- 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 3 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏む

マルチインフォメーションディスプレイにスマートエントリー&スタートシステム表示灯が表示されます。表示されないと、エンジンは始動しません。



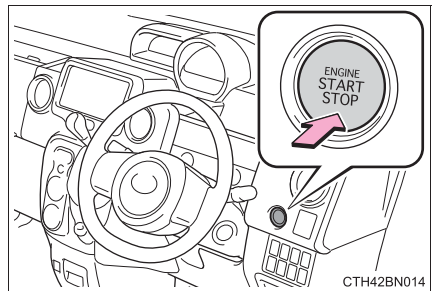
- 5 エンジン スイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大30秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモード（→ P. 158）からでもエンジンを始動できます。



エンジンの停止のしかた

- ① 車両を完全に停止させる
- ② パーキングブレーキをかけて（→ P. 167）、シフトレバーを P の位置にする
- ③ エンジン スイッチを押す
- ④ ブレーキペダルから足を離した状態にして、マルチインフォメーションディスプレイの「電源 ON」の表示が消灯していることを確認する

エンジン スイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにエンジン スイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

① OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

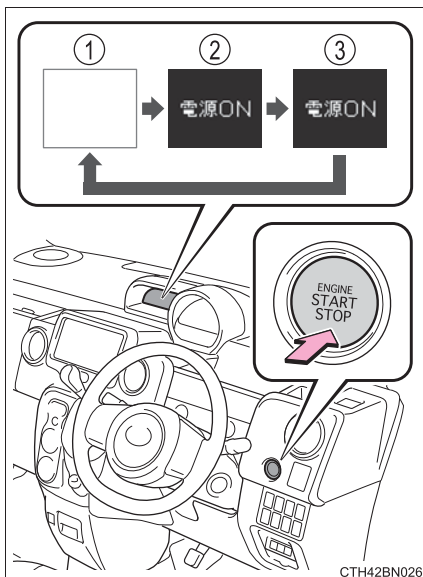
マルチインフォメーションディスプレイに「電源 ON」が表示されます。

③ イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「電源 ON」が表示されます。

※ シフトレバーが P 以外の場合はアクセサリーモードになり、OFF になりません。



CTH42BN026

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジン スイッチのモードは OFF になりません。以下の手順で OFF にしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーを P の位置にする
- 3 マルチインフォメーションディスプレイに「電源 ON」と表示されていることを確認し、エンジン スイッチを 1 回押す
- 4 マルチインフォメーションディスプレイの「電源 ON」の表示が消灯していることを確認する

知識

■ 電子キーはポケットなどに携帯してください。

電子キーがフロア上、ダッシュボード上、ドアポケット内、カップホルダー内、ラゲージルーム内、小物入れなどにあるときは、スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しません。(作動範囲：→ P. 89)

■ 自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリモードか 1 時間以上イグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジン スイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンが始動していないときは、エンジン スイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ 電子キーの電池の消耗について

→ P. 94

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

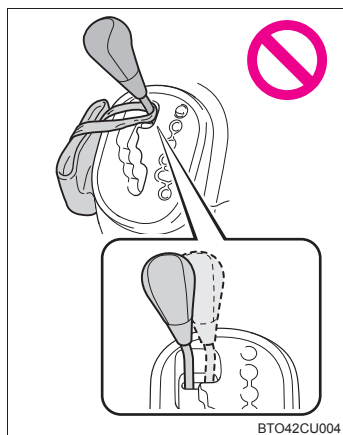
→ P. 91

■ ご留意いただきたいこと

→ P. 92

■ エンジンが始動しないとき

- エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
(→ P. 67)
トヨタ販売店へご連絡ください。
- シフトレバーがPの位置にあるか確認してください。エンジンを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとステアリングロック機能が作動しエンジンを始動することができないことがあります。
シフトレバーに物をかけないでください。



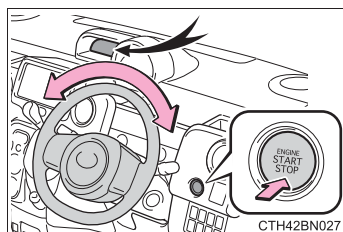
- 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

■ ステアリングロックについて

エンジン スイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジン スイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ ステアリングロックが解除できないとき

マルチインフォメーションディスプレイに「ステアリングロック未解除」が表示されます。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



■ ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。
2 秒～ 10 秒程度でもとの状態にもどります。

■ 緊急時のエンジン始動方法

シフトレバーを P にしてパーキングブレーキをかけ、エンジン スイッチがアクセサリモードの状態ですべてのブレーキペダルを踏みエンジン スイッチを15秒以上押し続けることにより、エンジンが始動できる場合があります。

■ 電子キーの電池が切れたときは

→ P. 324

■ エンジン スイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。
- エンジン スイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジン スイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■ 販売店でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 402

⚠ 警告

■ エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジン スイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。(→ P. 356)
ただし、緊急時以外は走行中にエンジン スイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

 **注意****■ バッテリーあがりを防ぐために**

- エンジンがかかっていないときは、エンジン スイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- エンジンがかかっていないときに、マルチインフォメーションディスプレイの「電源 ON」の表示が消灯していないときはエンジン スイッチが OFF になっていません。エンジン スイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジン スイッチがアクセサリモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

■ エンジンを始動するとき

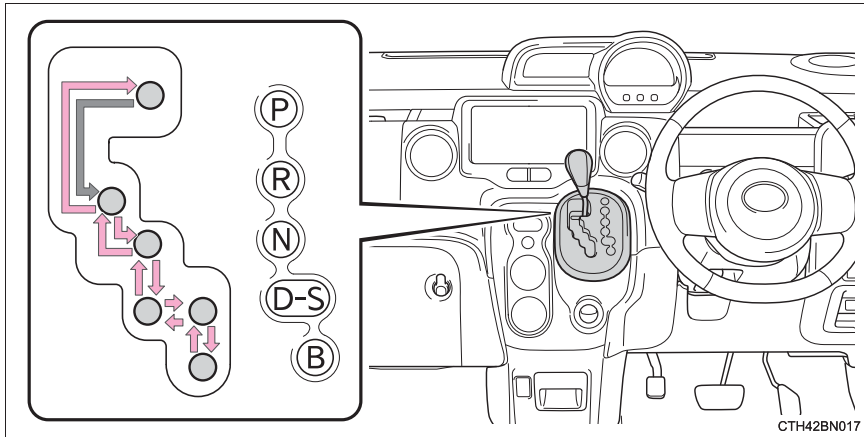
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ エンジン スイッチの操作について

エンジン スイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション

シフトレバーの動かし方



← エンジン スイッチがイグニッション ON モードの状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

PとDのあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行*
S	坂道走行
B	急な下り坂走行

* 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

知識

■ リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■ シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

エンジン スイッチがイグニッション ON モードでブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーをPからシフトできません。

■ シフトレバーをPからシフトできないとき

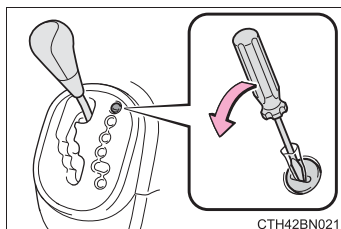
ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

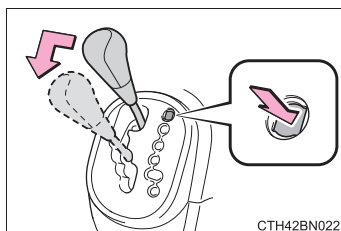
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 エンジンスイッチを OFF にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 5 シフトロック解除ボタンを押す
ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



 **警告****■ すべりやすい路面を走行するとき**

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■ シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

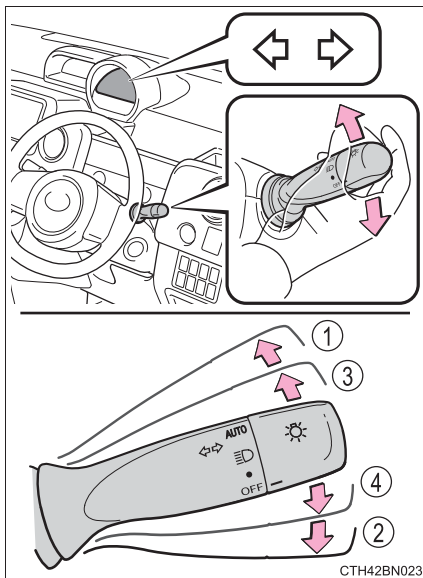
レバーは操作したあと、すぐにもとの位置にもどります。

- ① 左折
- ② 右折
- ③ 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

- ④ 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。



知識

■ 作動条件

エンジン スイッチがイグニッション ON モードのとき

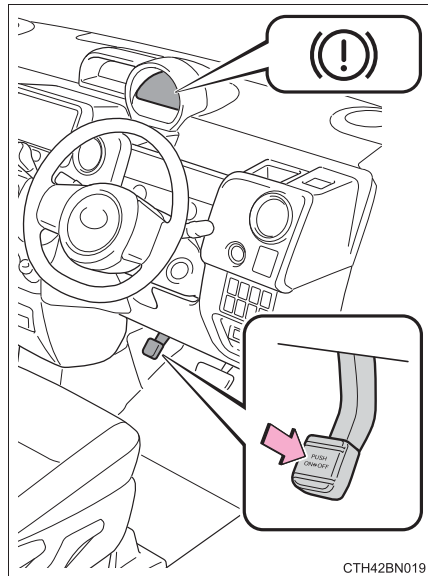
■ 表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）



知識

■ 駐車するとき

→ P. 146

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 249

■ マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキを解除してください」が表示されたとき

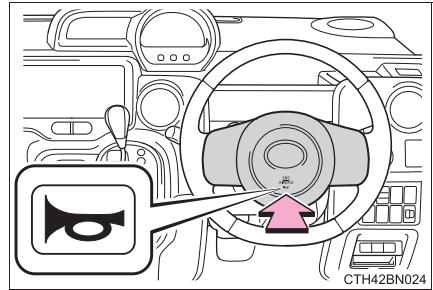
パーキングブレーキがかかった状態のまま、車速が5km/hをこえています。表示された画面の指示に従ってください。

 **注意****■ 走行前の注意**

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すと
ホーンが鳴ります。



知識

■ハンドル位置を調整したあとは


ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→ P. 137）

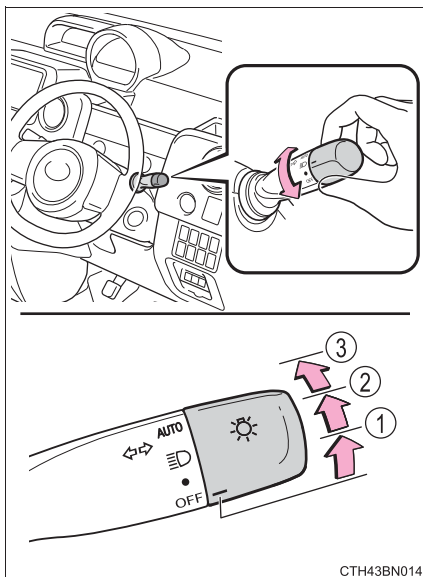
ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

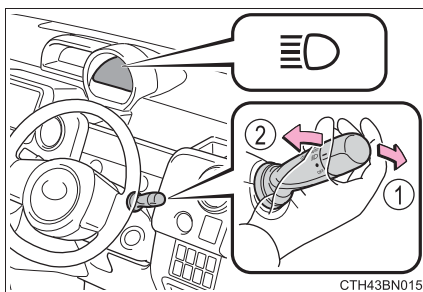
次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。

- ① ● 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯
- ②  上記ランプとヘッドランプを点灯
- ③ AUTO★ヘッドランプ・車幅灯などを自動点灯・消灯
(エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき)



ハイビームにする

- ① ランプ点灯時ハイビームに切りかえ
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。
- ② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

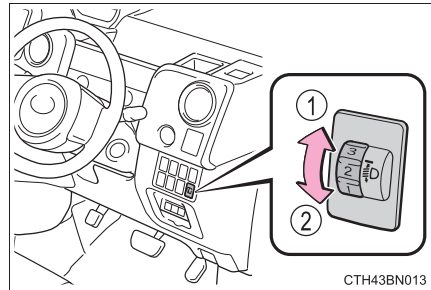


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドランプ装着車）

乗車人数や荷物の量などによる姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

- ① 上向きに調整
- ② 下向きに調整



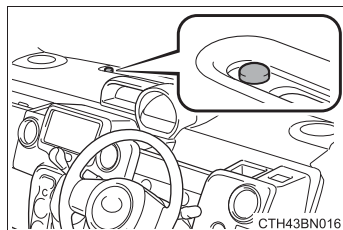
■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0.5
全乗員	なし	3
全乗員	ラゲージルーム満載時	3.5
運転者	ラゲージルーム満載時	5

知識

■ ライトセンサー★

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能（ディスチャージヘッドランプ装着車）

エンジン スイッチをアクセサリモードまたは OFF にしてドア（バックドアを除く）を開けるとヘッドランプと尾灯が消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジン スイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ③ の位置にします。

■ ランプ消し忘れ警告機能（ハロゲンヘッドランプ装着車）

エンジン スイッチをアクセサリモードまたは OFF にして、ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイに「ライトが点灯しています」が表示されます。

ランプを消灯してください。

■ オートレベリングシステム（ディスチャージヘッドランプ装着車）

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ 販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度などの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→P. 427）


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **注意****■ バッテリーあがりを防ぐために**

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

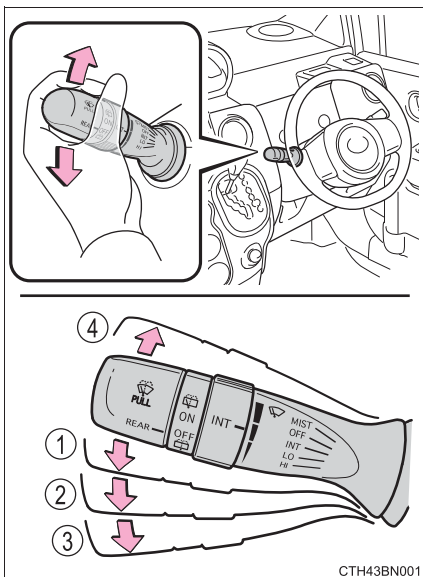
ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

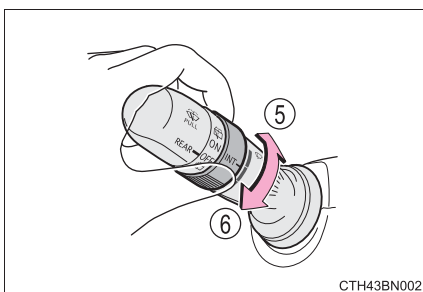
“INT” を選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。


- ① 間欠作動（INT）
- ② 低速作動（LO）
- ③ 高速作動（HI）
- ④ 一時作動（MIST）

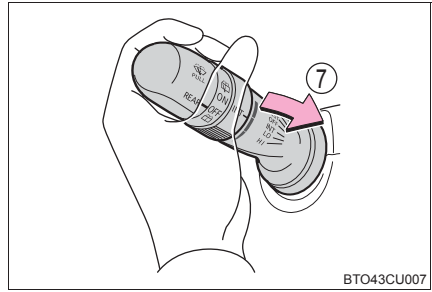


間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。

- ⑤ 間欠ワイパーの作動頻度（減）
- ⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（増）



- ⑦  ウォッシャー液を出す
レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



知識

■ 作動条件

エンジン スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが温まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ フロントウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。



■ ノズルがつまったとき

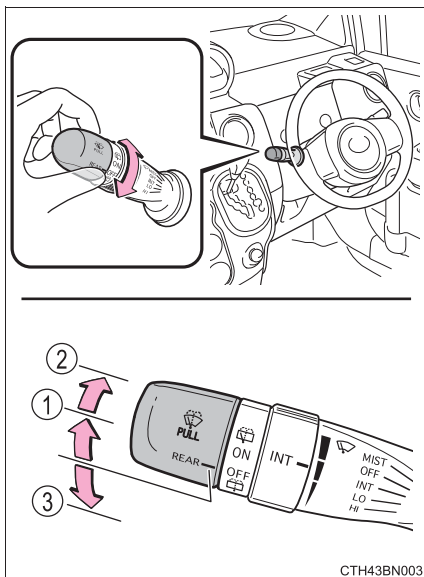
ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

操作のしかた

次のようにレバーを操作すると、リヤワイパーまたはウォッシャーが作動します。

- ① 通常作動
- ②  ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。
- ③  ウォッシャー液を出す



知識

■ 作動条件

エンジン スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 **注意****■ リヤウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジン スイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

■ エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料（エタノールの混合率 3%以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3%以下）も使用することができます。

 **警告****■ 給油について**

給油するときは次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去する
除去しないと放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開ける
キャップを開けるときは、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き返すおそれがあります。
- 給油口に、静電気を除去していない人を近付けない
- 気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- 車内にもどったり、静電気を除去していない人や帯電しているものにふれない
再び帯電する可能性があります。

■ 給油時の注意

- ふきこぼれを防ぐため以下の点に注意してください。
 - ・ 給油口にノズルを確実に挿入する
 - ・ 継ぎ足し給油をしない
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

■ キャップ交換時の警告

トヨタ純正品以外のキャップを使用しないでください。

純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意**■ 給油するときは**

指定のガソリンを使用してください。

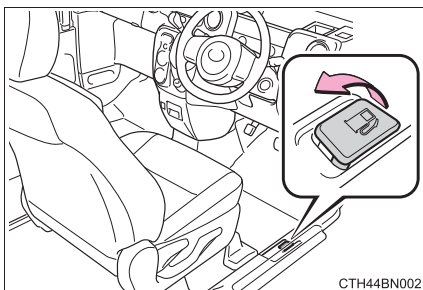
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

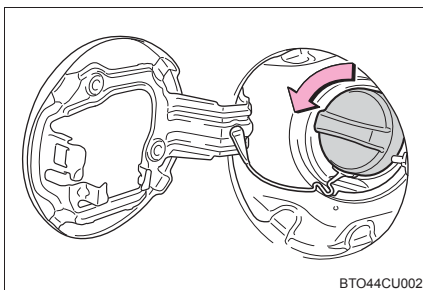
給油口の開け方

- 1 オープナーを上げて、給油扉を開ける

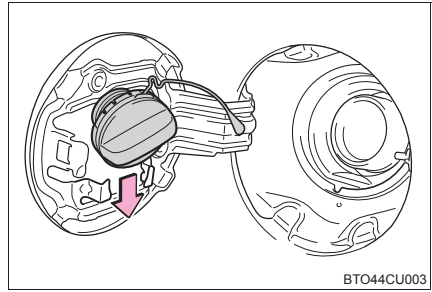


CTH44BN002

- 2 キャップをゆっくりまわして開ける

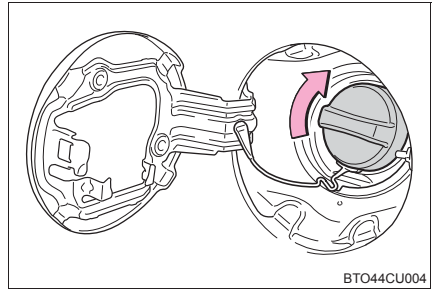


BT044CU002

3 キャップをホルダーにはめ込む**給油口を閉める**

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

**警告****■キャップが正常に閉まらないとき**

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

◆ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→ P. 187

◆ LDA（レーンディパーチャーアラート）

→ P. 198

◆ オートマチックハイビーム

→ P. 205

◆ その他の運転支援機能

先行車発進告知機能

→ P. 209



警告

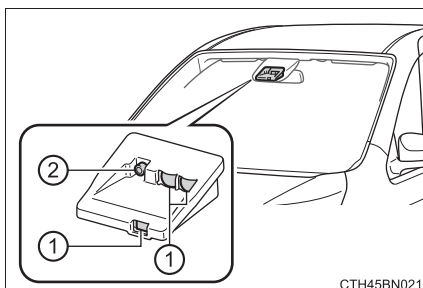
■ Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。本システムの認識性能・制御性能には限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

前方センサー

フロントウインドウガラス上部にある2種類のセンサーにより、各運転支援装置の作動に必要な情報を認識します。

- ① レーザーレーダー
- ② 前方カメラ



CTH45BN021


警告
■ 前方センサーについて

前方センサーは、前方車両の検出にレーザー光を使用しており、IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 1M に相当します。通常の使用においてレーザー光が目には障害をおよぼす危険はありませんが、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと重大な視覚障害におよぶか、最悪の場合失明につながるおそれがあります。

- 有害なレーザー照射を避けるため、前方センサーは絶対に分解や取りはずしをしないでください。また、分解した前方センサーは IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 3B に相当し、目に有害です。
- 光学機器（拡大鏡・顕微鏡・虫眼鏡など）を使用して、100mm 以内の距離からセンサーをのぞき込まないでください。

レーザー等級ラベル

**INVISIBLE LASER RADIATION
DO NOT VIEW DIRECTLY WITH
OPTICAL INSTRUMENTS (MAGNIFIERS)
CLASS 1M LASER PRODUCT**

レーザー説明ラベル

**Max average power: 45 mW
Pulse duration: 33 ns
Wavelength: 905 nm**

IEC 60825-1:2007

Complies with FDA performance standards for laser products
except for deviations pursuant to Laser Notice No. 50, dated
July 26th, 2001

レーザー放射仕様

最大出力（平均）：45 mW

パルス持続時間：33 ns

波長：905 nm

発散角（水平×垂直）：28° × 12°

警告

■前方センサーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方センサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

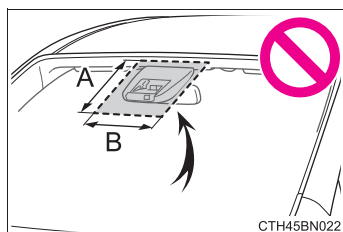
フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

フロントウインドウガラス内側の前方センサー取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラス外側の前方センサー前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない

A: フロントウインドウガラス上端から前方センサー下端より下約 10cm まで

B: 約 20cm（前方センサー中心から左右約 10cm）

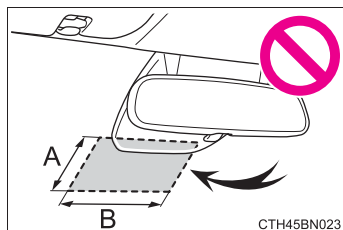


CTH45BN022

●フロントウインドウガラス内側の前方センサー下部（図に示す範囲内）に何も取り付けたり、貼り付けたりしない

A: 前方センサー下端から下約 10cm まで

B: 約 20cm（前方センサー中心から左右約 10cm）



CTH45BN023

●冬季のように、車室内と外気の温度差が大きいときなどは、フロントウインドウガラスが曇りやすくなります。フロントウインドウガラスの前方センサー前部が曇ったり、結露したり、凍結したりすると、システムが一時的に作動しなくなることもあり、PCS 警告灯が点灯します。その場合は、エアコンの除湿機能で曇りなどを取り除いてください。（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 253, 259）

●前方センサー前部に水滴が付着したときはワイパーでふき取る 水滴のふき取りが不十分な場合、性能が低下することがあります。

●前方センサー前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する ワイパーゴムまたはワイパーブレードの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

 **警告**

- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方センサーに液体をかけない
- 前方センサーに強い光を照射しない
- 前方センサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方センサーに強い衝撃を加えない
- 前方センサーの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方センサーを分解しない
- インナーミラーなどの前方センサー周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方センサーの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けけない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方センサーの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない
- ダッシュボードには何も取り付けたり、置いたりしない

■ フロントウインドウガラスの前方センサー取り付け部について

フロントウインドウガラスが曇りやすい状況のときには、ヒーターにより前方センサー周辺のフロントウインドウガラスが熱くなっていることがあり、ふれるとやけどをするおそれがあります。

 知識

■ マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

● 次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方センサー周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	<ul style="list-style-type: none"> ・ 汚れや付着物を取り除く ・ 前方センサー周辺の汚れや付着物の場合は、ワイパーやエアコンの機能などを使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 253, 259）
炎天下や極寒の環境など、前方センサー周囲の温度などが作動条件外するとき	炎天下での駐車時など、前方センサーが高温のときは、エアコンでセンサー周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方センサーが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方センサーが低温のときは、エアコンで前方センサー周囲の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方センサーの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方センサーの視界がさえぎられないようにする

● 周囲の環境（暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できない状況）が改善されたり、しばらく走行したりしても PCS 警告灯や警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

PCS (プリクラッシュセーフティ)

進路上の作動対象 (→ P. 187) を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON/OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。(→ P. 190)

システムの作動対象

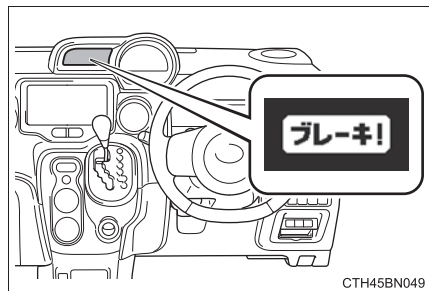
システムは次のものを作動対象として検出しています。

- 車両
- 歩行者

機能一覧

◆ 衝突警報

衝突の可能性が高いと判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



◆ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

◆ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴ってブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突速度の低減に寄与します。

 **警告****■安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ 衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：
→ P. 192
 - ・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 195
- お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約2秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。
- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングを遅らせる場合があります。

 **警告**

● 走行中、システムは踏切の遮断機などの前方障害物を衝突対象物と認識し、プリクラッシュブレーキを作動させることがあります。万一踏切内に閉じ込められた場合などは、次の操作で車両を前進させ、状況に応じて安全を確保してください。

- ・ 車両停止後に再度アクセルペダルを踏む
- ・ 減速中にアクセルペダルを深く踏み込む (→ P. 192)
- ・ プリクラッシュセーフティを OFF にする (→ P. 190)

■ プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引してもらうとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの性能を発揮できないとき (→ P. 322, 323)
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを取り付けているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

プリクラッシュセーフティの設定変更

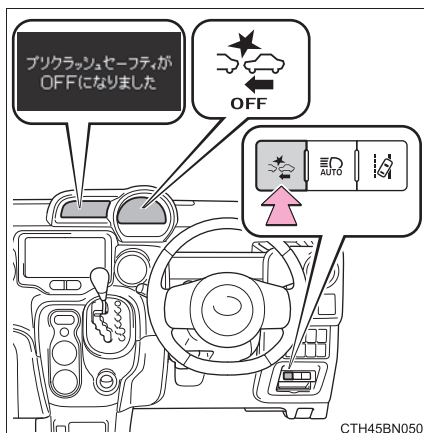
■ プリクラッシュセーフティを OFF にする

システムを OFF にするには、PCS スイッチを 3 秒以上押す

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

システムを ON にするには、もう一度 PCS スイッチを押します。

エンジンを始動するたび、プリクラッシュセーフティは ON になります。



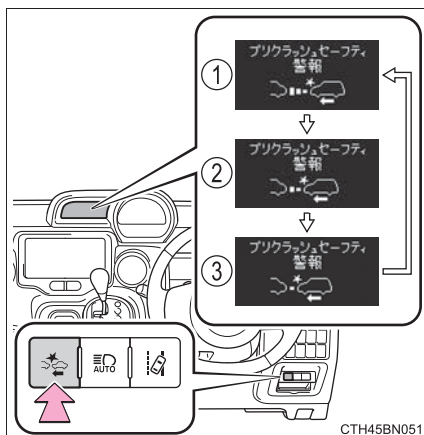
CTH45BN050

■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

PCS スイッチを押すとマルチインフォメーションディスプレイに現在の警報タイミングが表示されます。表示された状態で PCS スイッチを押すごとに、次のように警報タイミングが切りかわります。

変更した作動タイミングはエンジンスイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF の状態から ON にすると「中間」に戻ります。

- ① 早い
- ② 中間
初期設定
- ③ 遅い



CTH45BN051

知識

■ システムの作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

各機能の作動速度は次のとおりです。

● 衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 15 ~ 140km/h	約 15km/h 以上
歩行者	約 15 ~ 65km/h	約 15km/h 以上

● プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 30 ~ 80km/h	約 30km/h 以上
歩行者	約 30 ~ 65km/h	約 30km/h 以上

● プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ~ 80km/h	約 10km/h 以上
歩行者	約 10 ~ 65km/h	約 10km/h 以上

ただし、次のときシステムは作動しません。

- バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトレバーが R のとき
- VSC が OFF のとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■ 作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→ P. 195）

図は作動対象として検出する対象のイメージです。



CTY45AX188

■ ブリクラッシュブレーキの作動解除

ブリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、ブリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

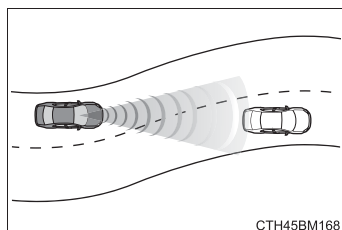
- アクセルペダルを強く踏み込む*
- ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

※ 車速が約 15 km/h 以下でアクセルペダルを強く踏み込んだ場合、誤発進操作とシステムが判断してブリクラッシュブレーキの作動が解除されないことがあります。

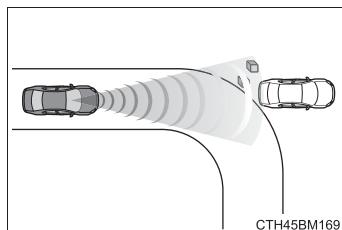
■ 衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

● 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

- ・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
- ・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- ・ 進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき

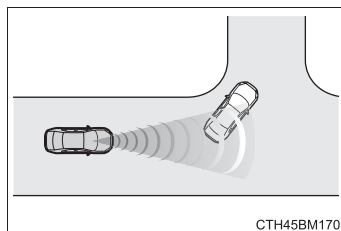


- ・ 作動対象などに急接近したとき
- ・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
- ・ カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき

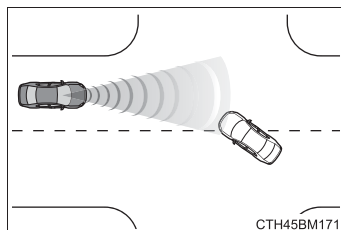


- ・ 自車の前方に作動対象との区別が付きにくい模様・ペイントがあるとき
- ・ 自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき

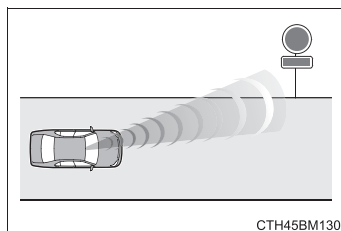
- ・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



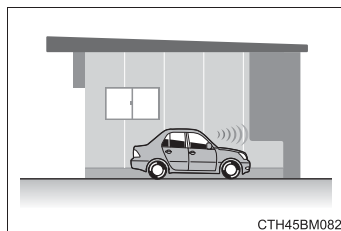
- ・ 右左折時に作動対象とすれ違ったとき
- ・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



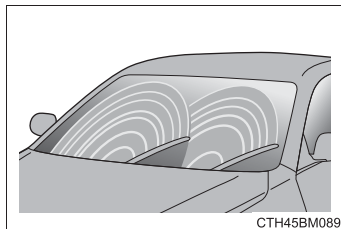
- ・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- ・ 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ・ 構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
- ・ 自車の前方に光を反射する物（マンホール・反射材など）・段差・突起物があるとき
- ・ センサーへの強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき



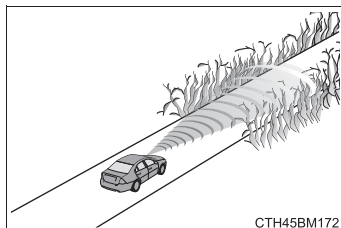
- ・ 前方センサーの高さに突き出た障害物がある場所に駐停車するとき



- ・フロントウインドウガラスが雨滴などで覆われているとき



- ・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- ・洗車機を使用するとき
- ・自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

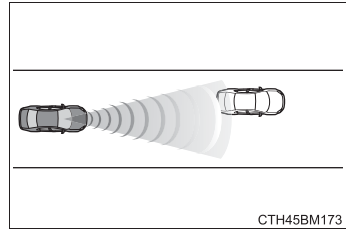


- ・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき

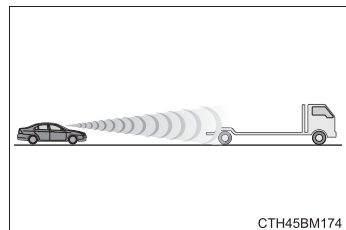
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

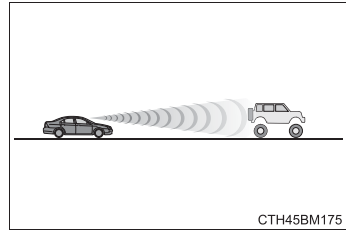
- ・ 自車に向かって作動対象が近づいてくるとき
- ・ 自車や作動対象がふらついているとき
- ・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・ 作動対象に急接近したとき
- ・ 作動対象が自車の中心軸からずれているとき



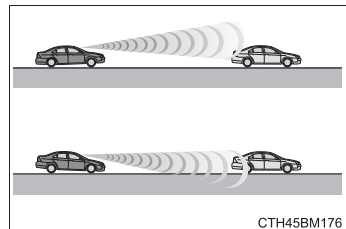
- ・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
- ・ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- ・ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- ・ 作動対象が複数重なっているとき
- ・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- ・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- ・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- ・ 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・ 自車の前方に水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- ・ 自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
- ・ 横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- ・ 前方車両が自転車・オートバイのとき
- ・ 前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
- ・ 前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
- ・ 前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）



- ・ 前方車両の最低地上高が極端に高いとき



- ・ 前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- ・ 前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- ・ 歩行者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- ・ 歩行者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- ・ 歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- ・ 歩行者の移動速度が速いとき
- ・ 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- ・ 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・ 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ・ 周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
- ・ 自車が横すべりしているとき
- ・ 車両姿勢が変化しているとき



- ・ ホイールアライメントがずれているとき
- ・ ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
- ・ 過度な高速走行をしているとき
- ・ きついカーブや起伏がある場所を走行するとき
- ・ 作動対象がレーザー波を反射しにくい状態のとき
- ・ 前方センサーの向きがずれているとき

- 例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
 - ・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合(ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど)
 - ・車両の整備状態(ブレーキ部品・タイヤの磨耗や空気圧など)が良好でないとき
 - ・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

■VSC を停止したとき

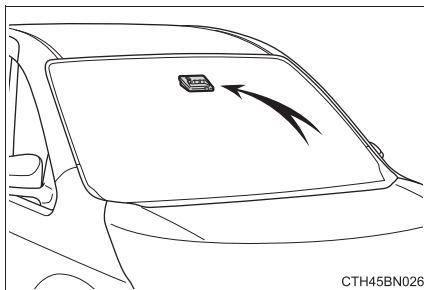
- VSC の作動を停止(→ P. 225)したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。
- PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が OFF のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

LDA (レーンディパーチャーアラート)

機能概要

白(黄)線が整備された道路を走行中、車線からの逸脱の可能性を運転者に警告します。

LDA は、フロントウィンドウガラス上部のカメラセンサーで、白(黄)線を認識します。

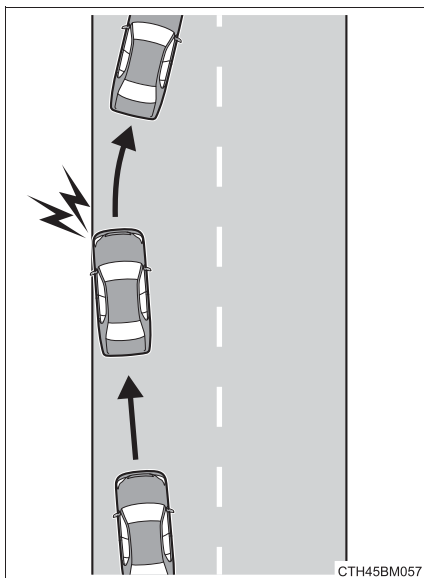


CTH45BN026

車線逸脱警報機能

車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白(黄)線内の中央付近にもどってください。



CTH45BM057

 **警告****■ LDA をお使いになる前に**

LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 誤作動を防ぐために

LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ LDA の故障、または誤作動を防ぐために

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウィンドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

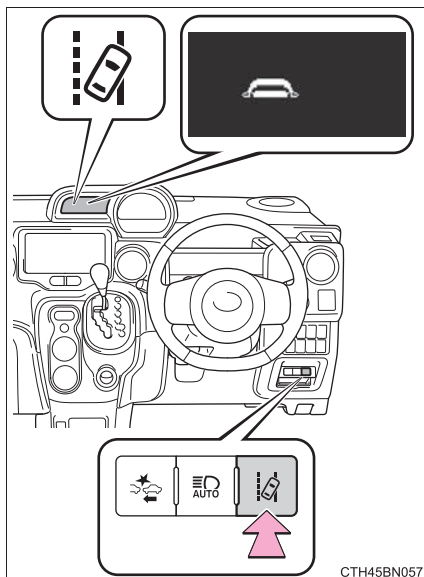
設定のしかた

LDA を ON するには LDA スイッチを押す

LDA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに自車マークが表示されます。

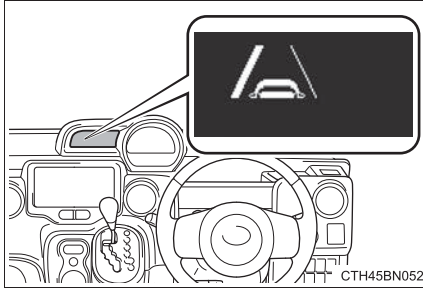
OFF には、再度スイッチを押します。

いったん LDA を ON/OFF すると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。

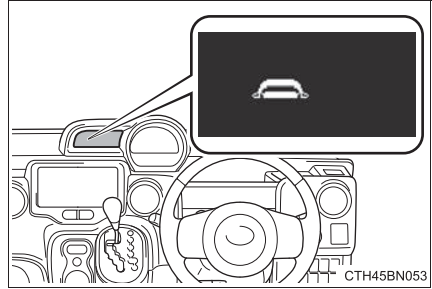


CTH45BN057

マルチインフォメーションディスプレイ表示



白線が表示されているとき：
システムが白（黄）線を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が太線になり、点滅します。



白線が表示されていないとき：
システムが白（黄）線を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

 知識

■ 作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- LDA を ON にしているとき
- 車速が約 50km/h 以上のとき
- システムが白（黄）線を認識しているとき
- 車線の幅が約 3m 以上のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 直線路または半径が約 150m よりゆるいカーブを走行しているとき
- システムの異常が検知されていないとき（→ P. 204）

■ 機能の一時解除

作動条件が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■ 車線逸脱警報機能について

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

■ 白（黄）線が片側にしかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■ 炎天下に駐車したあとは

走行開始後、しばらくのあいだ LDA は作動せず、マルチインフォメーションディスプレイに「前方カメラ一時使用不可 しばらくお待ちください」の警告メッセージが表示されることがあります。室内温度が低下し、前方センサー周辺（→ P. 182）の温度が適温になると作動するので、いったん LDA スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、カメラセンサーが白（黄）線を正しく検知できず、各機能が正しく作動しないおそれがあります。

- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路釘）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射しているとき
- 分岐・合流路などを走行しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 急カーブを走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは、対処方法に従って適切に対処してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
LDA 現在の車速では使用できません	車速がLDA(レーンディパーチャーアラート)の作動可能範囲を超えたため、使用できない	車速を落として走行する
LDA 約50km/h以下で使用できません	車速が約50km/h以下のため、LDA(レーンディパーチャーアラート)が使用できない	50km/h以上の車速で走行する
LDA 故障 販売店で点検してください	システムが正常に作動しなくなっているおそれがある	トヨタ販売店で点検を受ける

その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■カスタマイズ機能

次の設定を変更できます。

機能	設定内容
車線逸脱警報	警報感度

設定変更のしかたは、P. 80を参照してください。

オートマチックハイビーム

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置されたカメラセンサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告


■安全にお使いいただくために

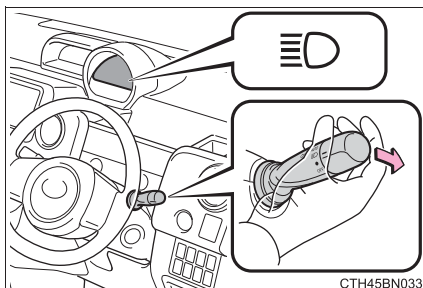
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

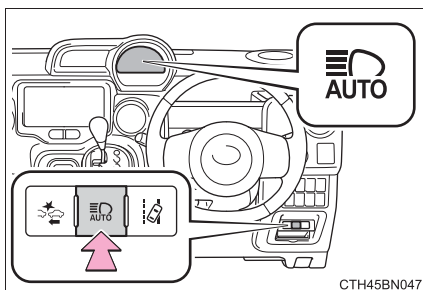
オートマチックハイビームの使い方

- 1 ランプスイッチを  または AUTO★にし、レバーを前方へ押す



- 2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が緑色で点灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

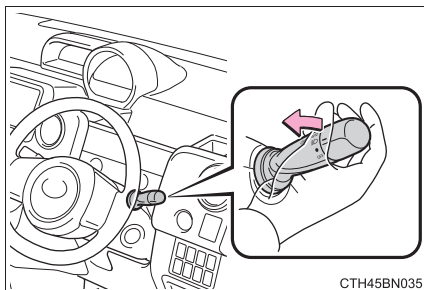
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯します。

オートマチックハイビームにもどす
には、再度レバーを前方に押しします。

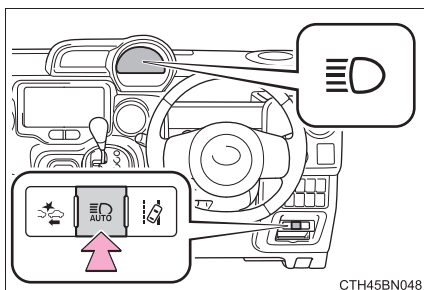


■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームス
イッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯し、ハイビーム表示灯が点灯し
ます。

オートマチックハイビームにもどす
には、再度スイッチを押します。



 知識

■ ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
 - ・ 車速が約 30km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ 前方にランプを点灯した車両がない
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない
- 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
 - ・ 車速が約 25km/h 以下
 - ・ 車両前方が明るい
 - ・ 前方車両がランプを点灯している
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■ カメラセンサーの検知について

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
 - ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・ 前方車両が無灯火のとき
- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 前方車両のランプの明るさ
 - ・ 前方車両の動きや向き
 - ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 前方車両が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・ 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
 - ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
 - ・ フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
 - ・ カメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
 - ・ カメラセンサーが極端に高温になっているとき
 - ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
 - ・ 先行車から水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
 - ・ 急激な明るさの変化が連続するとき
 - ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
 - ・ カーブが多い道路を走行しているとき
 - ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
 - ・ コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
 - ・ 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
 - ・ パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
 - ・ ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
 - ・ ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

■ マルチインフォメーションディスプレイに「AHB起動のためには ハイビーム操作が必要です」が表示されたとき

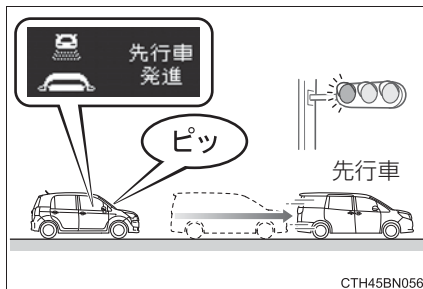
ヘッドランプをハイビームに切りかえてください。

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



知識

■ 作動条件

シフトレバーがP・R以外でブレーキペダルを踏んで停止している、またはシフトレバーがNで停止しているとき

■ 先行車が発進していても告知しない場合があります

例えば次のような状況では、前方センサーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき

- 前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- プリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などによりPCS警告灯が点滅または点灯しているとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■先行車が発進していても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 先行車がない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■先行車発進告知機能の設定を変更するには

マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズモード（→ P. 80）で、先行車発進告知機能に関する次の設定を変更することができます。

- 先行車発進告知機能の ON/OFF
- 先行車発進告知機能の告知タイミング

Stop & Start System (SMART STOP) ★

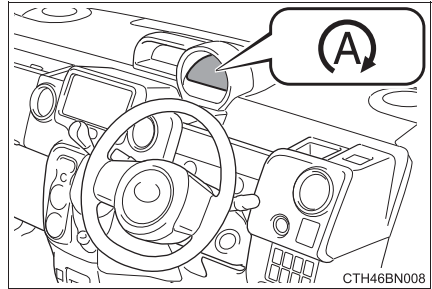
赤信号や交差点などの一時的な停車中、燃費向上やアイドリング騒音低減のため、エンジン スイッチを操作することなく、ブレーキペダルまたはシフトレバーの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

Stop & Start System の操作(D・S・B レンジアイドリングストップ)

■ エンジンが停止する

シフトレバーをD・S・Bで走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止します。

Stop & Start 表示灯が点灯します。



■ エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。

Stop & Start 表示灯が消灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

Stop & Start System の操作 (P・Nレンジアイドリングストップ)**■ エンジンが停止する**

- 1 ブレーキペダルを踏み、車両を完全に停止させる
- 2 シフトレバーをPまたはNにすると、エンジンが自動的に停止します。(→ P. 163)

Stop & Start 表示灯が点灯します。

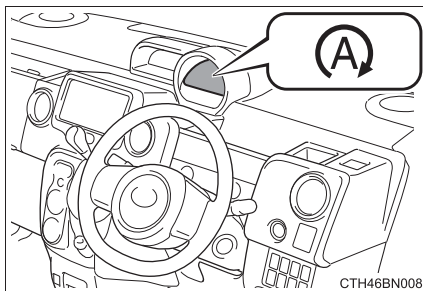
D・S・Bレンジアイドリングストップの状態、シフトレバーをPまたはNにしても、エンジンの停止状態は継続されます。

■ エンジンが再始動する

シフトレバーをD・S・B・Rのいずれかにすると、エンジンが再始動します。(→ P. 163)

シフトレバーの操作はブレーキペダルを踏んで行ってください。

Stop & Start 表示灯が消灯します。

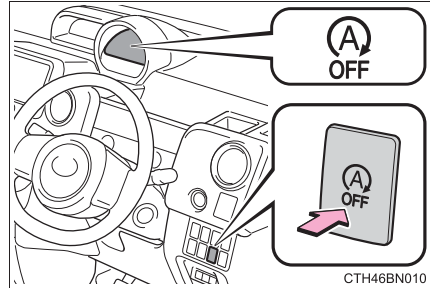


Stop & Start システムを非作動にするには

Stop & Start システムを非作動にするには Stop & Start キャンセルスイッチを押す

Stop & Start キャンセル表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、作動可能状態にもどり、Stop & Start キャンセル表示灯が消灯します。



■ Stop & Start システムの自動再開

Stop & Start システムを Stop & Start キャンセルスイッチによって非作動にしても、一度エンジン スイッチを OFF にしてからイグニッション ON モードにすることによって、Stop & Start システムは自動的に作動可能状態にもどります。

■ Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中、Stop & Start キャンセルスイッチを押すとエンジンが再始動します。
- Stop & Start システムが非作動のとき、もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、Stop & Start システムが作動可能状態にもどりますが、エンジンは停止しません。
次に車両が停止したときに、Stop & Start システムによって、エンジンが停止します。

坂道発進補助機能


Stop & Start システムによるエンジン停止後、エンジンが再始動し駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ力を一時的に保持し坂道での車両後退を抑制します。


駆動力が発生すると、保持していたブレーキ力を自動的に解除します。

- 坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。
- ブレーキから音が発生することがありますが異常ではありません。
- ブレーキペダルの踏み応えがかわったり、振動が発生したりすることがありますが異常ではありません。

 知識

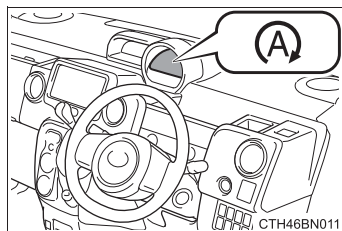
■ 作動条件

- 次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start システムが作動可能状態になります。
 - ・ ブレーキペダルをしっかりと踏んでいるとき
 - ・ エンジンが十分暖まっているとき
 - ・ 外気温が -5°C 以上のとき
 - ・  が OFF のとき（オートエアコン装着車）
 - ・ 運転席ドアが閉まっているとき
 - ・ 運転席シートベルトを着用しているとき
 - ・ ボンネットが閉まっているとき（→ P. 312）
 - ・ アクセルペダルを踏んでいないとき
 - ・ シフトレバーが R 以外のとき
- 次の状況では、Stop & Start システムによるエンジン停止が行われない場合がありますが、異常ではありません。
 - ・ 外気温が高い、または低いときに、エアコンを使用しているとき
 - ・ エンジン冷却水温やトランスミッション油温が低いとき、または高すぎるるとき
 - ・ ハンドル操作をしているとき
 - ・ 定期的な充電中のとき
 - ・ バッテリーが十分に充電されていないとき（例：長時間の駐車後などバッテリーの充電量が低下、電気負荷が大きい、バッテリー液温が低い、バッテリーが劣化）
 - ・ 渋滞などで、断続的に停車するとき
 - ・ 勾配が急な坂道で停車したとき
 - ・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
 - ・ 消費電力が大きいとき
 - ・ 標高が高いとき
 - ・ バッテリー液温が低いとき、または高すぎるとき
 - ・ バッテリーを交換したあとしばらくの期間、またはバッテリー端子をはずしたあとしばらくのあいだ

- Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動します。(Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください)
 - ・ エアコンをオンにしたとき
 - ・  を ON にしたとき (オートエアコン装着車)
 - ・ ハンドル操作したとき
 - ・ P・N レンジアイドリングストップ中に、シフトレバーを D・S・B・R にしたとき
 - ・ 坂道などで車両が動き出したとき
 - ・ アクセルペダルを踏んだとき
 - ・ 運転席ドアを開けたとき
 - ・ 運転席シートベルトをはずしたとき
- Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。(Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください)
 - ・ ブレーキペダルをさらに強く踏み込む、またはポンピングブレーキをしたとき
 - ・ エアコンを使用しているとき
 - ・ バッテリーの充電量が低下しているとき

■ Stop & Start 表示灯について

走行中に Stop & Start システムの作動条件が満たされると、Stop & Start 表示灯が点灯し、停止時に Stop & Start システムが作動可能状態であることをお知らせします。



■ ボンネットを開けたときは (D・S・Bレンジアイドリングストップ)


- Stop & Start システムによるエンジン停止中にボンネットを開けた場合、エンジンは自動で再始動しません。シフトレバーを P にして通常のエンジン始動操作 (→ P. 157) でエンジンを始動させてください。
- ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したときは、ボンネットを閉めても Stop & Start システムは作動しません。ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にし、約 30 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

■ Stop & Start システムについて

- 長時間停車する場合には、エンジンスイッチを OFF にし、エンジンを停止してください。
- Stop & Start システムが作動できないときやキャンセルされたとき、または Stop & Start システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意を促します。
- アイドリングストップ中にエンジンスイッチを操作してもエンジンは自動で再始動しません。シフトレバーを P にして通常のエンジン始動操作でエンジンを始動してください。
- Stop & Start システムの作動によりエンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリソケットなどが使用できないことがあります。が異常ではありません。
- 電装品・無線機の取り付け・取りはずしは Stop & Start システムに悪影響をおよぼす可能性がありますので、トヨタ販売店にご相談ください。

■ Stop & Start システムによるエンジン停止中、フロントウインドウガラスが曇ったとき

オートエアコン装着車:  を押して曇りを取ってください。

マニュアルエアコン装着車: Stop & Start キャンセルスイッチを押してエンジンを再始動させたあと、 を押してエアコンを作動させ、吹き出し口を

 に切りかえてください。

断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■ Stop & Start システムによるエンジン停止中、エアコン吹き出し口から臭いが発生したとき

マニュアルエアコン装着車：アイドリングストップ時間を長め（Long）にしているときは、通常（Normal）に切りかえてください。

通常（Normal）を選択して臭いが発生したときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押して Stop & Start システムの作動を停止してください。



オートエアコン装着車：Stop & Start キャンセルスイッチを押して Stop & Start システムの作動を停止してください。

■ Stop & Start システムによるエンジン停止中のエアコン作動について

●オートエアコン装着車：オート設定で空調システムを使用しているときに、Stop & Start システムによりエンジンが停止した場合は、冷房時の温度上昇や暖房時の温度低下を抑えるため、ファンの風量を弱めたり、ファンを停止したりすることがあります。

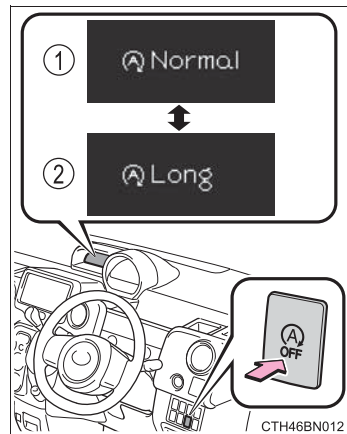
●空調の効きをよりよくしたいときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■ アイドリングストップ時間の切りかえについて

Stop & Start キャンセルスイッチの操作により、、または  が ON のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間を切りかえることができます。

Stop & Start キャンセルスイッチを 3 秒以上押し続けるごとに通常と長めに切りかわります。

- ① 通常（Normal）
- ② 長め（Long）



■ Stop & Start システム保護機能

- 大音量でオーディオを使用しているとき、バッテリーの消費を抑えるためにオーディオを自動的に OFF にする場合があります。この場合、エンジン スイッチを OFF にして3秒以上経過してからアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにし、オーディオを再開させてください。
- バッテリーの端子をはずして再接続したときに、オーディオが作動しないことがあります。この場合、エンジン スイッチを OFF にし、次の操作を 2 回くり返すことでオーディオが作動します。
 - ・ エンジン スイッチをイグニッション ON モードにし、再度エンジン スイッチを OFF にする

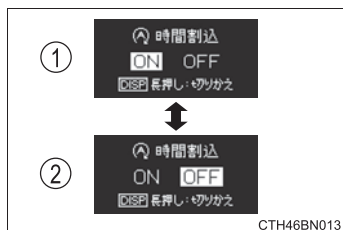
■ アイドリングストップ時間など Stop & Start システムの作動表示

→ P. 78

■ アイドリングストップ時間の割り込み表示について

アイドリングストップ時間の割り込み表示を ON/OFF にできます。(→ P. 80)


- ① ON (割り込み有)
- ② OFF (割り込みなし)



■ バッテリーを交換するとき





→ P. 406


■ マルチインフォメーションディスプレイのメッセージについて

次のとき、マルチインフォメーションディスプレイに  とメッセージが表示されることがあります。







- Stop & Start システムによるエンジン停止が行われないとき

メッセージ	状況
 専用バッテリー非装着	Stop & Start システム専用品以外のバッテリーを装着した可能性がある Stop & Start システムが作動しません。 トヨタ販売店で点検を受けてください。

メッセージ	状況
 バッテリー充電中	<ul style="list-style-type: none"> ・ バッテリーの充電量が低下している可能性がある バッテリー充電を優先するため、一時的にアイドリングストップを禁止していますが、エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。 ・ リフレッシュ充電中の可能性がある（参考シーン：定期的な充電中のとき、バッテリー交換したあとしばらくの期間、またはバッテリー端子をはずしたあとしばらくの期間など） 約 5 ～ 60 分間のリフレッシュ充電が完了すると作動可能状態になります。 ・ ボンネットが開いている状態でエンジンを始動した可能性がある ボンネットを閉め一度エンジン スイッチを OFF にして、30 秒以上待ってからエンジンを始動すると作動可能状態になります。 ・ バッテリーが冷えている可能性がある エンジンをしばらく作動させることでエンジンルーム内の温度が上昇すると作動可能状態になります。 ・ バッテリーが非常に熱くなっている可能性がある エンジンを停止しエンジンルーム内の温度が十分に下がると作動可能状態になります。 ・ 長期間（60 分以上）にわたって継続的に表示される場合バッテリー劣化の可能性がありますので販売店に相談してください。
 ブレーキシステム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 標高が高い ・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下した ブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。
 エアコン優先	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外気温が高い、または低いときにエアコンを使用している エアコンの設定温度と室内温度の差が小さくなると作動可能状態になります。 ・  を ON にしている（オートエアコン装着車）

メッセージ	状況
 シートベルト非装着	運転席のシートベルトをはずしている

- Stop & Startシステムによるエンジン停止中にエンジンが自動的に再始動したとき

メッセージ	状況
 シートベルト非装着	運転席のシートベルトをはずした
 ハンドル操作	ハンドルを操作した
 ブレーキシステム	ブレーキペダルをさらに踏み込んだ、またはポンピングブレーキをした 走行することによりブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。
 エアコン優先	<ul style="list-style-type: none"> ・ エアコンを ON にした、またはエアコンを使用している ・  を ON にした(オートエアコン装着車)
 バッテリー充電中	バッテリーの充電量が低下している可能性がある バッテリー充電を優先させるため、エンジンが再始動しました。エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。

- マルチインフォメーションディスプレイに「アイドルストップ故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。
ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- Stop & Start キャンセル表示灯が点滅したままのとき

システムに異常があるおそれがあります。
ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

 **警告****■ Stop & Start システムが作動しているとき**

- Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯しているあいだ）は、ブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯しているあいだ）は、車から離れないでください。
エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 換気が悪い場所では、Stop & Start システムを非作動にしてください。
エンジンが自動的に再始動する場合があるため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ Stop & Start システムを正常に作動させるために**

次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点滅するとき
- 運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯しないとき
- 運転席ドアを閉めているときに、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示が表示される、またはインテリアランプのスイッチがドアポジションのときにインテリアランプが点灯するとき
- 運転席ドアを開けているときに、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示が表示されない、またはインテリアランプスイッチがドアポジションのときにインテリアランプが点灯しないとき

4WD オートモードスイッチ★

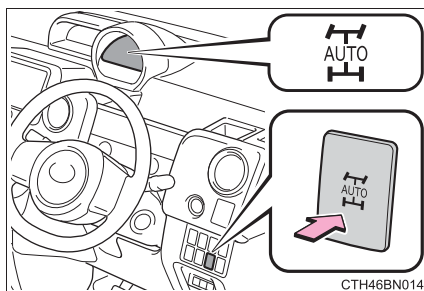
走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて FF（前輪駆動）走行と 4WD（4輪駆動）走行を自動的に切りかえます。

4WD オートモードを使用する

スイッチを押す

4WD オートモード表示灯が数回点滅後、点灯します。

もう一度スイッチを押すと、解除されます。



知識

■ 4WD オートモード表示灯について

4WD システムに異常が発生したときには、4WD オートモード表示灯が消灯することがあります。この場合には、4WD オートモードスイッチの状態にかかわらず FF モードとなります。

■ 4WD オートモードを使用しないときは

スイッチを押し、FF モードにしてください。FF モードにすることにより燃費性能を高めめます。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「4WD システム過熱 2WD に切りかえました」が表示されたとき

前後輪の回転速度の差が大きい状態が長時間続いた場合、後輪への駆動力配分を休止し、FF モードとなることがあります。

次の対応を行ってください。

- スピードを落として低速走行する
- エンジンをかけたまま停車する

表示が消えたら、4WD システムが自動的に復帰します。

表示が消えないときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「4WD システムチェック」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。

ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS (アンチロックブレーキシステム)

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC (ビークルスタビリティコントロール)

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC (トラクションコントロール)

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ EPS (エレクトリックパワーステアリング)

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ 坂道発進補助機能★

坂道での発進性を補助するため、駆動力が発生するまでのあいだブレーキ油圧(ブレーキの効き)を一時的に保持して、車両が後退するのを抑制し、坂道発進を容易にします。(→ P. 213)

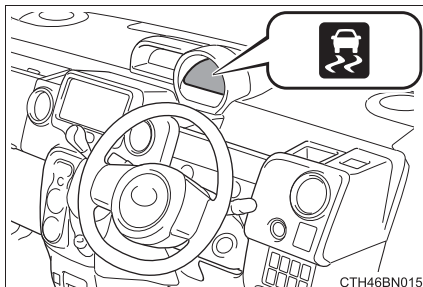
◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。


TRC・VSC が作動しているとき

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。




TRC を停止するには

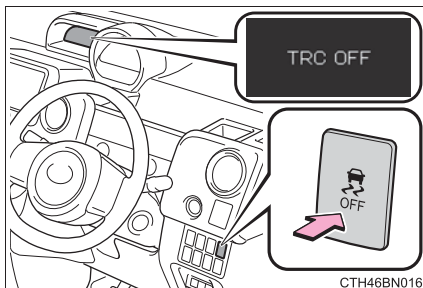
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  を押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。

もう一度  を押すと、システム

作動可能状態にもどります。



知識

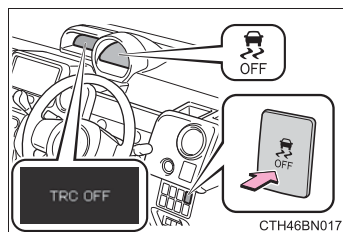
■ TRC と VSC を停止するには


TRC と VSC を停止するには停車時に



を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。*



もう一度  を押すと、システム作動可能

状態にもどります。

* プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。(→ P. 197)

■ を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」が表示されたとき

TRC が作動できない状態になっています。トヨタ販売店にご相談ください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーを P または N のシフト位置にした
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した

■ ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

- エンジン スイッチを OFF にしたとき
- (TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■ EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ 緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離れた
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **警告****■ スリップ表示灯が点滅しているときは**

TRC・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 423）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

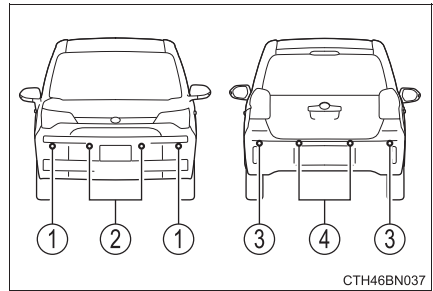
問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

クリアランスソナー★

クリアランスソナーは、低速（約 10km/h 以下）で運転しているときに、車両と障害物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイの距離表示とブザー音で運転者にお知らせする補助装置です。

センサーの位置・種類

- ① フロントコーナーセンサー
- ② フロントセンターセンサー
- ③ リヤコーナーセンサー
- ④ バックセンサー



クリアランスソナーの設定変更

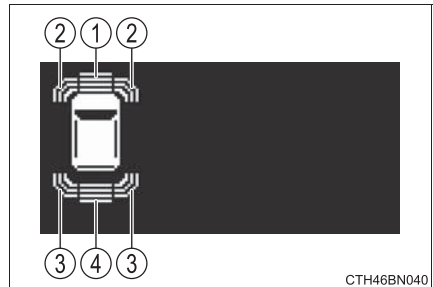
マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズモードで ON(作動)・OFF(停止)を切りかえることができます。(→ P. 80)

ON を選択すると、クリアランスソナー表示灯が点灯します。

OFF を選択して、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズモードから ON を選択し、システム作動状態にしないとクリアランスソナーは復帰しません。(エンジン スイッチの操作では復帰しません)







クリアランスソナーの表示のしかた

- ① フロントセンターセンサー作動表示
- ② フロントコーナーセンサー作動表示
- ③ リヤコーナーセンサー作動表示
- ④ バックセンサー作動表示



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

距離表示の見方

表示※	障害物までのおおよその距離		
	—	フロントコーナー& フロントセンターセンサー	リヤコーナー& バックセンサー
 (点灯)	遠い   近い	フロントセンターセンサー： 約 100cm ~ 60cm	バックセンサー： 約 150cm ~ 60cm
 (点灯)		コーナーセンサー： 約 60cm ~ 45cm フロントセンターセンサー： 約 60cm ~ 45cm	コーナーセンサー： 約 60cm ~ 45cm バックセンサー： 約 60cm ~ 45cm
 (点灯)		コーナーセンサー： 約 45cm ~ 35cm フロントセンターセンサー： 約 45cm ~ 35cm	コーナーセンサー： 約 45cm ~ 35cm バックセンサー： 約 45cm ~ 35cm
 (点灯)		コーナーセンサー： 約 35cm 以下 フロントセンターセンサー： 約 35cm 以下	コーナーセンサー： 約 35cm 以下 バックセンサー： 約 35cm 以下

※ イラストは説明のための例であり、センサーの検知状態により表示は異なります。(→ P. 229)

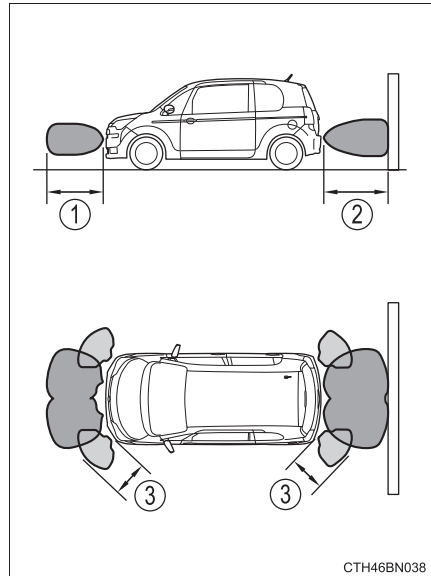
ブザーについて

障害物を検知すると、ブザーが鳴ります。

- 障害物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が次のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
 - ・ フロントコーナーセンサーが検知した障害物との距離が約 35cm 以下
 - ・ フロントセンターセンサーが検知した障害物との距離が約 35cm 以下
 - ・ リヤコーナーセンサーが検知した障害物との距離が約 35cm 以下
 - ・ バックセンサーが検知した障害物との距離が約 35cm 以下
- 複数のセンサーが同時に障害物を検知しているときは、最も近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

障害物を検知できる範囲

- ① 約 100cm (約 1.0m)
- ② 約 150cm (約 1.5m)
- ③ 約 60cm (約 0.6m)
 - ・ 検知できる範囲は右図のとおりです。ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると検知できません。
 - ・ 障害物の形状・条件によっては検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。



 知識

■ 作動条件

エンジン スイッチがイグニッション ON モードのとき

- フロントコーナースエンサー：
 - ・ シフトポジションが P 以外にあるとき
 - ・ 車速が約 10km/h 以下のとき
- フロントセンターセンサー：
 - ・ シフトポジションが P・R 以外にあるとき
 - ・ 車速が約 10km/h 以下のとき
- リヤコーナースエンサー／バックセンサー：
 - ・ シフトポジションが R にあるとき
 - ・ 車速が約 10km/h 以下のとき

■ センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 障害物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- センサーが障害物に近付きすぎると検知できないことがあります。
- 障害物を検知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも、表示やブザーが出る前に障害物まで、約 35cm 以内に接近するおそれがあります。
- センサーより低い物体や細い杭などは、一度検知しても接近すると突然検知しなくなることがあります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■ ブザーの一時消音について

- ミュート（消音）させるとき：

マルチインフォメーションディスプレイに検知した画面が表示されているときに DISP スイッチを押すと、一時的にブザー音を消すことができます。
- ミュート（消音）が自動解除されるとき：
 - ・ シフトポジションを切りかえたとき
 - ・ 車速が約 10km/h をこえたとき
 - ・ クリアランスソナーを OFF にし、再度 ON にしたとき
 - ・ エンジン スイッチを OFF にし、再度イグニッション ON モードにしたとき

■ マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー使用できません
ソナーの汚れを除去してください」が表示されたとき

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。

この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。

トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー使用できません」
が表示されたとき

クリアランスソナーのシステムが一時的に使用不可と判断しています。

しばらく走行してからクリアランスソナーを再度設定してください。

■ カスタマイズ機能

ブザーの音量などの変更ができます。(→ P. 80, 426)

 **警告**

■ クリアランスソナーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車速が約 10km/h をこえないようにしてください。
- センサーの検知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）センサー検知範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。
- センサーが検知する範囲にはアクセサリ用品などを取り付けないでください。

 **警告****■ センサーについて**

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても検知しないことがあります。
- センサーを手などで覆ったとき
- 炎天下や寒冷時
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが付近にいたとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 冠水している道路でセンサーに水が被ったとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 市販のフェンダーポール・無線機アンテナ・フォグランプを車に付けたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- バンパー真下付近は検知しません。センサーより低いものや細い杭などは、一度検知しても接近すると突然検知しなくなることがあります。
- センサーに障害物が近付きすぎたとき
- バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくななどの強い衝撃を与えたとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき
- けん引フックを取り付けたとき
- 字光式ナンバープレートを取り付けたとき

上記に加えて障害物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。

 **警告****■ 正確に検知できないことがある障害物**

次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの
- 人・動物などの動いているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

 **注意****■ クリアランスソナー使用時の注意**

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 障害物を検知してない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき
- センサー一部付近に物をぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- バンパーをぶつけたとき
- ブザー音がしないのにクリアランスソナーの作動表示が点灯したままのとき

■ 洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

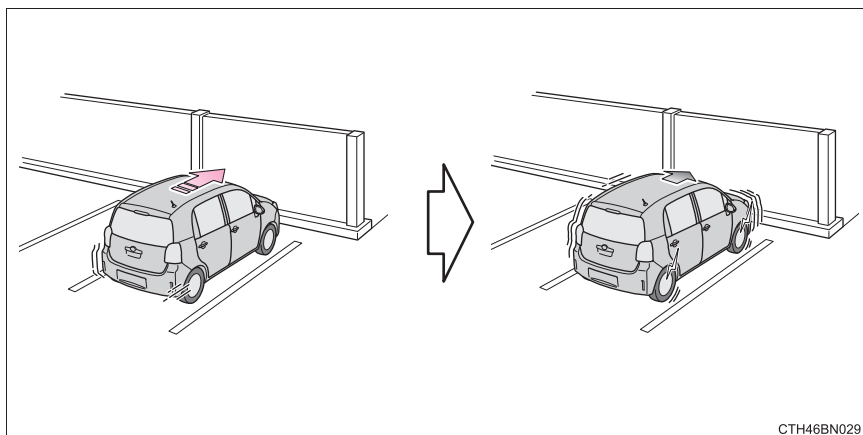
パーキングサポートブレーキ（静止物）★

駐車時や低速走行時における障害物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の静止している障害物を検知するとシステムが作動し、壁などの障害物への衝突を緩和し被害低減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の静止している障害物を検知してシステムが作動します。

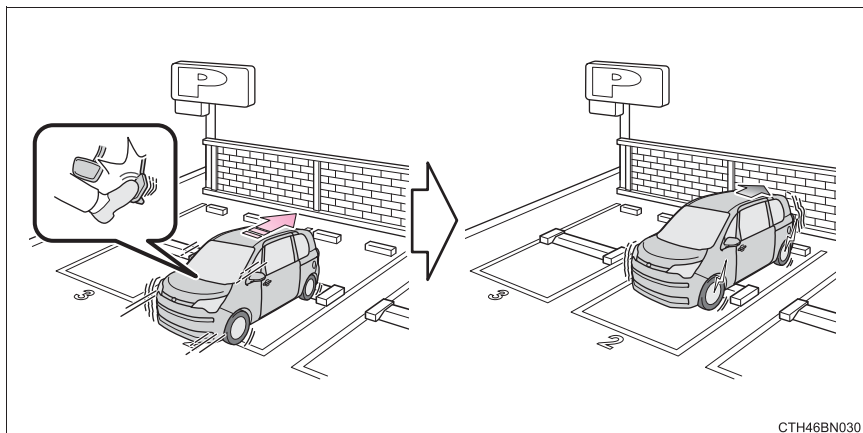
- ◆ 低速走行時にブレーキペダルを踏み忘れてしまった、または踏み遅れてしまったとき



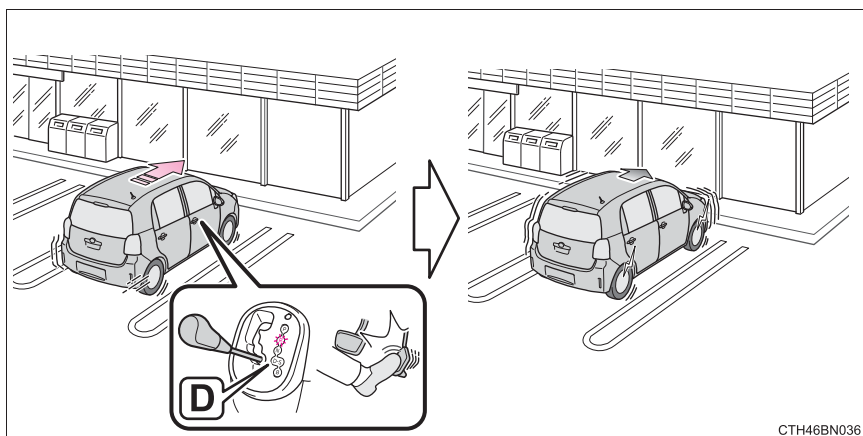
CTH46BN029

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき

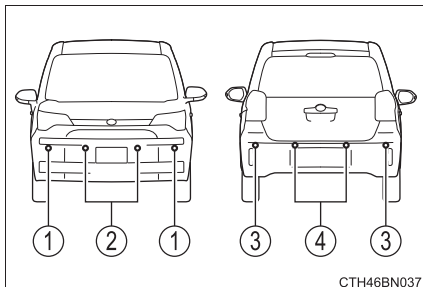


◆ シフトポジションの選択を誤って発車してしまったとき



センサーの位置・種類

- ① フロントコーナーセンサー
- ② フロントセンターセンサー
- ③ リヤコーナーセンサー
- ④ バックセンサー



パーキングサポートブレーキ（静止物）の設定変更

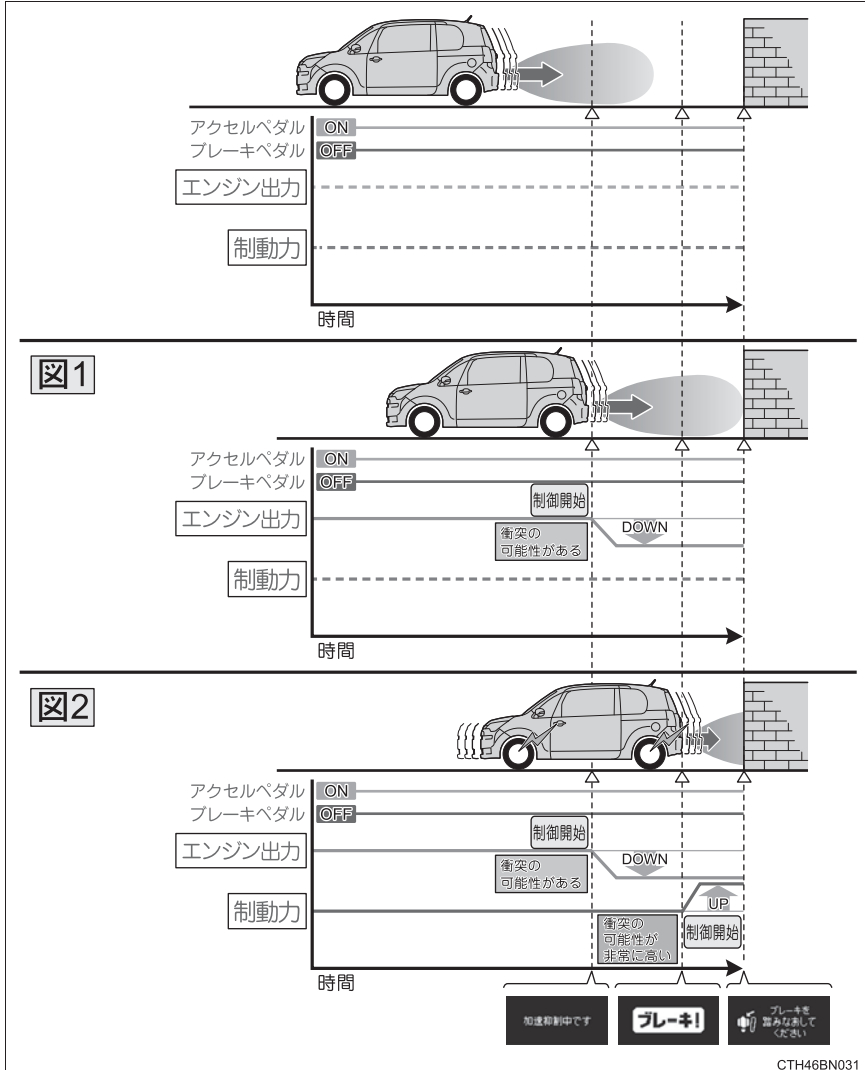
マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズモードでON(作動)・OFF(停止)を切りかえることができます。(→P. 80)

パーキングサポートブレーキ（静止物）がOFF（非作動）になっているときは、PKSB OFF 表示灯が点灯します。

OFF を選択して、パーキングサポートブレーキ（静止物）を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズモードからONを選択し、システム作動状態にしないとパーキングサポートブレーキ（静止物）は復帰しません。（エンジン スイッチの操作では復帰しません）

作動について

パーキングサポートブレーキ（静止物）は、衝突の可能性がある静止している障害物を検知したとき、エンジンの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（エンジン出力抑制制御：下記図 1）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：下記図 2）



CTH46BN031

作動条件について

■ 作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→ P. 241, 245）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- ▶ エンジン出力抑制制御
 - ・ パーキングサポートブレーキ（静止物）を ON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が 15km/h 以下
 - ・ 車両進行方向に静止している障害物がある（2 ～ 4m 先まで）
 - ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断した
- ▶ ブレーキ制御
 - ・ エンジン出力抑制制御作動中
 - ・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断した

■ 作動終了条件



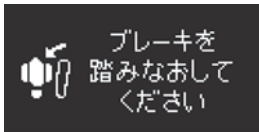
次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- ▶ エンジン出力抑制制御
 - ・ パーキングサポートブレーキ（静止物）を OFF（停止）にした
 - ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になった
 - ・ 車両進行方向の静止している障害物がなくなった（2 ～ 4m 先まで）
- ▶ ブレーキ制御
 - ・ パーキングサポートブレーキ（静止物）を OFF（停止）にした
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過した
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだ
 - ・ 車両進行方向の静止している障害物がなくなった（2 ～ 4m 先まで）

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

制御	状況	マルチインフォメーションディスプレイ表示	PKSB OFF 表示灯	ブザー
エンジン出力抑制制御作動中（加速制限制御）	一定以上の加速ができない状況		消灯のまま	“ポーン” (単発音)
エンジン出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）	通常よりやや強めのブレーキ操作が必要な状況		消灯のまま	
ブレーキ制御作動中	急ブレーキが必要な状況		点灯	
システム作動により車両停止	ブレーキ制御作動後に車両が停止した状況			

 知識**■ センサーの検知範囲について**

パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→ P. 231）とは異なります。

そのため、クリアランスソナーが障害物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（静止物）は作動を開始していません。

■ システムが作動したとき

システム作動により車両が停止した場合、パーキングサポートブレーキ（静止物）が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。

作動した場合でもブレーキ制御は 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏めば発進できます。

■ システムの復帰について

システム作動によりパーキングサポートブレーキ（静止物）が停止したときに、パーキングサポートブレーキ（静止物）を復帰させたい場合は、再度、パーキングサポートブレーキ（静止物）を ON にし停止を解除（→ P. 238）するか、エンジン スイッチをいったん OFF にしてから再度、イグニッション ON モードにしてください。

また、進行方向の障害物がなくなった状態で車両を走行させたとき、または車両の進行方向が入れかわった（前進から後退、または後退から前進に切りかえた）ときはシステムが自動的に復帰します。

■ センサーが検知しない障害物について

次のような障害物は、センサーが検知しない場合があります。

- クリアランスソナーの検知エリア外に障害物がある（約 4.0m）
- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの（特に人は衣類の種類によっても検知できない場合があります）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凸凹なもの、波打っているもの
- 背の低いもの
- 針金・フェンス・ロープ・標識の支柱などの細いもの
- バンパーに非常に近いもの
- 静止していない障害物

■ クリアランスソナーのブザーについて

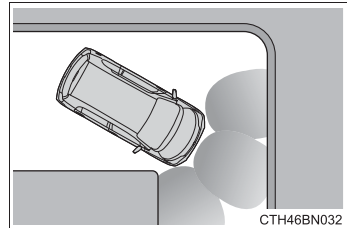
クリアランスソナーの ON/OFF に関係なく（→ P. 229）、パーキングサポートブレーキ（静止物）を停止させていなければ（→ P. 238）、前側センサーまたはうしろ側センサーが障害物を検知してブレーキ制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、障害物とのおよその距離をお知らせします。

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

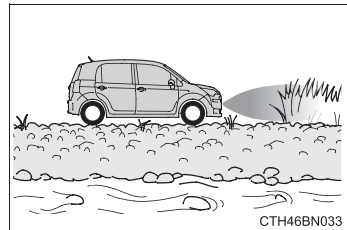
次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●周辺環境の影響

- ・狭い道路を走行するとき



- ・砂利道・草むらなどを走行するとき



- ・垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETCのバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- ・道路脇に障害物があったとき（狭いトンネル・狭い鉄橋・狭い道路などを走行したとき）
- ・縦列駐車時
- ・地面にわだちや穴がある場合
- ・排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- ・急な登坂路を走行するとき
- ・冠水している道路でセンサーに水が被ったとき

●天候の影響

- ・センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- ・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- ・霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況

●他の音波の影響

- ・他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両検知器・他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ・センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化

- ・ 車両姿勢が大きく傾いたとき
- ・ 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ・ 衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

■万一、踏切などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したとき

万一、踏切などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動しても、ブレーキ制御は約2秒で解除されるため、そのまま前進することで脱出できます。また、ブレーキペダルを踏んでも、ブレーキ制御は解除されるため、再度アクセルペダルを踏むことで前進し、脱出できます。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

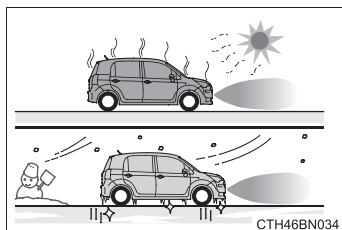
次のような状況では、システムが正常に作動しない場合があります。

●周辺環境の影響

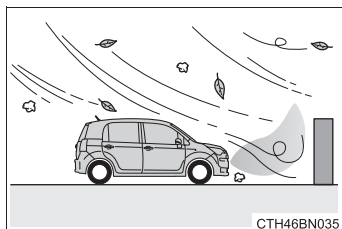
- ・ 検知できる障害物と車両のあいだに、検知できない障害物がある場合
- ・ 車・二輪車・自転車・歩行者などの障害物が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●天候の影響

- ・ 炎天下や寒冷時でセンサー周辺部が著しく高温または低温の場合



- ・ 風が強いとき



- ・ センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- ・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- ・ 霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況

●他の音波の影響

- ・他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両検知器・他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ・センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化

- ・車両姿勢が大きく傾いたとき
- ・積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ・衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき
- ・シフトレバーがNの状態のとき

■バッテリーを脱着したとき

システムを初期化する必要があります。
約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ 現在使用できません」が表示され PKSB OFF 表示灯が点滅したとき

- センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。
- センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、センサーが汚れていなくても表示が出るときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- バッテリーを脱着したあとにシステムの初期化がされていないことが考えられます。システムの初期化を行ってください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ故障 販売店で点検してください」が表示され PKSB OFF 表示灯が点滅しブザーが鳴ったとき

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

 **警告****■安全にお使いいただくために**

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。パーキングサポートブレーキ（静止物）は衝突緩和という支援ができる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- パーキングサポートブレーキ（静止物）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約2秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

■システムを正しく作動させるために

センサー（→ P. 238）について、次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 改造・分解・塗装などをしない
- アクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない
- 純正品以外に交換しない
- センサー周辺へ衝撃を与えない
- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておく

■サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが障害物を正しく検知できなくなり、システムが作動しなくなったり、不要に作動してしまう場合があるため、サスペンションの改造はしないでください。

 **注意****■ センサーの故障を防ぐために**

- センサー周辺に衝撃を受けたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

■ 不要な作動を防ぐために

次のときは、パーキングサポートブレーキを OFF にしてください。
衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- けん引フック、バンパプロテクター、バンパトリム、サイクルキャリア、除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けた場合
- 自動洗車機を使用する場合

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
(タイヤについて：→ P. 318)

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止め※¹をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと※²を確認してください。

※¹ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

※² ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約0.5～1.0km 走行したら締め直しを行う

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

 **警告****■ 冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を指定値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低いほうをこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

 **注意****■ タイヤチェーンの使用について**

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。

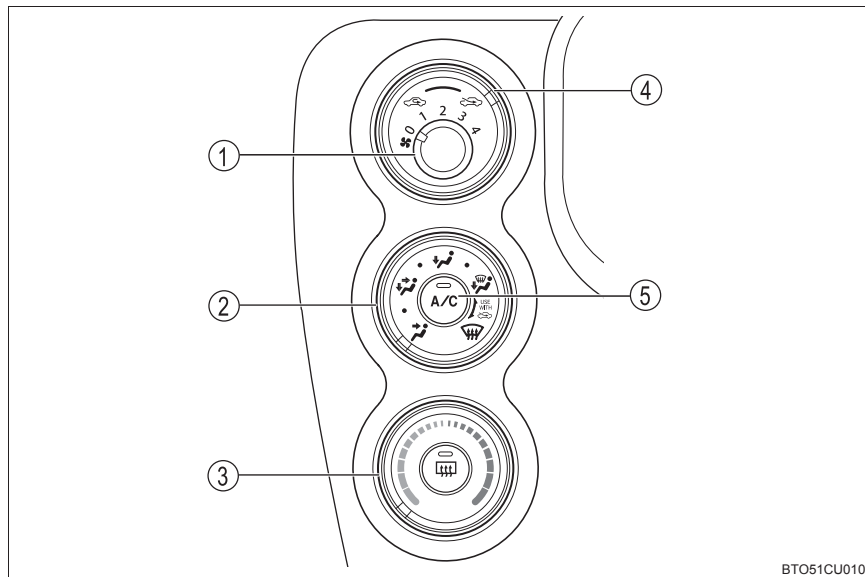
ガラスがひび割れるおそれがあります。

室内装備・機能

5

5-1. エアコンと デフォグガーの使い方	
マニユアルエアコン.....	252
オートエアコン.....	257
リヤウインドウ デフォグガー (曇り取り).....	266
フロントワイパー デアイサー.....	268
5-2. 室内灯のつけ方	
室内灯一覧.....	269
・インテリアランプ (前側).....	270
・パーソナルランプ.....	270
・インテリアランプ (うしろ側).....	270
5-3. 収納装備	
収納装備一覧.....	272
・運転席アッパートレイ.....	274
・助手席アッパートレイ.....	275
・助手席グローブ ボックス.....	275
・カップホルダー.....	277
・ベンチシート カップホルダー付 クッショントレイ.....	278
・カードホルダー.....	279
・小物入れ.....	279
・センターマルチ ボックス.....	281
・シートポケット.....	283
・ボトルホルダー.....	284
・アンブレラホルダー.....	285
・ドアポケット.....	286
5-4. その他の室内装備の 使い方	
サンバイザー/ バニティミラー.....	287
時計.....	288
外気温度表示.....	289
アクセサリーソケット.....	290
ポストカードホルダー.....	291
運転席アームレスト.....	292
シートヒーター.....	293
ステアリングヒーター.....	295
買い物フック.....	296
ステアリングスイッチ.....	297
ラゲージルーム内装備.....	299
アシストグリップ.....	301
コートフック.....	302


マニュアルエアコン★



BTO51CU010

- | | |
|-----------------|---------------------|
| ① 風量調節ダイヤル | ④ 外気導入・内気循環切りかえダイヤル |
| ② 吹き出し口切りかえダイヤル | ⑤ エアコン ON・OFF |
| ③ 温度調節ダイヤル | |

エアコンの設定

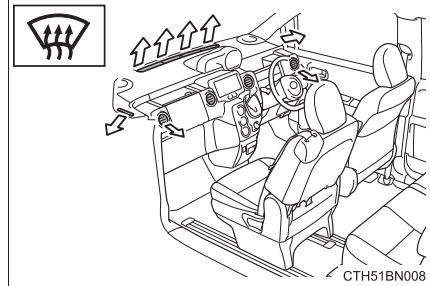
- 1 風量を調節するには、風量調節ダイヤルを右（増）か左（減）へまわす
送風を止めるときはダイヤルを0の位置に合わせてください。
- 2 温度設定を変更するには温度調節ダイヤルを右（暖）か左（冷）へまわす
 が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。
- 3 吹き出し口を切りかえるには、吹き出し口切りかえダイヤルをまわして吹き出し口を選ぶ
ダイヤルの位置を各吹き出し口のあいだにすると、吹き出し口を細かく選択できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントウインドウガラスの曇りを取るには


- 1 吹き出し口切りかえダイヤルを

 の位置にする



- 2 外気導入・内気循環切りかえダイヤルを  の位置にまわす

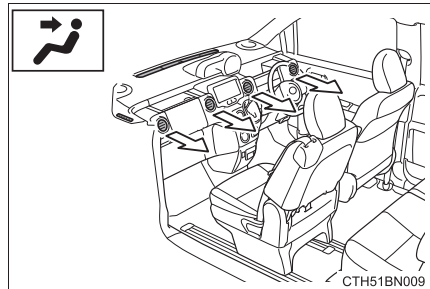
- 3 状況に応じて次の操作を行う

- 風量調節ダイヤルで風量を調節する
- 温度調節ダイヤルで温度を調節する
-  を押してエアコンを ON にする

風量を強くし、送風温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

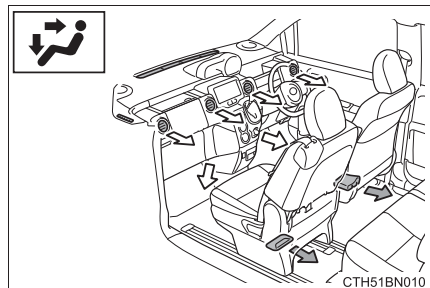
吹き出し口と送風について

上半身に送風する



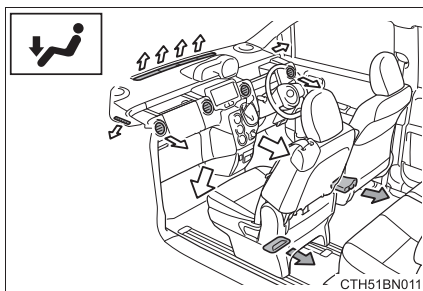
上半身と足元に送風する

← : 寒冷地仕様車のみ



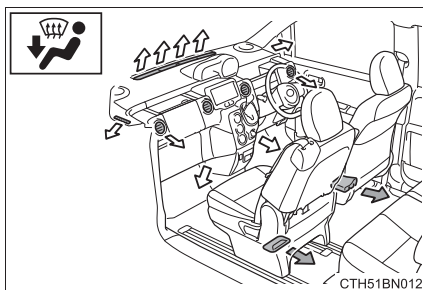
足元に送風する

←：寒冷地仕様車のみ





足元に送風・ガラスの曇りを取る

←：寒冷地仕様車のみ

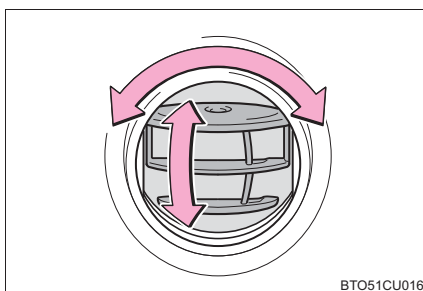


外気導入・内気循環を切りかえるには

外気導入・内気循環切りかえダイヤルを  の位置にまわすと外気導入、 の位置にまわすと内気循環に切りかわります。

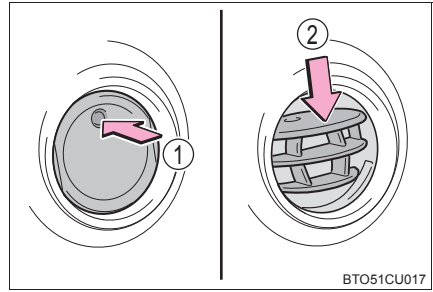
風向き調整と吹き出し口の開閉

吹き出し口の調整





吹き出し口の開閉

- ① 開ける
- ② 閉じる


 知識

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、 を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
-  を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入・内気循環について

トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

■ エアコン使用中に  の作動表示灯が消灯したときは

システムの異常が考えられますので、安全な場所に車を止めて、いったんエアコンスイッチを OFF にしてから、もう一度 ON にしてください。再度消灯する場合は、スイッチを OFF にしてからトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 外気温度が 0℃ 近くまで下がったとき

 を押しても除湿効果が働かない場合があります。


■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■ エアコンフィルターについて

→ P. 348

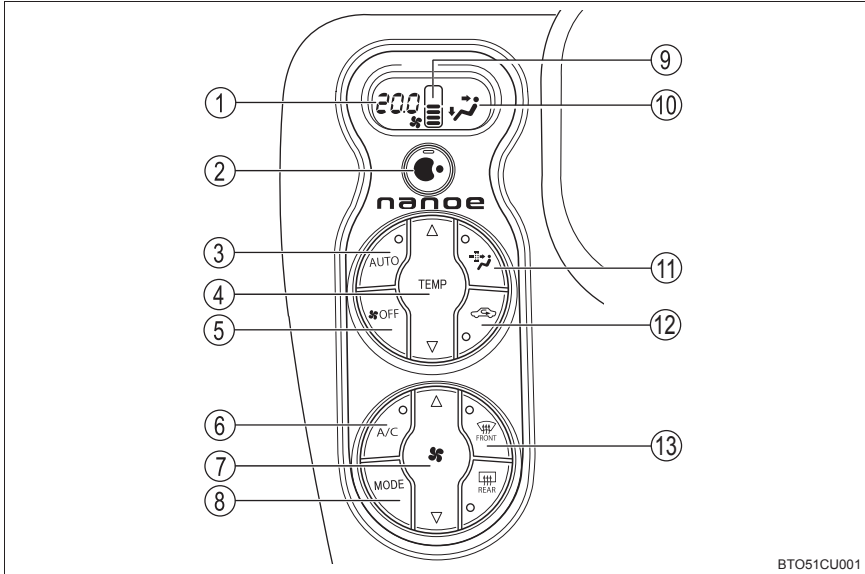
▲ 警告**■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために**

外気の湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切りかえダイヤルを  の位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

▲ 注意**■ バッテリーあがりを防ぐために**

エンジン停止中は、必要以上にエアコンを使用しないでください。

オートエアコン★




- | | |
|----------------|--------------------|
| ① 温度表示 | ⑧ 吹き出し口切りかえ |
| ② 「ナノイー」 | ⑨ 風量表示 |
| ③ オート設定 | ⑩ 吹き出し口表示 |
| ④ 温度調節 | ⑪ 花粉除去 |
| ⑤ 送風停止 | ⑫ 内外気切りかえ |
| ⑥ エアコンの ON・OFF | ⑬ フロントウインドウガラス曇り取り |
| ⑦ 風量調節 | |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オートエアコンを使うには

- 1  を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

- 2 温度設定を変更するには  の △ (暖) か ▽ (冷) を押す


- 3  を押す

押すたびにエアコンの ON / OFF が切りかわります。


■ オート設定時の作動表示灯について


風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。


お好みの設定で使うとき

- 1 風量を調節するには  の △ (増) か ▽ (減) を押す

送風を止めるときは  を押します。

- 2 温度設定を変更するには  の △ (暖) か ▽ (冷) を押す

 が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

- 3 吹き出し口を切りかえるには  を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

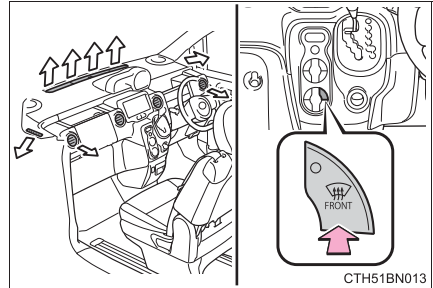
フロントウィンドウガラスの曇りを取るには



を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に切りかわる場合もあります)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。



曇りが取れたら再度

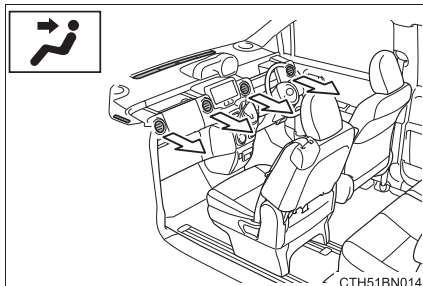


を押すと前

のモードにもどります。

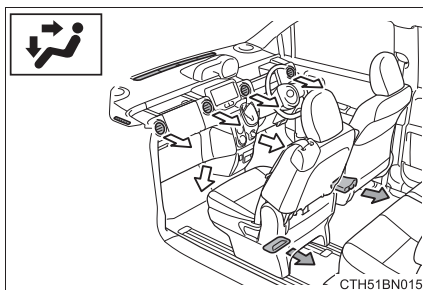
吹き出し口と送風について

上半身に送風する



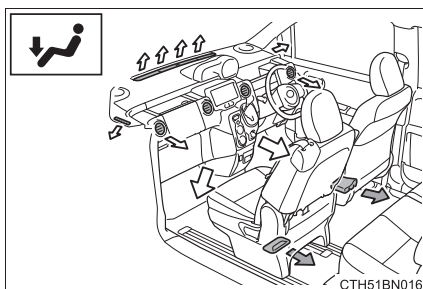
上半身と足元に送風する

←：寒冷地仕様車のみ



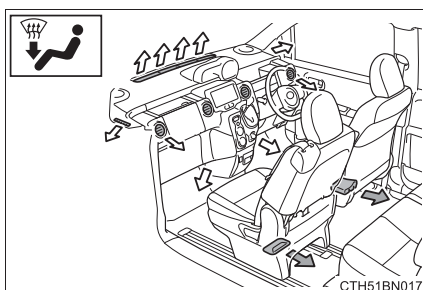
足元に送風する

←：寒冷地仕様車のみ



足元に送風・ガラスの曇りを取る

←：寒冷地仕様車のみ




外気導入・内気循環を切りかえるには



を押す

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環に切りかわります。

内気循環を選択しているときは、 の表示灯が点灯します。

花粉除去機能を使うには



を押す

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。通常約 3 分後に




を押す前のモードにもどります。

途中で止めるときは、再度  を押すと前のモードにもどります。

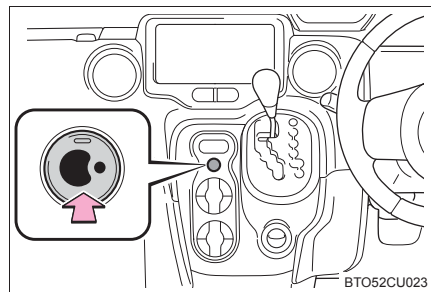
「ナノイー」を使うには

スイッチを押す

エアコン送風時に「ナノイー」が作動

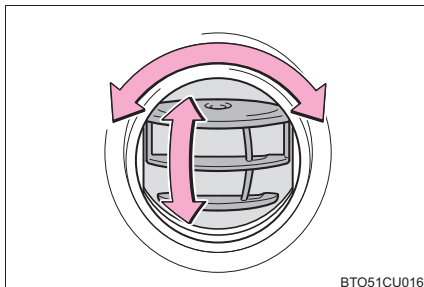
し、 の表示灯が点灯します。

(「ナノイー」について：→ P. 264)



風向き調整と吹き出し口の開閉

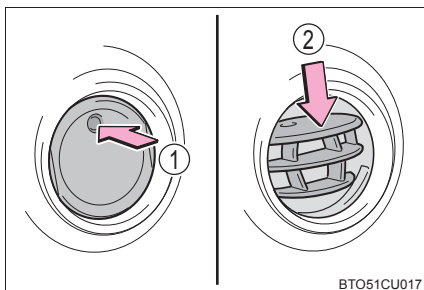
吹き出し口の調整



BTO51CU016

吹き出し口の開閉


- ① 開ける
- ② 閉じる





BTO51CU017

 **知識**

■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、 を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入・内気循環について

トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。


■ エアコン使用中に の作動表示灯が消灯したときは

システムの異常が考えられますので、安全な場所に車を止めて、いったんエアコンスイッチを OFF にしてから、もう一度 ON にしてください。再度消灯する場合は、スイッチを OFF にしてからトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 外気温度が 0℃ 近くまで下がったとき

 を押しても除湿効果が働かない場合があります。

■ 花粉除去モードについて

- 外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために次のような作動をする場合があります。
 - ・ 内気循環に切りかわらない
 - ・ 除湿機能が作動する
 - ・ 約 1 分後に作動が停止する
- 雨天時はガラスが曇るため、 を押してください。
- 湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。
- 花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■「ナノイー」※¹について

エアコンには「ナノイー」技術が搭載されています。この技術は運転席側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気で満たします※²。

●「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

- ・吹き出し口が 、または  のとき
- ・運転席側の吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

※¹ 「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※² 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

→ P. 348

■販売店で設定可能な機能

AUTO スイッチを ON にしたとき、連動して外気導入と内気循環を切りかえるかどうかなどの変更ができます。

(カスタマイズ一覧：→ P. 428)

 **警告****■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために**

外気の湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、



を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■ 「ナノイー」について

このシステムは、高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店に問い合わせください。

 **注意****■ バッテリーあがりを防ぐために**

エンジン停止中は、必要以上にエアコンを使用しないでください。

■ 「ナノイー」の損傷を防ぐために

運転席の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

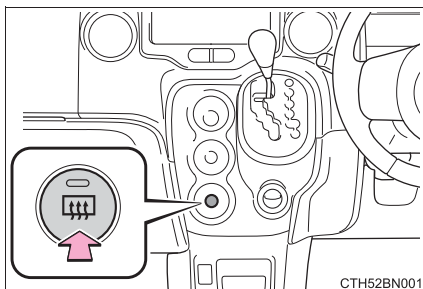
リヤウインドウデフォグラー（曇り取り）

リヤウインドウの曇りを取るときにお使いください。

▶ マニュアルエアコン装着車

オン／オフ

押すごとにオン／オフが切りかわり、
作動中は表示灯が点灯します。

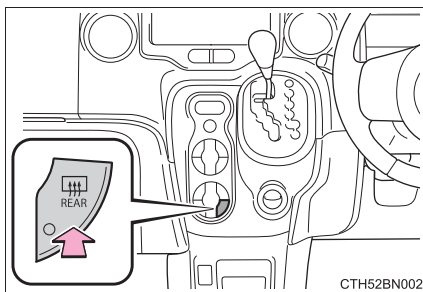


▶ オートエアコン装着車

オン／オフ

押すごとにオン／オフが切りかわり、
作動中は表示灯が点灯します。
リヤウインドウデフォグラーは自動的に
オフになります。

作動時間は外気温度や車速によって
かわります。



知識

■ 作動条件

エンジン スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ミラーヒーターについて（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォグラーをオンにするとミラーヒーターも同時に作動し
ます。

 **警告****■ ミラーヒーター作動中の警告（ミラーヒーター装着車）**

ドアミラー表面が熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

 **注意****■ バッテリーあがりを防ぐために**

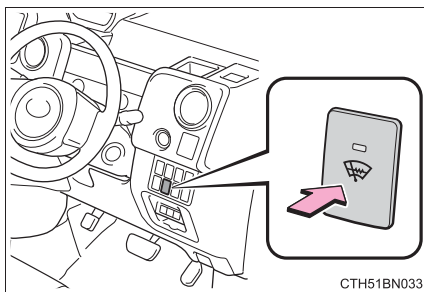
連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

フロントワイパーデアイサー★

フロントウィンドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにお使いください。

オン/オフ

フロントワイパーデアイサーは約 15 分で自動的にオフになります。



知識

■ 作動条件

エンジン スイッチがイグニッション ON モードのとき

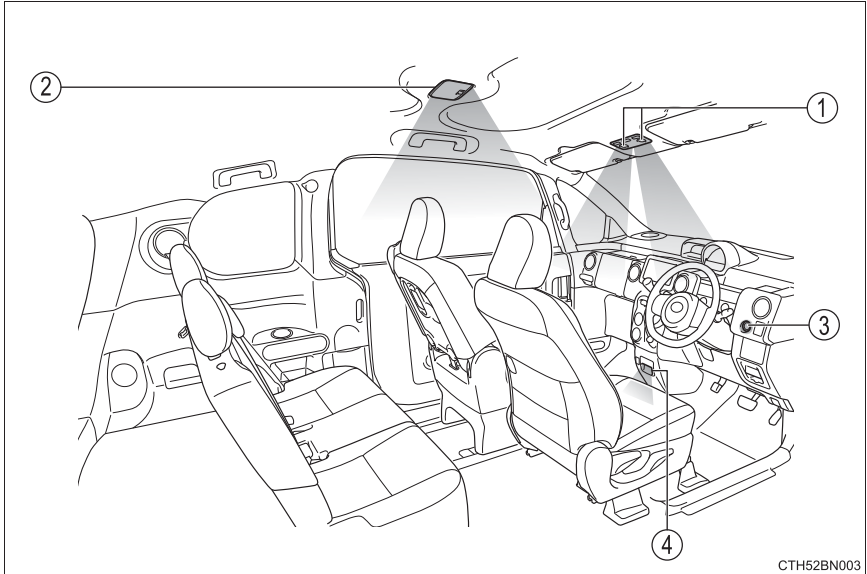
警告

■ 作動中の警告

フロントウィンドウガラス下部および運転席側フロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

室内灯一覧

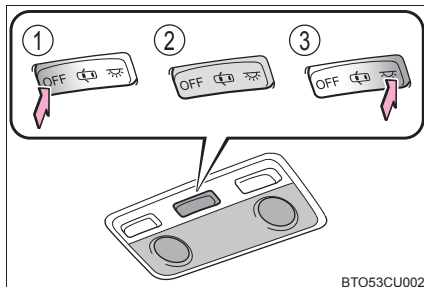


- ① パーソナルランプ／インテリアランプ（前側）（→ P. 270）
- ② インテリアランプ（うしろ側）（→ P. 270）
- ③ エンジン スイッチ照明
- ④ フロント足元照明★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

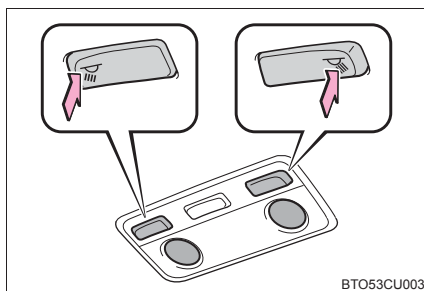
インテリアランプ（前側）

- ① ランプを消灯する
- ② ドアポジション（ドア連動）
- ③ ランプを点灯する



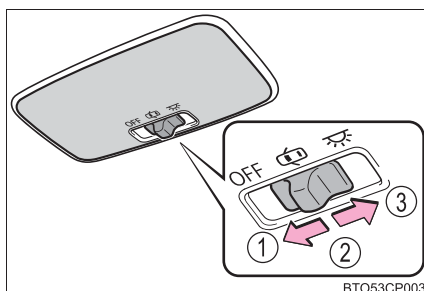
パーソナルランプ

ランプを点灯・消灯する



インテリアランプ（うしろ側）

- ① ランプを消灯する
- ② ドアポジション（ドア連動）
- ③ ランプを点灯する



 知識■ **イルミネーテッドエントリーシステム**

インテリアランプのスイッチがドアポジションのとき、ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジン スイッチの状態により、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■ **バッテリーあがりを防ぐために**

インテリアランプのスイッチがドアポジションで、エンジン スイッチが OFF の場合、室内灯が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

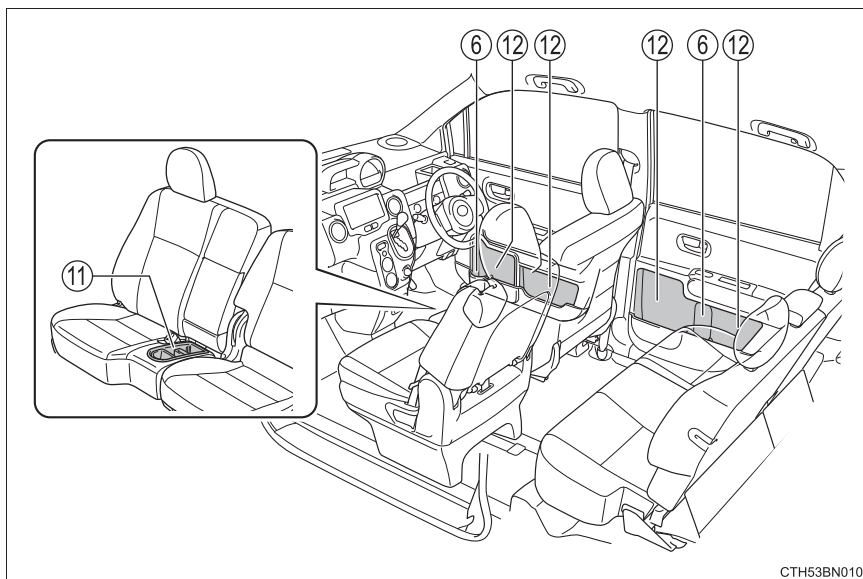
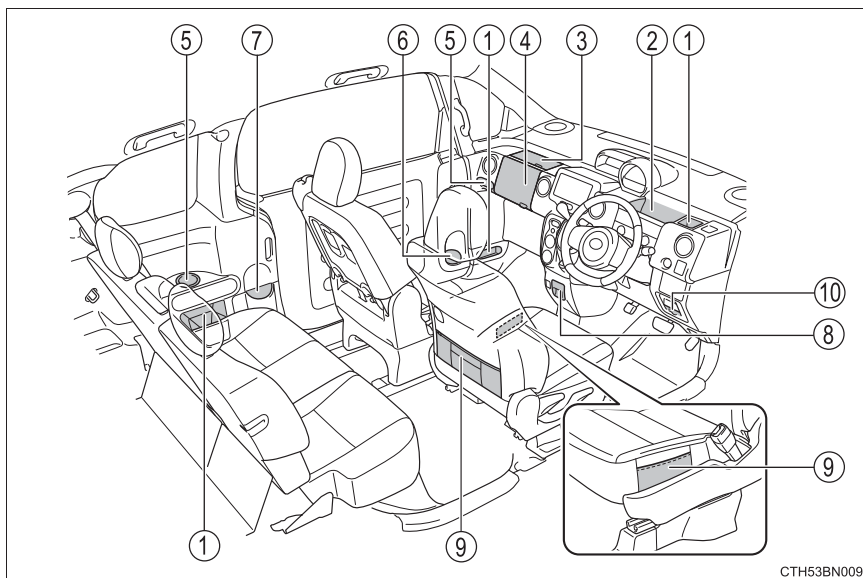
■ **販売店で設定可能な機能**

室内灯の消灯までの時間などの変更ができます。
(カスタマイズ一覧：→P. 428)

 **注意**■ **バッテリーあがりを防ぐために**

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

收納裝備一覽



- | | |
|----------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| ① 小物入れ (→ P. 279) | ⑧ センターマルチボックス★
／センタークラスター
小物入れ★ (→ P. 279, 281) |
| ② 運転席アッパートレイ (→ P. 274) | ⑨ シートポケット★ (→ P. 283) |
| ③ 助手席アッパートレイ (→ P. 275) | ⑩ カードホルダー (→ P. 279) |
| ④ 助手席グローブボックス (→ P. 275) | ⑪ ベンチシート
カップホルダー付
クッショントレイ★ (→ P. 278) |
| ⑤ カップホルダー (→ P. 277) | |
| ⑥ ボトルホルダー (→ P. 284) | |
| ⑦ アンブレラホルダー★
／リヤシート前小物入れ★ (→ P. 280, 285) | ⑫ ドアポケット (→ P. 286) |

⚠ 警告

■ 収納装備に放置してはいけないもの

メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

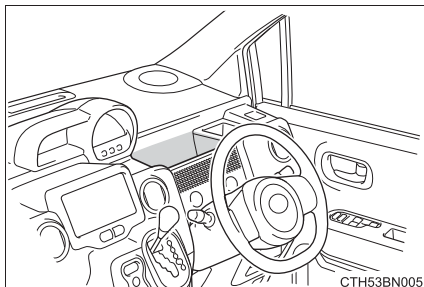
■ 収納装備を使わないときや走行中の留意事項

フタを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

運転席アッパートレイ



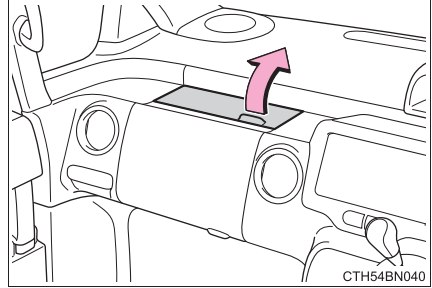
⚠ 警告

■ 運転席アッパートレイについて

- 運転中、視界をさえぎるようなものは収納しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転中、ハンドルのすき間から使用しないでください。腕がハンドルに挟まれてけがををするおそれがあります。
また、ハンドル操作に支障を及ぼすなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転席アッパートレイに転がりやすいものや倒れて外に出てくるような背の高いものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

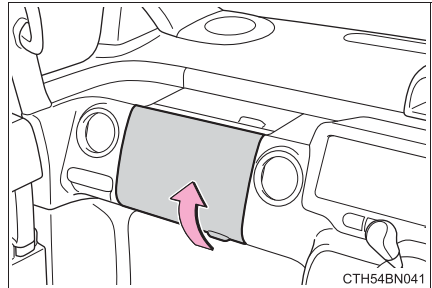
助手席アッパートレイ

フタを開ける



助手席グローブボックス

フタを開ける

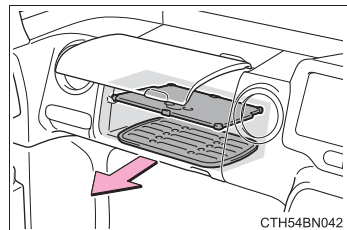


知識

■ 助手席グローブボックスについて

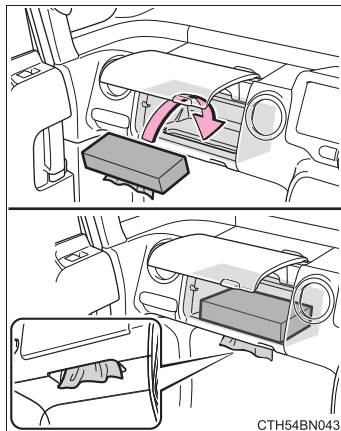
ティッシュボックスを収納し使用することができます。

- 1 中敷きトレイとゴムマットを取り出す



2 ティッシュボックスを設置する

ティッシュ取り出し口からティッシュペーパーが取り出せるように設置してください。

**3** 中敷きトレイ、ゴムマットをもどす

中敷きトレイをもどすときは、切りかき側を車両前方にして設置してください。

ゴムマットは運転席アッパートレイに収納できます。

警告**■ 走行中の警告**

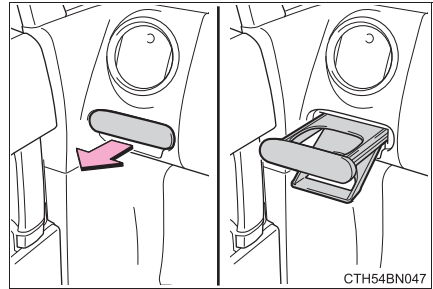
- 助手席グローブボックスとアッパートレイを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。
- 助手席アッパートレイのフタの上にものを置かないでください。
走行中、ものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

注意**■ 破損を防ぐために**

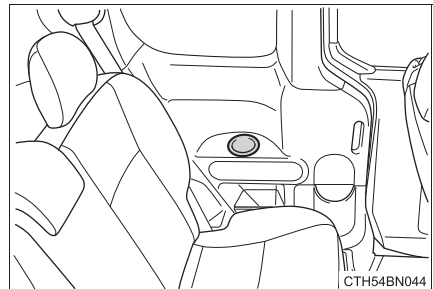
助手席シートの背もたれを前倒しするとき、もどすときは、助手席グローブボックスのフタを必ず閉じてください。ヘッドレストがフタにあたるおそれがあります。

カップホルダー

- ▶ 助手席カップホルダー
カップホルダーを引き出す



- ▶ リヤ左席クォータートリムカップホルダー



⚠ 警告

■ 収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

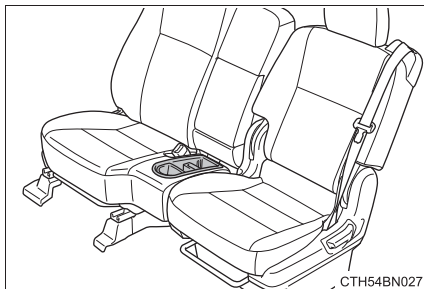
■ 使わないときは

カップホルダーを必ず収納してください。
急ブレーキ時などに、開いたカップホルダーに体が当たるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。

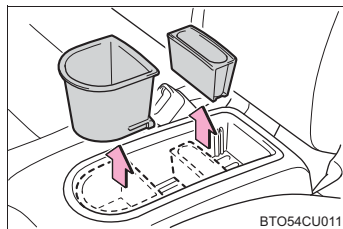
⚠ 注意

■ 破損を防ぐために

カップホルダーに手をついたり、足で踏んだりしないでください。
カップホルダーが破損するおそれがあります。

ベンチシートカップホルダー付クッショントレイ★**知識****■ベンチシートカップホルダー付クッショントレイの仕切りについて★**

仕切をはずし、大型トレイとして使用できません。

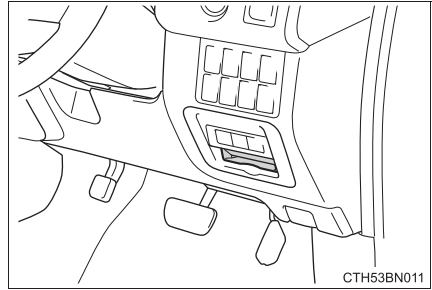
**警告****■収納してはいけないもの**

ベンチシートカップホルダー付クッショントレイのカップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。

急ブレーキや事故により落ちてけがをすることがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

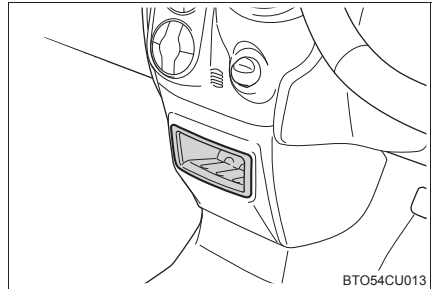
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

カードホルダー

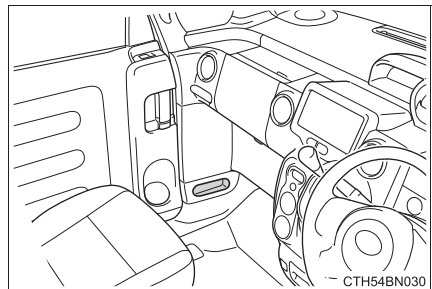


小物入れ

- ▶ センタークラスター小物入れ★

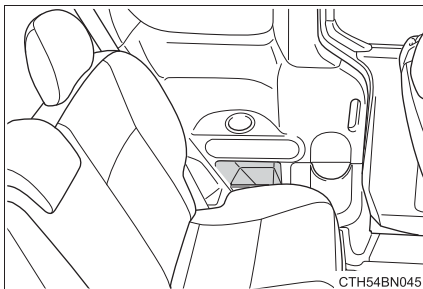


- ▶ インパネロアポケット

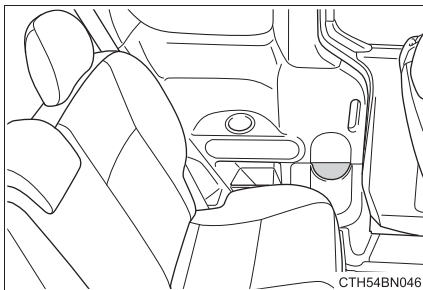


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

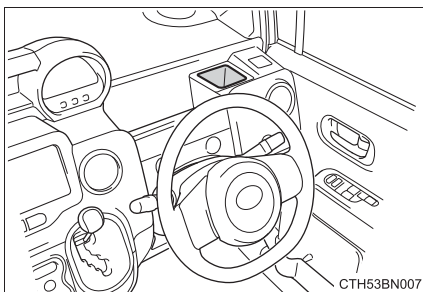
▶ リヤ左席クォータートリムポケット



▶ リヤシート前小物入れ（助手席側）★



▶ 運転席アッパー小物入れ



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告**■ 運転席アッパー小物入れについて**

ハンドル操作の支障になるもの、またはフタのない飲み物など、中身がこぼれる恐れのあるものは置かないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

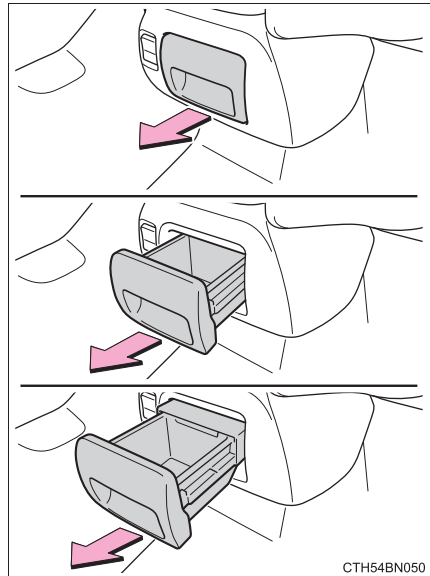
■ 収納してはいけないもの

小物入れに転がりやすいものや倒れて外に出てくるような背の高いものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

センターマルチボックス★

センターマルチボックスを引き出す

センターマルチボックスは2段引き出せます。小物入れとして使用するときにはアタッチメントをはずしてください。アタッチメントをはずすときは、センターマルチボックスを2段目まで引き出してください。



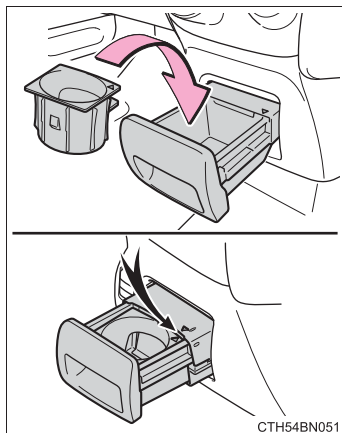
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ センターマルチボックスカップホルダー★

センターマルチボックスはカップホルダーとして使用することもできます。

カップホルダーとして使用するときには、センターマルチボックスを2段目まで引き出し三角マークを合わせてアタッチメントを設置してください。

 警告

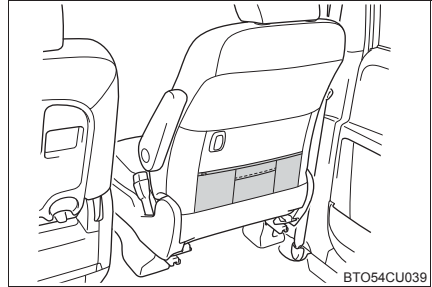
■ 収納してはいけないもの

小物入れに転がりやすいものや倒れて外に出てくるような背の高いものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

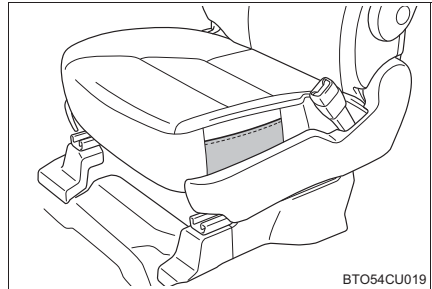
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートポケット

- ▶ 運転席シートバックティッシュポケット★

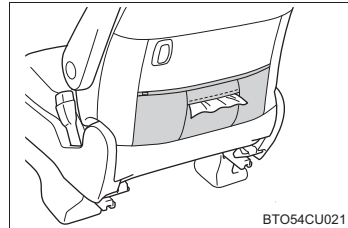


- ▶ 運転席クッションサイドポケット★



知識

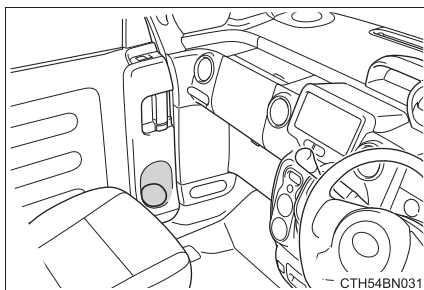
- 運転席シートバックティッシュポケットについて★
ティッシュボックス入れとして使用できます。



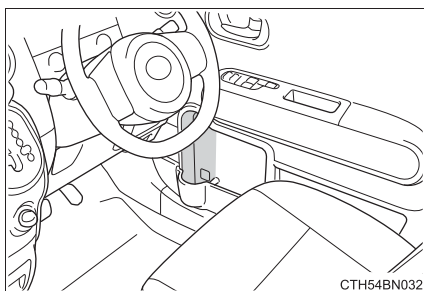
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボトルホルダー

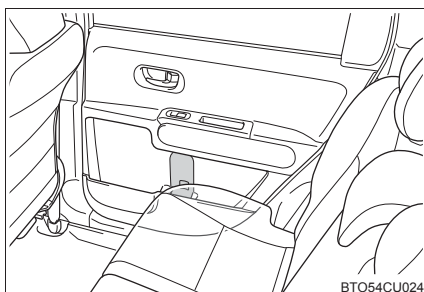
▶ 助手席ドアボトルホルダー



▶ 運転席ドアボトルホルダー



▶ リヤ右席ドアボトルホルダー



知識

■ ボトルホルダーについて

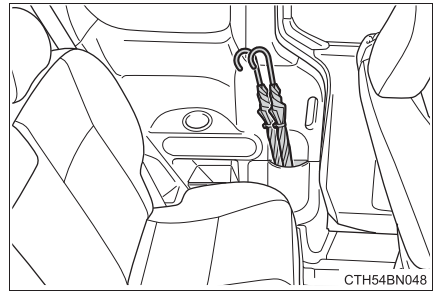
- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

⚠ 注意**■ 収納してはいけないもの**

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

アンブレラホルダー（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ非装着車）

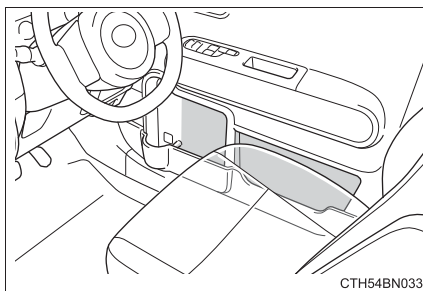
傘や杖を2本収納できます。

**⚠ 注意****■ アンブレラホルダーについて**

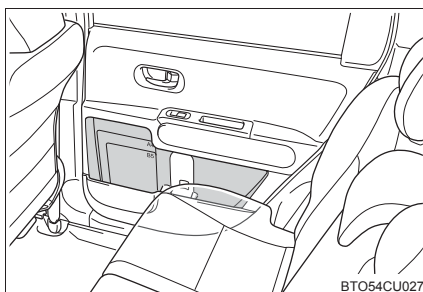
- 傘などの長尺物を出し入れするときは、スライドドア開口部に手をかけないでください。スライドドア開閉時、スライドドアで手や指を挟むなどして思わぬけがをするおそれがあります。
- 傘などの長尺物を入れるときは、スライドドア開口部からはみ出さないようにしてください。スライドドア開閉時、長尺物が挟まれ、スライドドアの故障の原因となります。

ドアポケット

▶ 運転席ドアポケット



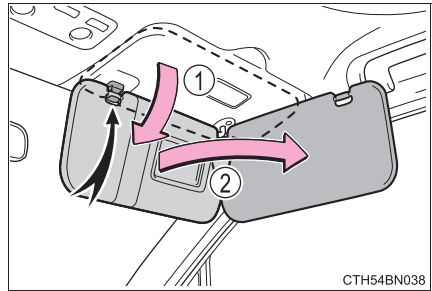
▶ リヤ右席ドアポケット



サンバイザー／バニティミラー

サンバイザー

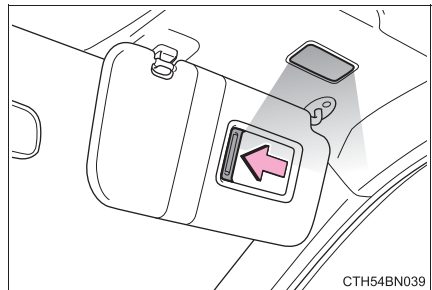
- ① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- ② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティランプが点灯します。★

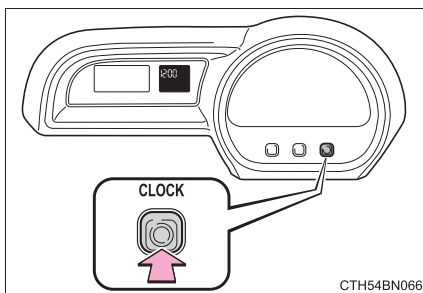


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

時計

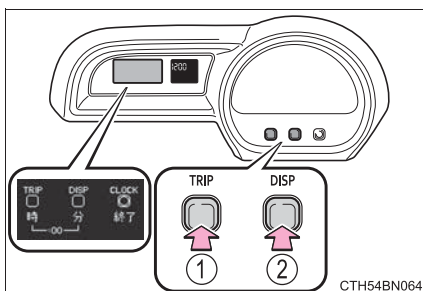
スイッチを押して時刻を調整することができます。

- 1 CLOCKスイッチを1秒以上押す



- 2 時刻を調整する

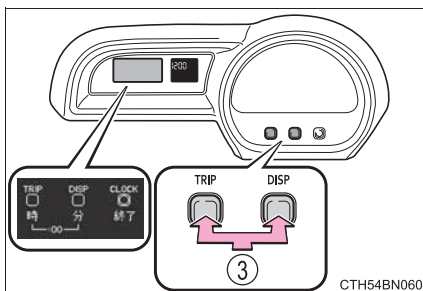
- ① “時” を調整する
② “分” を調整する



- 3 “分” を 00 にする*

TRIPスイッチとDISPスイッチを同時に1秒以上押します。

- * (例) 1:00 ~ 1:29 → 1:00
1:30 ~ 1:59 → 2:00



知識

■時刻が表示されるとき

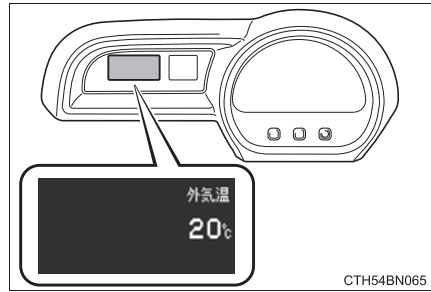
エンジンスイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

■バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

外気温度表示

-40℃から50℃のあいだで表示されます。



知識

■ 外気温度が表示されるとき

エンジン スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 外気温表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

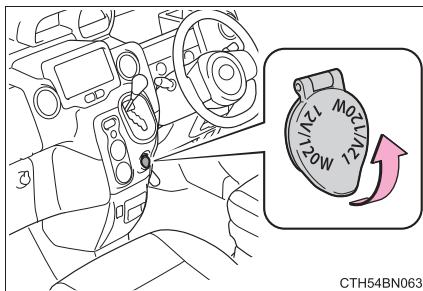
■ “ — ” または、 “ E ” が表示されたときは

システム異常の可能性ががあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

アクセサリースOCKET

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



知識

■ 使用条件

エンジン スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

■ エンジン スイッチを OFF にするとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、エンジン スイッチを正常に OFF することができなくなる場合があります。

⚠ 注意

■ ショートや故障を防ぐために

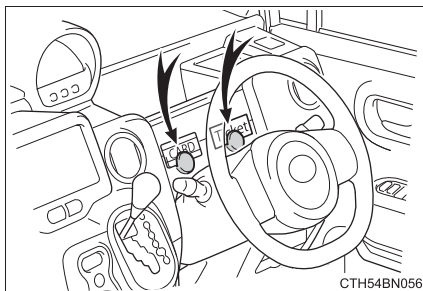
アクセサリースOCKETに異物が入ったり、飲料水などがかかたりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、アクセサリースOCKETを長時間使用しないでください。

ポストカードホルダー

領収書、チケット、カード類などを挟むことができます。



警告

■ポストカードホルダーについて

- 運転中、視界をさえぎるようなものは挟まないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 地図や写真など挟んであるものを見ながら運転しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転中、ハンドルのすき間から使用しないでください。腕がハンドルに挟まれてけがをするおそれがあります。
また、ハンドル操作に支障をおよぼすなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

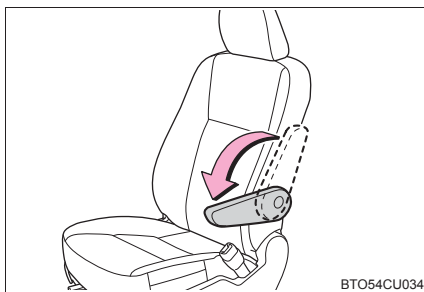
■損傷を防ぐために

分厚い紙などは挟まないでください。無理な力がかかると変形や、損傷などのおそれがあります。

運転席アームレスト★

手前に倒して使用します。

▶ 分割タイプシート



▶ ベンチタイプシート



⚠ 注意

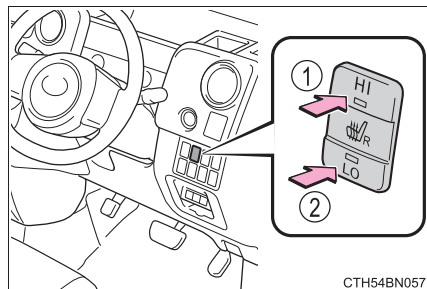
- アームレストの損傷を防ぐために過度な負荷をかけないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

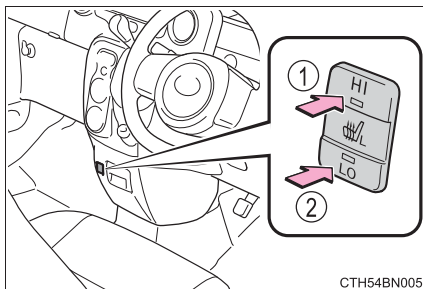
シートヒーター★

フロントシートを暖めることができます。

▶ 運転席側



▶ 助手席側



① HI (強)

インジケーター (黄) が点灯します。

② LO (弱)

インジケーター (黄) が点灯します。

知識

■ 作動条件

エンジン スイッチがイグニッション ON モードのとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■ やけどについて**

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方は特にご注意ください。
 - ・ 乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
 - ・ 皮膚の弱い方
 - ・ 疲労の激しい方
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方
- シートヒーターに毛布・クッションなどを使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり、異常加熱の原因になります。
- シートヒーターを必要以上に使用しないでください。
低温やけどを負ったり、シートヒーターの異常加熱の原因になるおそれがあります。

 **注意****■ シートヒーターの故障を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

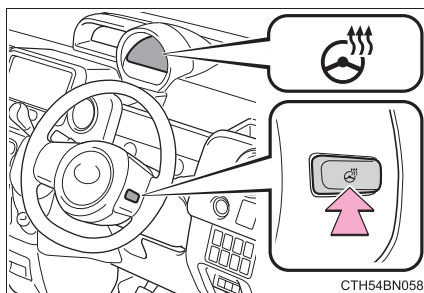
エンジンが停止しているときはスイッチを中立の位置にもどし、作動表示灯が消灯したことを確認してください。

ステアリングヒーター★

ハンドルの左右のグリップ部を暖めることができます。

オン/オフ

押すごとにオン/オフが切りかわり、作動中はステアリングヒーター表示灯が点灯します。



知識

■ 作動条件

エンジン スイッチがイグニッション ON モードのとき

⚠ 警告

■ 低温やけどについて

低温やけどを負うおそれがあるため、以下のかたがステアリングヒーターに触れないようにご注意ください。

- ・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
- ・ 皮膚の弱いかた
- ・ 疲労の激しいかた
- ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた

⚠ 注意

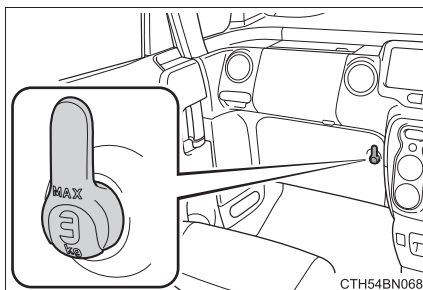
■ バッテリーあがりを防ぐために

バッテリーあがりを防ぐため、エンジンが停止した状態で使用しないでください。

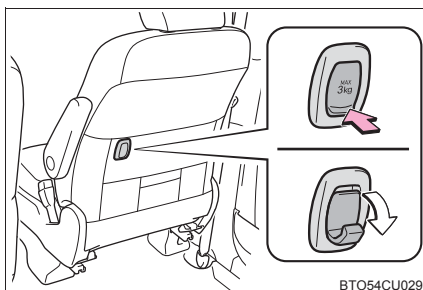
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

買い物フック

▶ 助手席買い物フック



▶ 運転席シートバック買い物フック★



⚠ 警告

■ 運転席シートバック買い物フックを使用しないときは

けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

⚠ 注意

■ 買い物フックの破損を防ぐために

3kg 以上のものをフックに吊り下げないでください。
フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

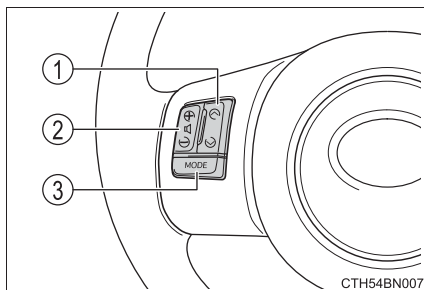
ステアリングスイッチ★

次の機能はハンドル左側にあるスイッチで、オーディオを操作することができます。


モードの切りかえや CD、ラジオなどの操作については、装着されたオーディオにより異なる場合や、操作できない場合があります。

● 販売店オプションのナビゲーションシステムや、オーディオの操作方は、各取扱書をご覧ください。

- ① CD・ラジオなどの操作
- ② 音量を調整する
- ③ 電源・モードの切りかえ



電源を入れる

 を押す

電源が ON のときは、長押しすると電源が OFF になります。


モードを切りかえる

オーディオの電源が ON のとき、 を押す

押すごとにモード（CD・ラジオなど）が切りかわります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音量を調整する

音量を大きくするには  の“+”側を、小さくするときは“-”側を押す

スイッチを押し続けると、音量を連続して調整できます。

警告

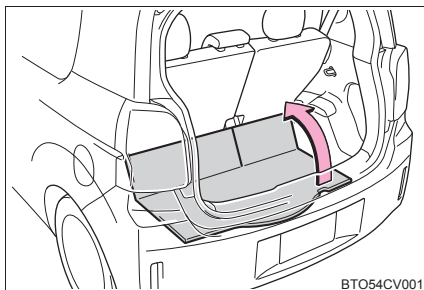
■ 事故を防ぐために

運転中にオーディオスイッチを操作するときは、十分注意してください。

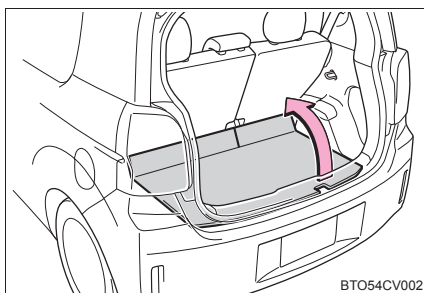
ラゲージルーム内装備

デッキボード

- ▶ FF 車（前輪駆動）



- ▶ 4WD 車（4輪駆動）

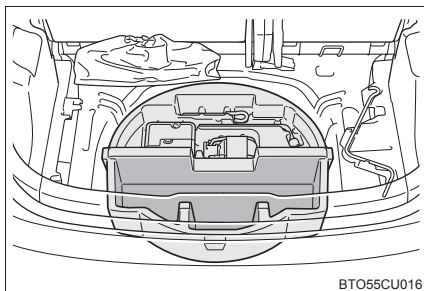


デッキアンダートレイ★

▶ FF車（前輪駆動）

デッキボードをはずす

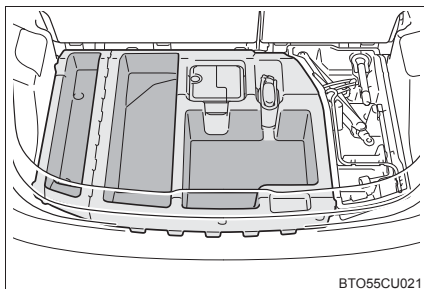
デッキアンダートレイには停止表示板を収納することができます。



▶ 4WD車（4輪駆動）

デッキボードをはずす

デッキアンダートレイには停止表示板を収納することができます。



知識

■デッキアンダートレイについて

停止表示板の種類によっては収納できないものもあります。

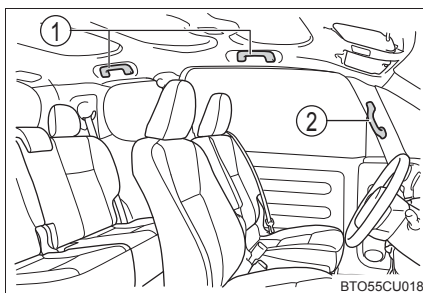
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップ（回転式）は、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

乗降時などでは、ピラーに取り付けられているアシストグリップ（固定式）をお使いください。

- ① アシストグリップ（回転式）★
- ② アシストグリップ（固定式）



⚠ 警告

■ アシストグリップ（回転式）について

アシストグリップ（回転式）は、乗降時やシートから立ち上がる時などに使用しないでください。

⚠ 注意

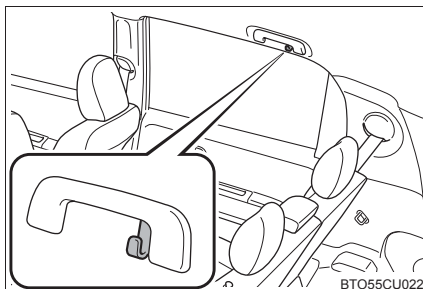
■ 破損を防ぐために

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

コートフック★

リヤの運転席側にはコートフックが付いています。



⚠ 警告

■ コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、
重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	304
内装の手入れ.....	309

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	312
ガレージジャッキ.....	314
ウォッシャー液の補充	317
タイヤについて.....	318
タイヤ空気圧について	322
キーの電池交換.....	324
ヒューズの点検・交換	326
電球（バルブ）の交換	333
エアコンフィルターの 交換	348

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。

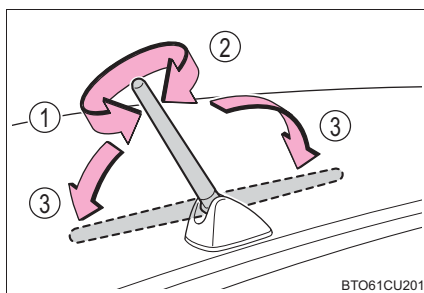
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

アンテナの取り扱いについて

洗車時には、アンテナを脱着、または格納することができます。

- ① 取りはずす
- ② 取り付ける
- ③ 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立ててください。



BTO61CU201

 知識**■ 革調シボ付ルーフフィルム・カーボン調ルーフフィルム★のお手入れ**

- 自動洗車機や高圧洗車機も使用できます。
- カーシャンプーなどの洗浄剤を使用する場合は、研磨剤を含まない中性の洗浄剤を使用してください。
- コーティングが施工されているため、ワックスをかける必要はありません。固形ワックスなどを使用した場合、フィルム表面の凹凸に固形物が残留し、外観を損なうことがあります。フィルム表面の凹凸に固形ワックスなどが残留した場合は、柔らかいブラシを使って取り除いてください。

■ 自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、アンテナを取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおり取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、アンテナが引っかかり洗車できない場合や傷付いたりするおそれがあります。

■ 高圧洗浄機を使うとき

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。
- 駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■ 洗車などで車に水をかけたとき

電子キーが作動範囲内にある場合、洗車などで水圧にてドアハンドル表面にあるロック／アンロックスイッチが押され、ドアが解錠・施錠することがあります。（解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・硬いブラシを使用しない
 - ・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■バンパーおよびサイドモールディング

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ドアガラスの撥水コーティング★について

- 撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
 - ・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
 - ・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
 - ・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
 - ・金属製の道具で霜取りをしない
- 水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウインドウガラスを清掃するときは

フロントウインドウガラスの前方センサー取り付け部について：→ P. 185

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **注意****■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。
- 高圧洗車機を使うときは、ノズルの先端を車体から 50cm 以上離れた状態で使用してください。ノズル先端を車体に近付けて使用すると、ランプ内または室内に水が入るおそれがあります。

 **注意****■ 自動洗車機にかけるときは**

アンテナを損傷するおそれがあるため、アンテナを取りはずしてください。

■ アンテナの取りはずしについて

- 通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。
- 自動洗車機などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおりに取り付けてください。

■ アンテナの損傷を防ぐために

以下のようなときはアンテナを格納してください。

- 車庫の天井などにアンテナがあたるとき
- カーカバーをかけるとき

■ 高圧洗浄機を使用するときは

- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

- ・ 駆動系部品
- ・ サスペンション部品
- ・ ステアリング部品
- ・ ブレーキ部品

- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

□ 知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーペットの洗淨

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗淨には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV カットガラス★について

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→ P. 33)
電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **注意****■ 革の傷みを避けるために**

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■ スーパー UV カットガラス★を清掃するときは

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

■ メーターまわりの清掃をするときは

エンジン スイッチを OFF にしてください。

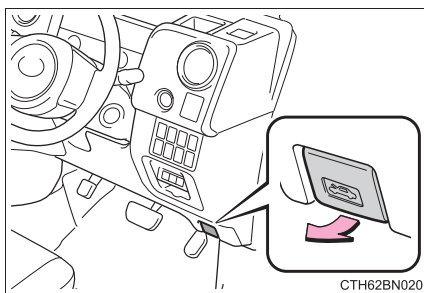
アクセサリモードまたは、イグニッション ON モードのままメーター内のスイッチを押してしまうと時計やマルチインフォメーションディスプレイ表示をリセットしてしまうなどのおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

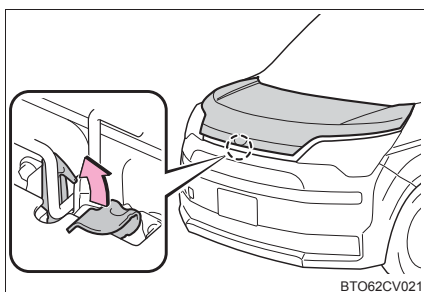
ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

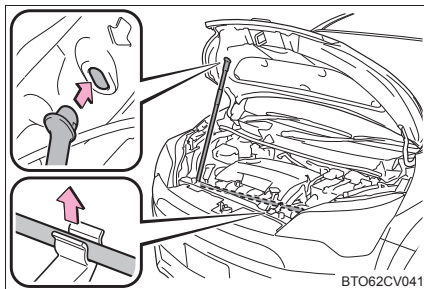
- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



- 3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む



警告**■ 走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ けがを防ぐために

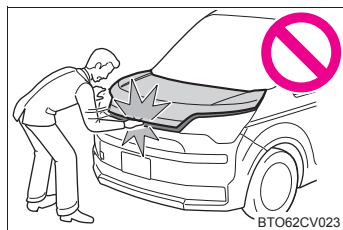
走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

**注意****■ ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

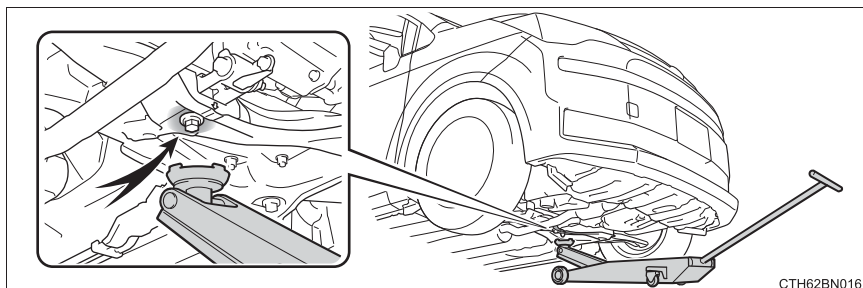
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

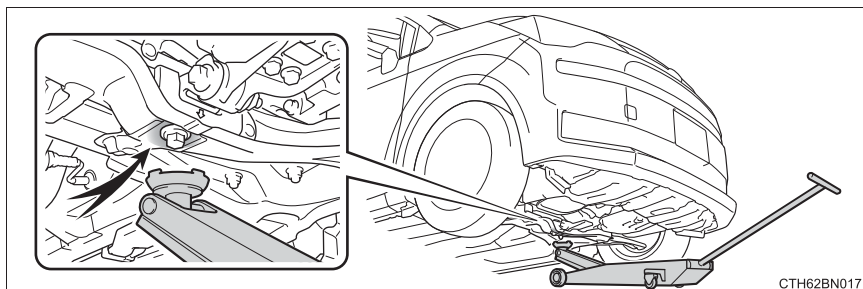
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

◆ フロント側

■ 2NR-FKE エンジン搭載車

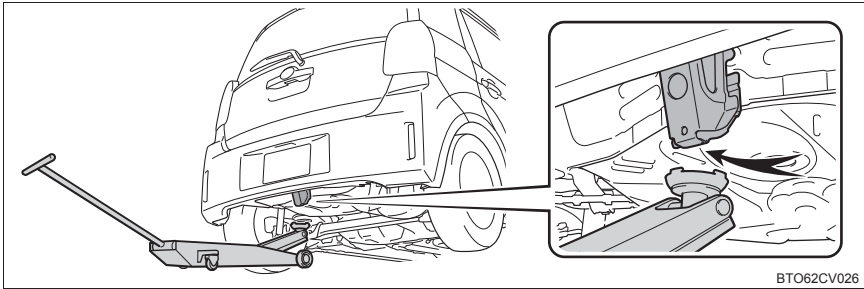


■ 1NZ-FE エンジン搭載車

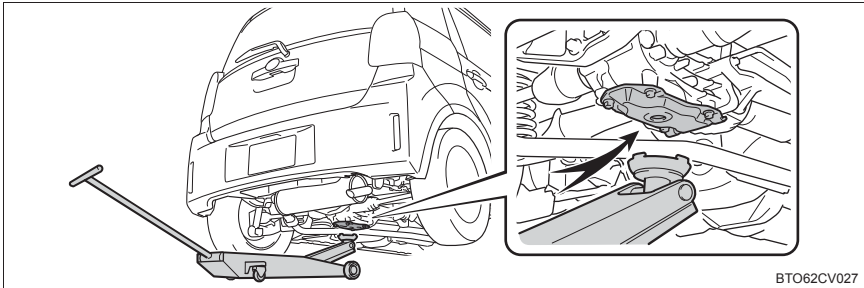


◆ リヤ側

■ FF車（前輪駆動）



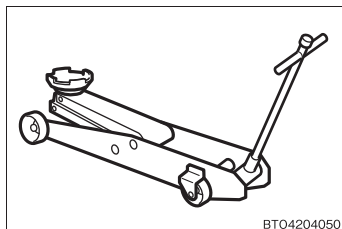
■ 4WD車（4輪駆動）



警告**■車両を持ち上げるとき**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げる



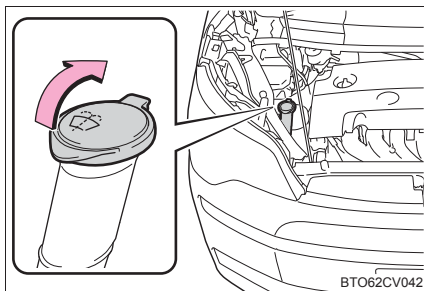
BT04204050

- ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用する
- 車に搭載されているジャッキを使用しない
車両が落下するおそれがあります。
- ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしない
- ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用する
- 車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しない
- 平らで硬い地面に停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにする
- ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しくセットする
ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。
- 車内に乗員がいるときは車両を持ち上げない
- 車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下にものを置かない

ウォッシャー液の補充

補充のしかた

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補充してください。



⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション(タイヤ位置交換)を5,000kmごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無

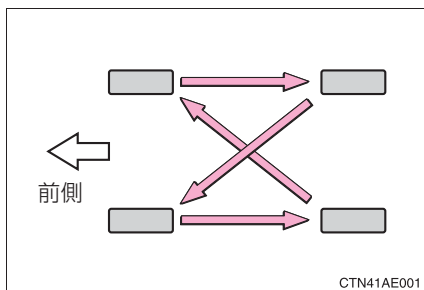
- タイヤの溝の深さ

- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタ定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



 知識

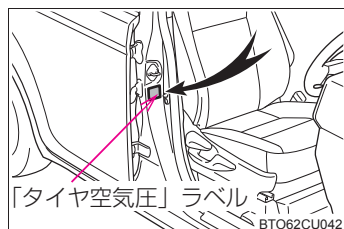
■ タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	空気圧※ kPa (kg/cm ²)		
	エンジン	前輪	後輪
175/65R15 84H	2NR-FKE	230 (2.3)	240 (2.4)
	1NZ-FE	230 (2.3)	230 (2.3)

応急用タイヤ★：420kPa (4.2kg/cm²) ※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 工場出荷時に設定されているサイズ以外のタイヤは使用しない
次のようなおそれがあります。
 - ・ハンドルをきった際に、タイヤと車体が干渉する
 - ・最低地上高が確保できない
 - ・操縦安定性の悪化による横転事故
 - ・ABS / VSC が正しく作動しない
- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

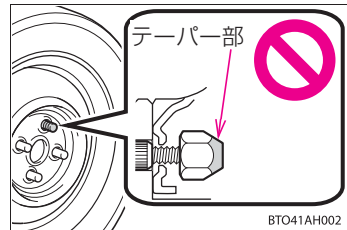
■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

警告**■ タイヤ交換時の注意**

- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

注意**■ 走行中に空気もれが起こったら**

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。(→ P. 423)

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

 **警告****■ タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

 **注意****■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

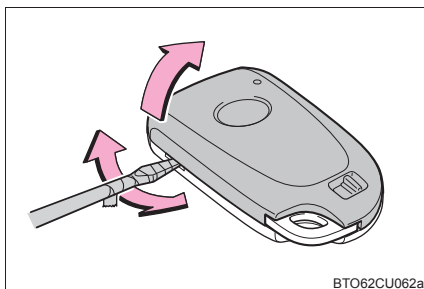
用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池：CR2032

電池交換のしかた

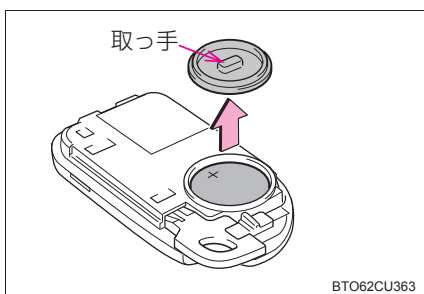
1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



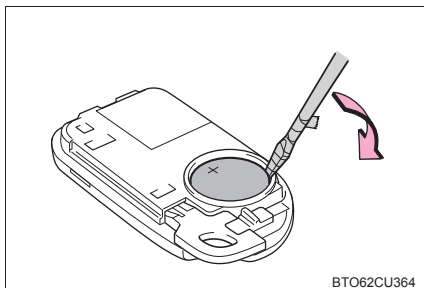
2 電池のフタをはずす

取っ手を引っ張り電池のフタを取りはずします。



3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

 知識

■ リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

 警告

■ 取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ 交換後、正常に機能させるために

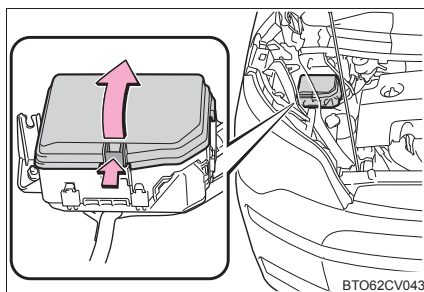
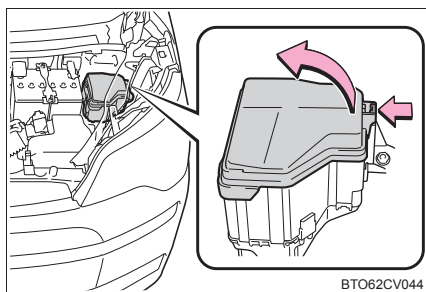
次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

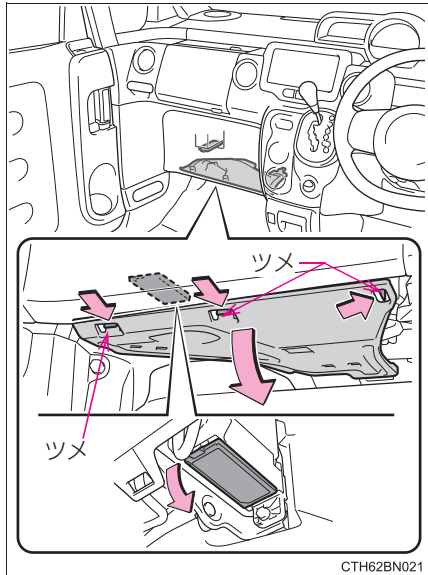
- 1 エンジン スイッチを OFF にする
- 2 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→ P. 328) で確認する
- 3 ヒューズボックスを開ける
 - ▶ エンジンルーム (1)
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる
 - ▶ エンジンルーム (2)
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



▶ 助手席足元

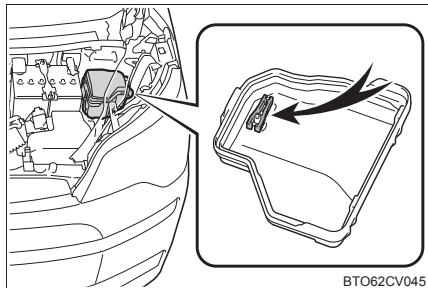
足元のカバーを取りはずし、ヒューズボックスのカバーを取りはずす

足元のカバーを取りはずすときは、ツメを矢印の方向に確実に押し、ツメを解除しながら、カバー全体を下に引きます。



4 ヒューズを引き抜く

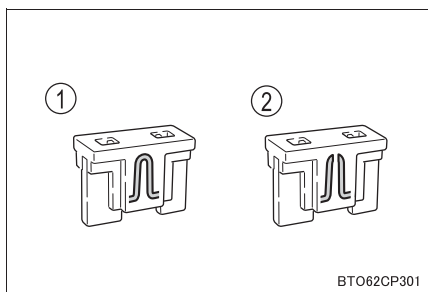
ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



5 ヒューズが切れていないか点検する

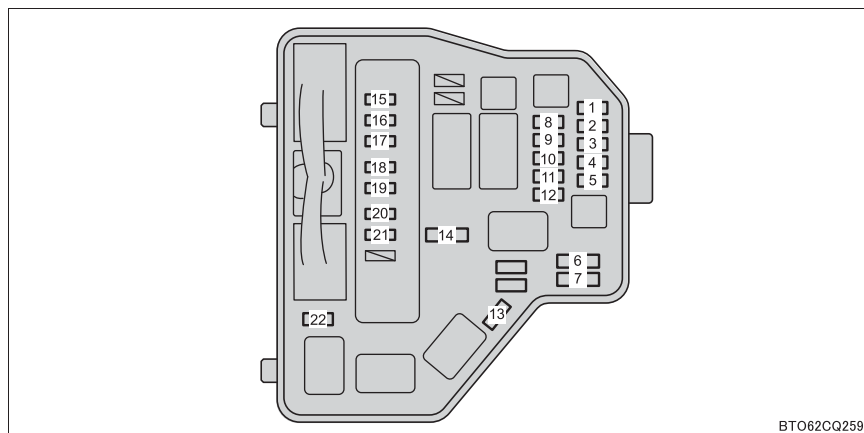
- ① 正常
- ② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム (1)



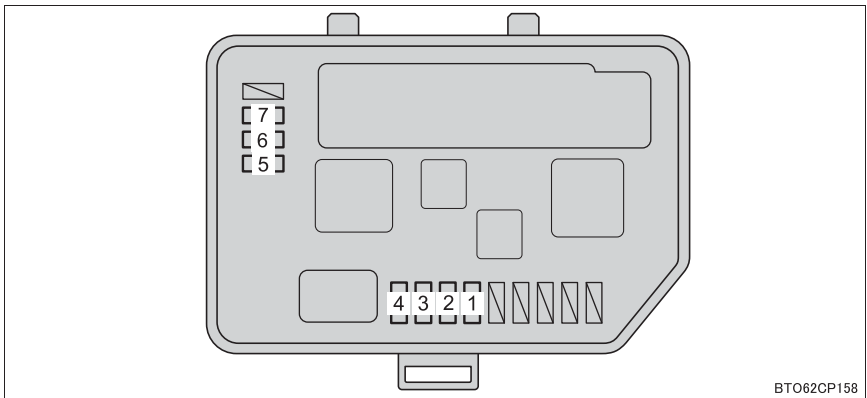
BTO62CQ259

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	ETCS	10A	EFI システム
2	HAZ	10A	非常点滅灯
3	AM2	7.5A	スマートエントリー&スタートシステム
4	ECU-B	7.5A	メーター、パワーウィンドウ、オートエアコン、Stop & Start システム
5	ST2	30A	スターター、Stop & Start システム
6	SPARE	—*	なし
7	SPARE	—*	なし
8	ICS	7.5A	充電システム
9	AMP	—*	なし
10	D/L NO.2	—*	なし
11	DOME	15A	室内灯、オーディオ
12	STR LOCK	20A	ステアリングロック
13	MIR-HTR	—*	なし
14	SPARE	—*	なし
15	EFI MAIN	20A	EFI システム
16	EFI NO.3	7.5A	EFI システム

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
17	HORN	10A	ホーン
18	EFI NO.2	10A	EFI システム、Stop & Start システム
19	IG2	10A	EFI システム
20	IGN	15A	EFI システム
21	MET	7.5A	メーター
22	ID/UP	7.5A	EFI システム

※ 設定なしのため、ヒューズは入っておりません。

■ エンジンルーム (2)



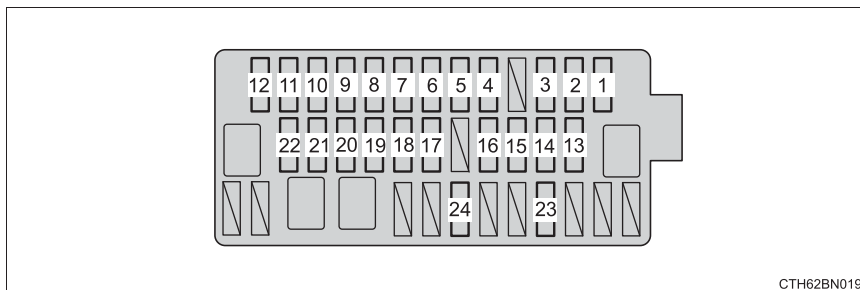
ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	H-LP LH LO	10A ^{※1}	左側ヘッドランプ (ロービーム)
		15A ^{※2}	
2	H-LP RH LO	10A ^{※1}	右側ヘッドランプ (ロービーム)
		15A ^{※2}	
3	H-LP LH HI	10A	左側ヘッドランプ (ハイビーム)
4	H-LP RH HI	10A	右側ヘッドランプ (ハイビーム)
5	H-LP MAIN	— ^{※3}	なし
6	S-HORN	— ^{※3}	なし
7	EU-DRL	— ^{※3}	なし

※1 ハロゲンヘッドランプ装着車

※2 ディスチャージヘッドランプ装着車

※3 設定なしのため、ヒューズは入っておりません。

■ 助手席足元



CTH62BN019

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	WIPER RR	15A	リヤワイパー
2	WIPER	20A	フロントワイパー
3	WASHER	15A	ウォッシャー
4	STRG-HTR	15A	ステアリングヒーター
5	GAUGE	10A	後退灯、EFI システム、4WD システム、シフトロックシステム、クリアランスソナー、パーキングサポートブレーキ
6	A/C	7.5A	マニュアルエアコン、オートエアコン、フロントワイパーデアイサー
7	ECU-IG NO.2	5A	VSC、Stop & Start システム、オートレベリングシステム
8	ECU-IG NO.1	5A	メインボデーECU、冷却ファン、電動パワーステアリング、PCS (プリクラッシュセーフティ)
9	DOOR P	20A	パワーウインドウ
10	DOOR R/R	20A	パワーウインドウ
11	PANEL	5A	メーター照明、スイッチ照明、ステアリングスイッチ
12	TAIL NO.2	10A	車幅灯、尾灯、番号灯、手動光軸調整ダイヤル、EFI システム
13	FOG FR	7.5A	未使用
14	AM1	7.5A	エンジン スイッチ

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
15	STOP	7.5A	EFI システム、スマートエントリー&スタートシステム、VSC、制動灯、ハイマウントストップランプ、シフトロックシステム
16	FOG RR	7.5A	未使用
17	OBD	7.5A	ダイアグノーシスコネクタ
18	D/L	25A	ドアロック
19	ACC	5A	メインボデー ECU、電動ドアミラー、シフトロックシステム
20	CIG	15A	アクセサリースOCKET
21	DOOR	20A	パワーウインドウ
22	DOOR R/L	20A	パワーウインドウ
23	S-HTR	10A	シートヒーター
24	4WD	7.5A	4WD システム

知識

■ ヒューズを交換したあとは

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
(→ P. 333)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ 電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

 **警告****■車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 **注意****■ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

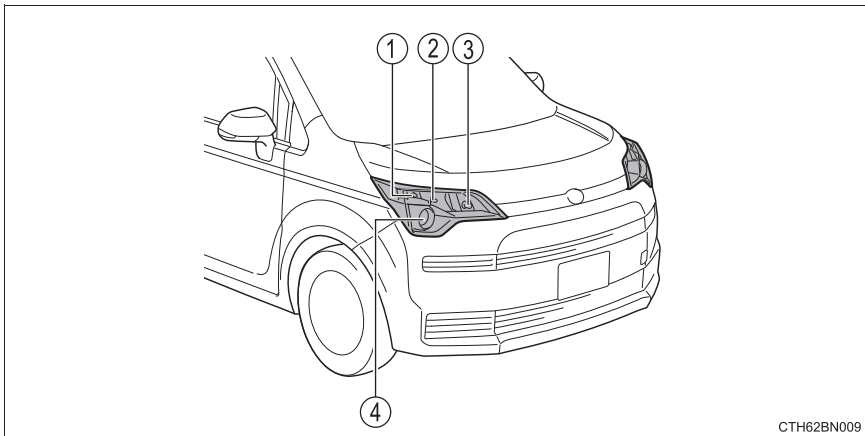
電球の用意

切れた電球のW（ワット）数を確認してください。（→ P. 424）

バルブ位置

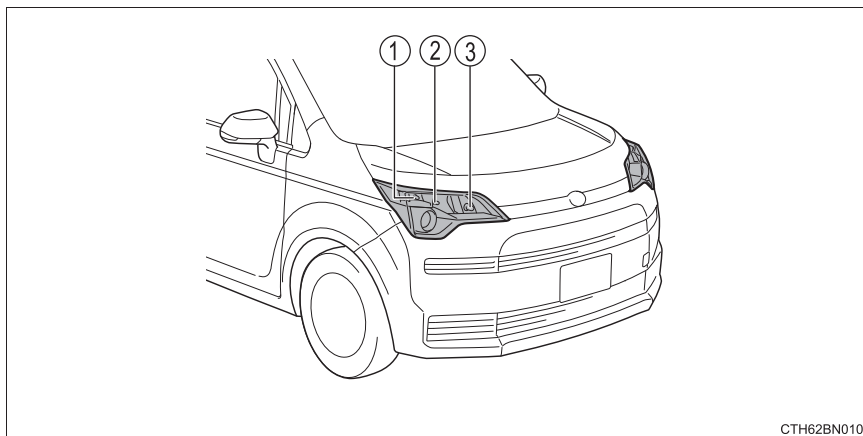
■ フロント

▶ ハロゲンヘッドランプ装着車



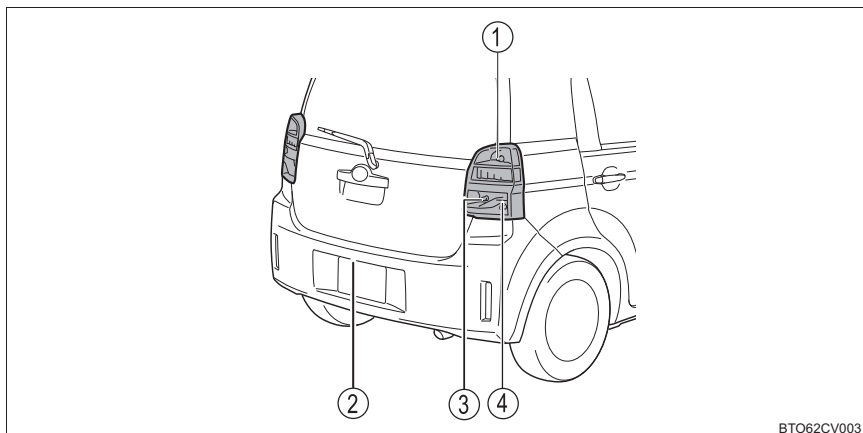
- ① 車幅灯
- ② ヘッドランプハイビーム
- ③ フロント方向指示灯／非常点滅灯
- ④ ヘッドランプロービーム

▶ ディスチャージヘッドランプ装着車



- ① 車幅灯
- ② ヘッドランプハイビーム
- ③ フロント方向指示灯／非常点滅灯

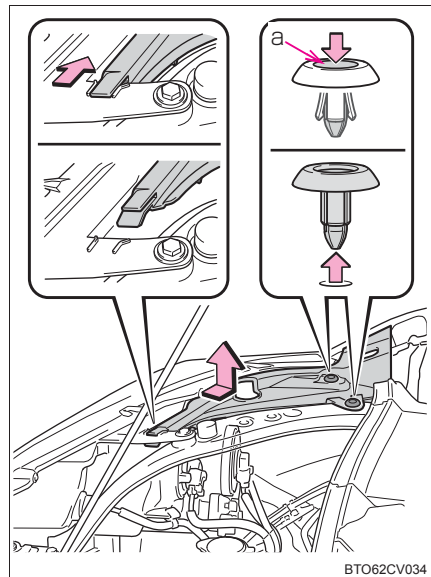
■ リヤ



- ① 尾灯
- ② 番号灯
- ③ 後退灯
- ④ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

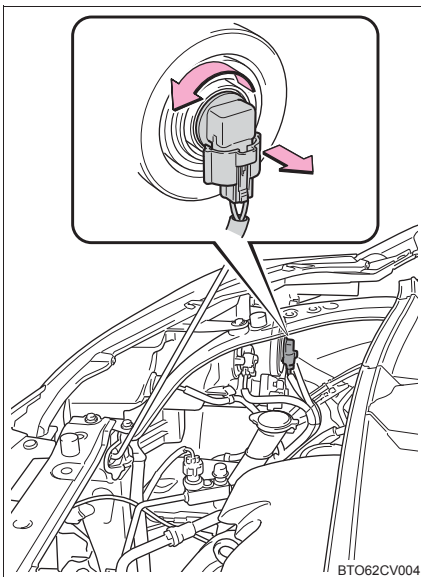
ヘッドランプ・車幅灯を交換する前に

ボンネットを開けて、クリップの a 部を押し込みクリップをはずし、カバーを取りはずす

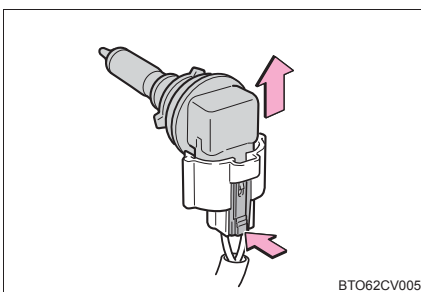


電球交換のしかた**■ ヘッドランプロービーム（ハロゲンヘッドランプ装着車）**

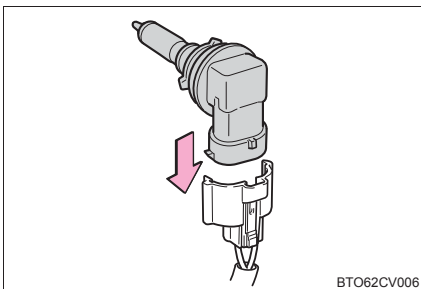
- 1 ボンネットを開けて、カバーをはずす（→ P. 335）
- 2 ソケットをまわして取りはずす



- 3 コネクタのツメを押し、電球を取りはずす



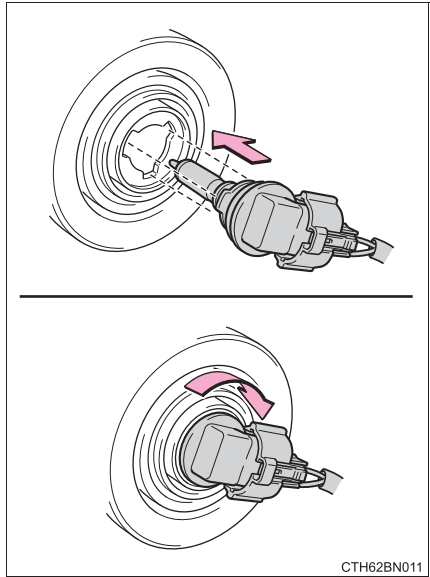
- 4 電球を交換し、コネクタを取り付ける



5 ソケットをまわして固定する

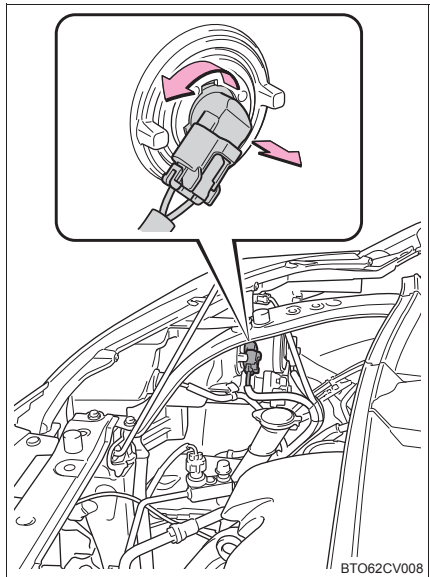
取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）をあわせて挿し込みます。

ソケットを取り付けたあとは、いったんヘッドランプを点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

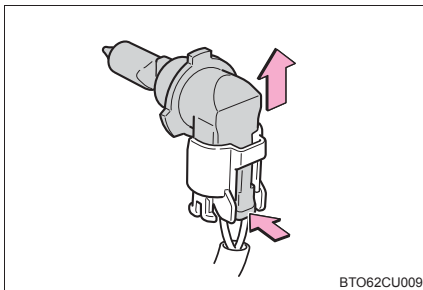


■ ヘッドランプハイビーム

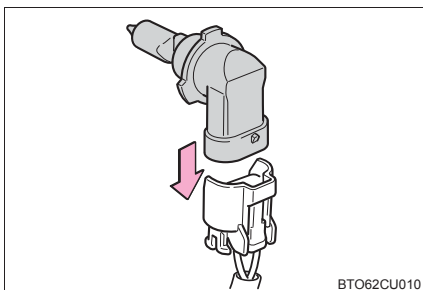
- 1** ボンネットを開けて、カバーをはずす（→ P. 335）
- 2** ボンネットを開けて、ソケットをまわして取りはずす



- 3 コネクタのツメを押し、電球を取りはずす



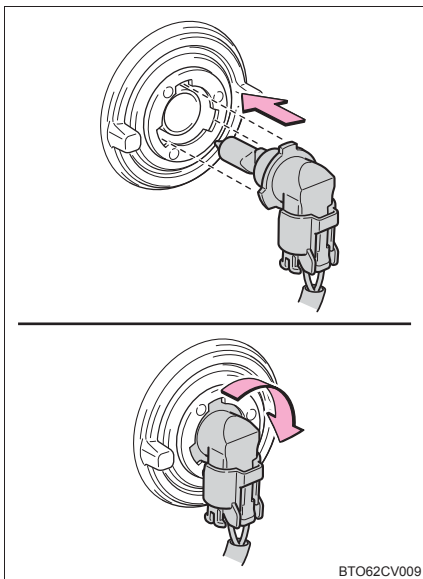
- 4 電球を交換し、コネクタを取り付ける



- 5 ソケットをまわして固定する

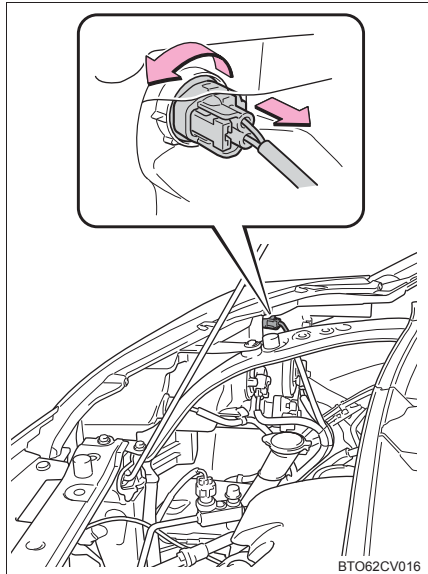
取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）をあわせて挿し込みます。

ソケットを取り付けたあとは、いったんヘッドランプハイビームを点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

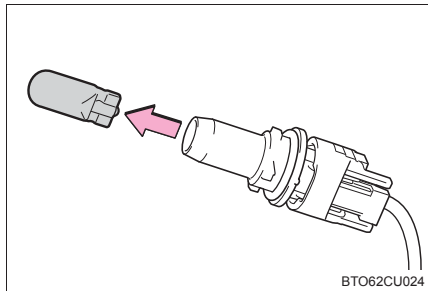


■ 車幅灯

- 1 ボンネットを開けて、カバーをはずす (→ P. 335)
- 2 ボンネットを開けて、ソケットをまわして取りはずす



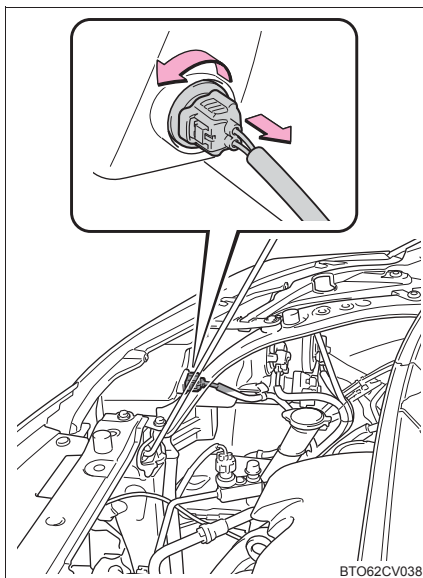
- 3 電球を取りはずす



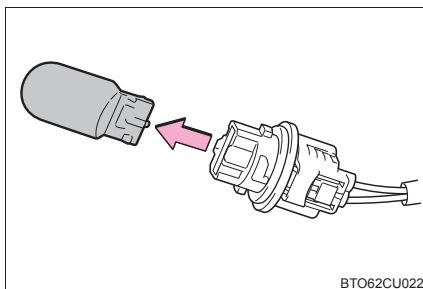
- 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

- 1 ボンネットを開けて、ソケットをまわして取りはずす



- 2 電球を取りはずす

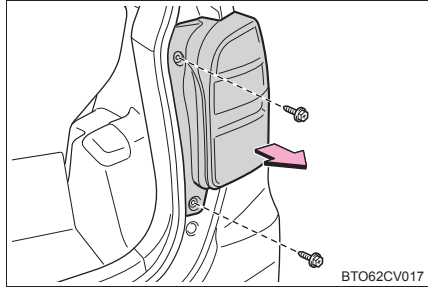


- 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 尾灯、リヤ方向指示灯／非常点滅灯、後退灯

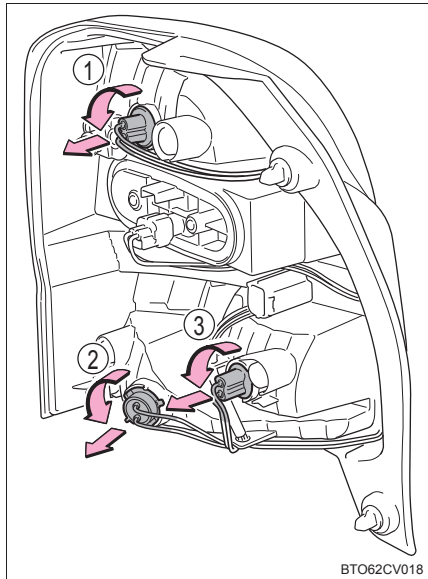
- 1 バックドアを開けて、ボルト（2本）をはずし、ランプ全体をはずす

ランプ本体につながっているコネクターをはずしてください。



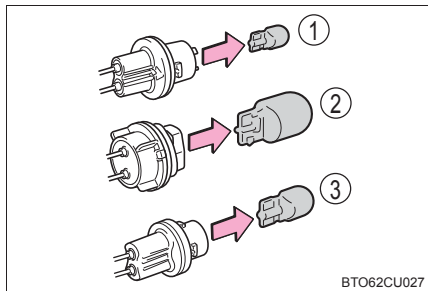
- 2 ソケットをまわして取りはずす

- ① 尾灯
- ② リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- ③ 後退灯



- 3 電球を取りはずす

- ① 尾灯
- ② リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- ③ 後退灯



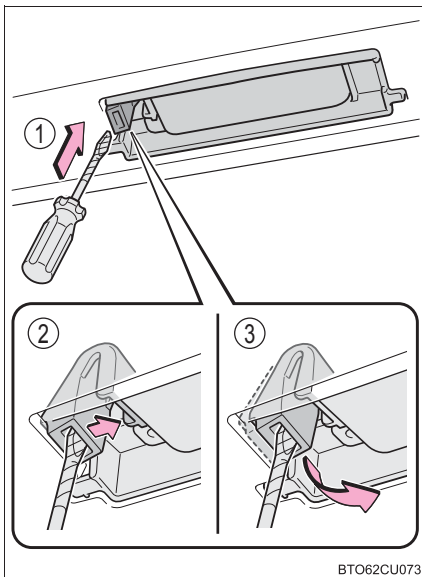
- 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 番号灯

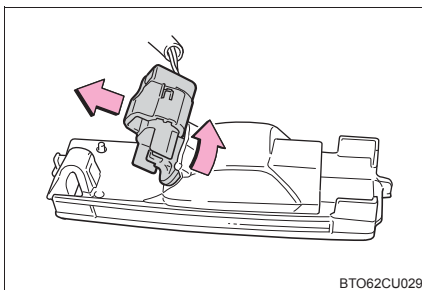
- 1 小さいマイナスドライバーなどの先端に、布などを巻く
傷が付くのを防ぐために保護してください。

- 2 カバーを取りはずす

マイナスドライバー等を図の①のように挿し込み、②の方向に移動させロックを解除させながら、③のように下に引く



- 3 ソケットを取りはずし、電球を取りはずす



- 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 次の電球を交換するには

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプロービーム（ディスチャージヘッドランプ装着車）
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 制動灯
- ハイマウントストップランプ

□ 知識

■ ディスチャージヘッドランプの作動（ディスチャージヘッドランプ装着車）

作動電圧範囲をはずれると、ランプが消灯したり、点灯しなくなります。電圧が正常にもどると再点灯します。

■ LED ランプについて

制動灯、ハイマウントストップランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ サイド方向指示灯／非常点滅灯について

電球とレンズ是一对のため、電球を取りはずすことができません。交換が必要なときはトヨタ販売店で交換してください。

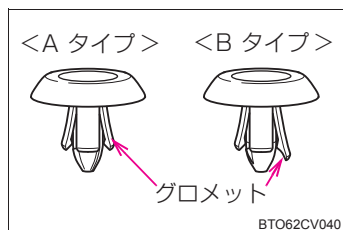
■ 電球（バルブ）を交換するとき

→ P. 331

■ エンジンルーム内カバーのクリップについて

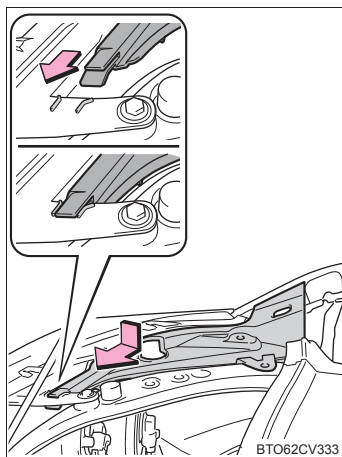
クリップ形状は、仕様などの違いにより右の A タイプと B タイプ*があります。

*B タイプのクリップはグロメットが 1 本だけ長くなっています。



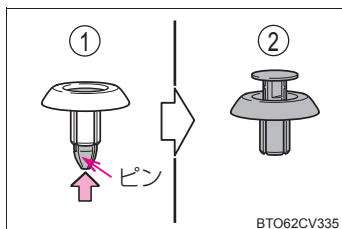
■ヘッドランプ・車幅灯を交換したときは

1 カバーをはめ込む

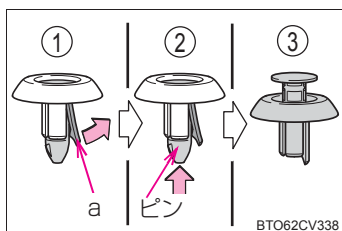


2 クリップ形状を確認し (→ P. 343) クリップのピンをもどす

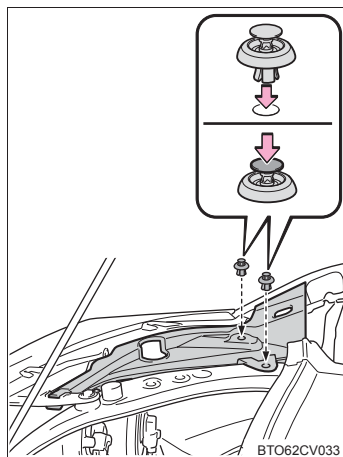
▶ A タイプのクリップ装着車
ピンを押し込みます。



▶ B タイプのクリップ装着車
グロメットの a 部を広げてロックを解除し、ピンを押し込みます。

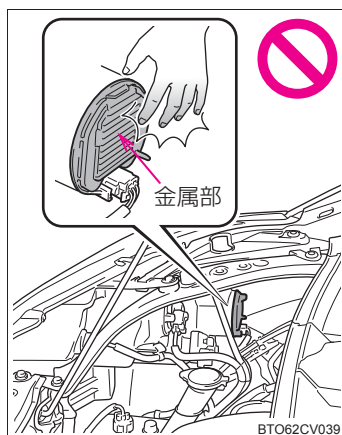


3 クリップを取り付ける



警告**■電球を交換するとき**

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- ディスチャージヘッドランプ装着車：
ヘッドランプの点灯中および消灯直後はヘッドランプ裏の金属部が高温となっているため、さわらないでください。
やけどをすることがあります。

**■ディスチャージヘッドランプについて（ディスチャージヘッドランプ装着車）**

- 交換するとき（電球交換含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- 点灯中は、高電圧ソケットにふれないでください。
瞬間的に 3 万ボルトの電圧が発生するため、感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 電球・ソケット・電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

 **注意****■ エンジンルーム内カバーのクリップについて**

クリップをエンジンルームの中に落とさないよう注意してください。

エアコンフィルターの交換

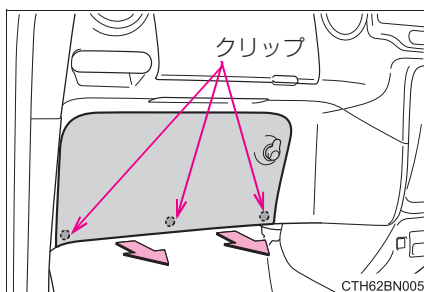
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

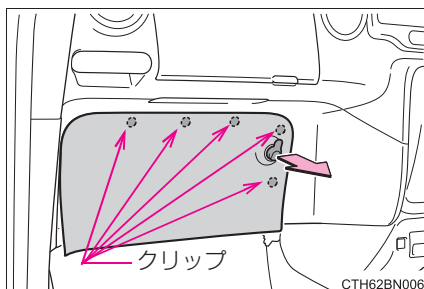
1 エンジン スイッチを OFF にする

2 カバーをはずす

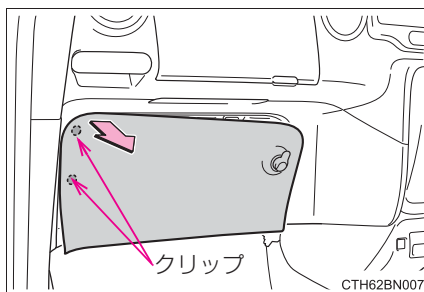
① 矢印のようにカバーを手前に引っ張り、クリップ3ヶ所をはずす



② 買い物フックを手前に引っ張り、クリップ5ヶ所をはずす

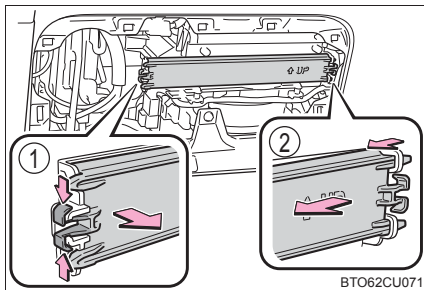


③ 矢印のようにカバーを手前に引っ張り、クリップ2ヶ所をはずす

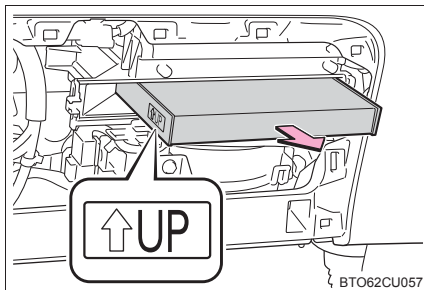


3 フィルターカバーを取りはずす

- ① フィルターカバーの固定を解除する
- ② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、ツメからフィルターカバーを抜く

**4** フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

**5** 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

カバーをもどすときは、クリップ（10ヶ所）をもとの状態になるようにあてがい、すべてのクリップに均等に力がかかるようにカバー全体を押さえて取り付けます。

 **知識**
■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

20,000km[10,000km※]ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

 **注意**
■ エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

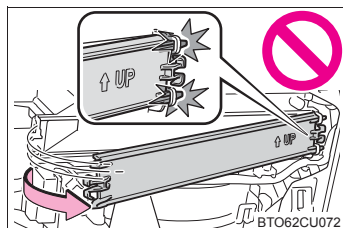
■ カバーの破損を防ぐために

カバーをははずす際、勢いよくカバーや買い物フックを引っ張らないでください。カバーを破損するおそれがあります。

⚠ 注意**■ フィルターカバーの破損を防ぐために**

フィルターカバーの固定を解除する時に、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がくわわらないよう注意してください。

ツメが破損するおそれがあります。



万一の場合には

7

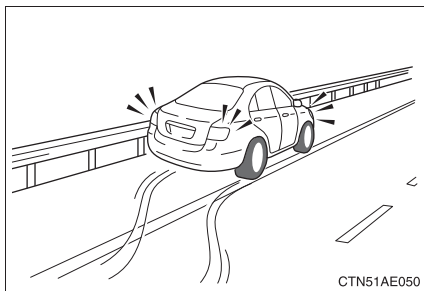
7-1. まず初めに	
故障したときは.....	352
非常点滅灯 （ハザードランプ）.....	353
発炎筒.....	354
車両を緊急停止するには.....	356
水没したときは.....	357
7-2. 緊急時の対処法	
けん引について.....	358
警告灯がついたときは.....	365
警告メッセージが 表示されたときは.....	371
パンクしたときは （スペアタイヤ装着車）.....	375
パンクしたときは （タイヤパンク 応急修理キット装着車）.....	386
エンジンが かからないときは.....	400
電子キーが 正常に働かないときは.....	402
バッテリーが あがったときは.....	404
オーバーヒートした ときは.....	408
スタックしたときは.....	412

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

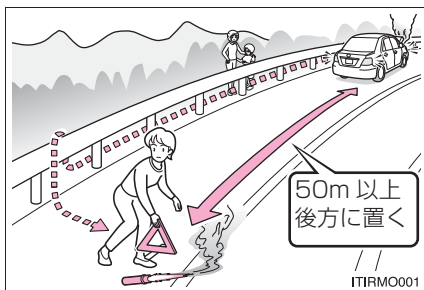
非常点滅灯（→ P. 353）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使います。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の50m以上後方に発炎筒（→ P. 354）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

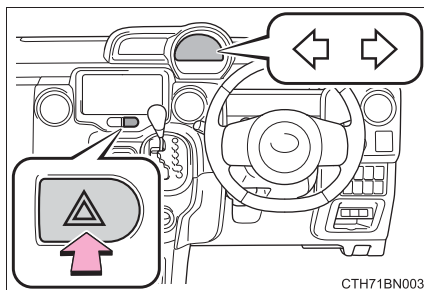
高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。

非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

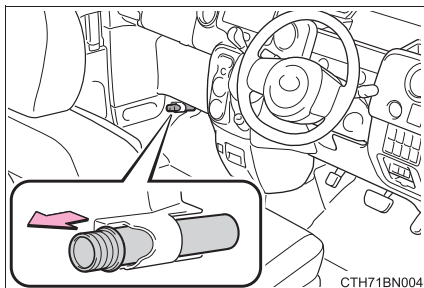
■非常点滅灯について

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

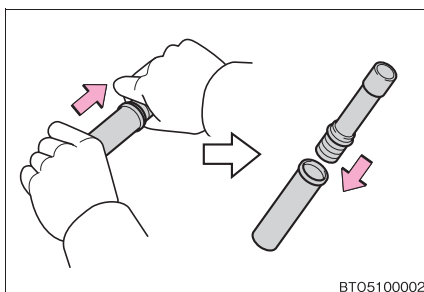
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

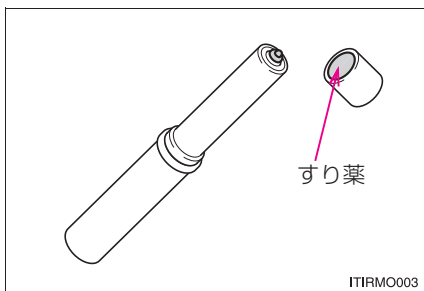
- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す



- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる
必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けてください。



 知識**■ 発炎筒の有効期限**

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店で求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

 **警告****■ 発炎筒を使用してはいけない場所**

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

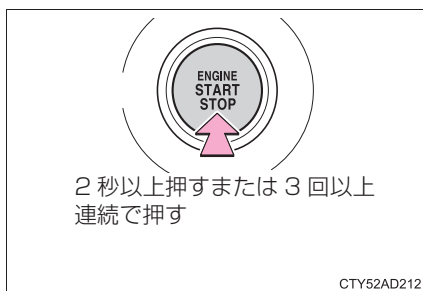
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける
ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。
- 2 シフトレバーを N に入れる
▶ シフトレバーが N に入った場合
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める
- 4 エンジンを停止する
▶ シフトレバーが N に入らない場合
- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
- 4 エンジン スイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



- 5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没したときは

万一、車両が水没したときは、落ち着いて次のように対処してください。

- まずシートベルトをはずしてください。
- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて窓から車外に出てください。
- パワーウィンドウスイッチでドアガラスが開けられない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

警告

■ 緊急脱出用ハンマー[※]の使用について

この車両のフロントドアガラス・リヤドアガラス・スライドドアのドアガラス・リヤウインドウガラスは緊急脱出用ハンマー[※]で割ることはできますが、フロントウインドウガラスは合わせガラスのため、緊急脱出用ハンマー[※]で割ることができません。

※ 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■ 窓から車外に出るときは

着座位置、乗員の体格等によっては、窓から車外に脱出できない場合があります。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。
その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

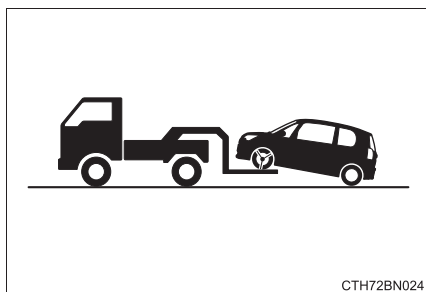
けん引される前に

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンがかかるが車が動かない
- 異常な音がする

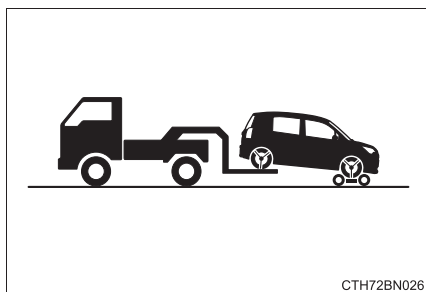
レッカー車でけん引するとき

- ▶ 前向きにけん引するときは
(2WD 車)



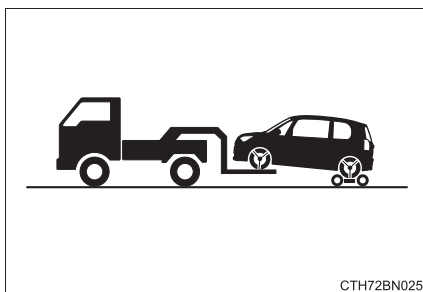
パーキングブレーキを解除する

- ▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

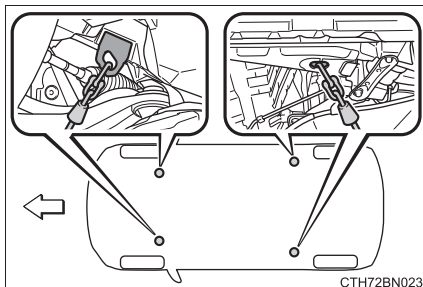
- ▶ 前向きにけん引するときは
(4WD 車)



台車を使用して後輪を持ち上げる

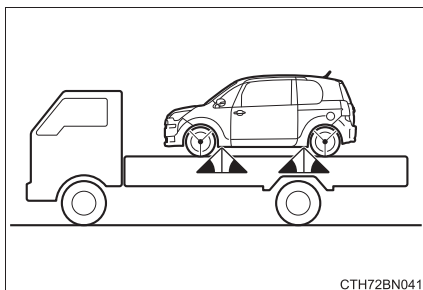
車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



CTH72BN023

鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する

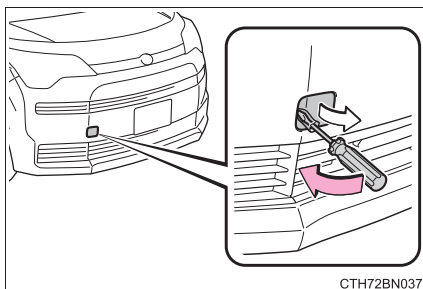


CTH72BN041

他車にけん引してもらおうとき

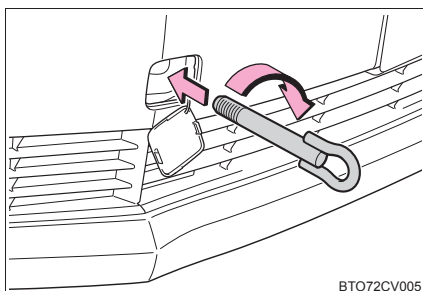
- 1 けん引フックを取り出す (→ P. 376, 388)
- 2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



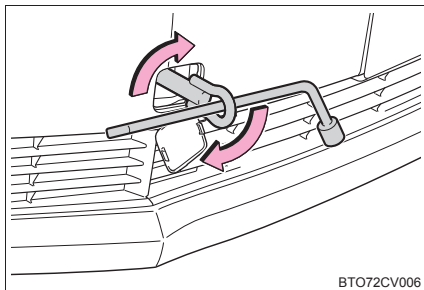
CTH72BN037

- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



BTO72CV005

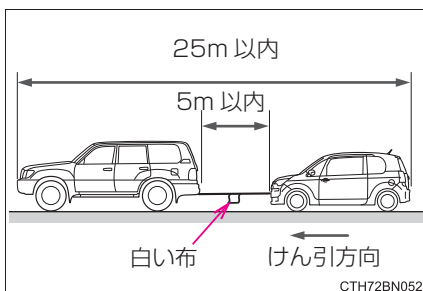
- 4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける



BTO72CV006

- 5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける
車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

- 6 ロープの中央に白い布を付ける
布の大きさ：
0.3m 平方 (30cm × 30cm) 以上



CTH72BN052

- 7 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動する
エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。
- 8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する
けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。
シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 164

 知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

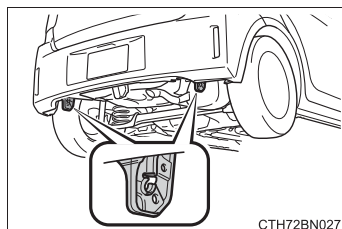
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

ラゲージルームに搭載されています。(→ P. 376, 388)

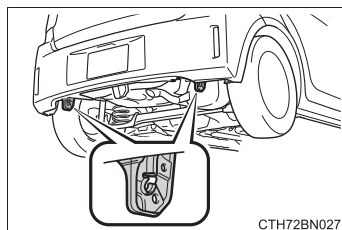
■輸送用フックについて

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。他車をけん引したりすることはできません。



■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



⚠ 警告

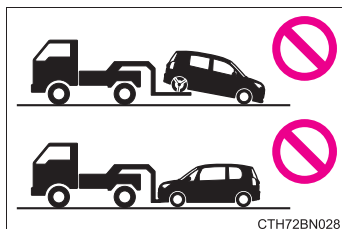
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

▶ 2WD 車

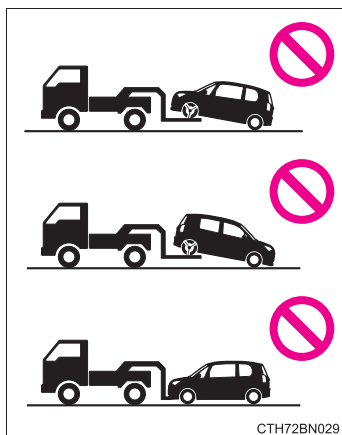
必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



CTH72BN028

▶ 4WD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



CTH72BN029

警告

■他車にけん引してもらったときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- エンジンスイッチをOFFにしないでください。ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

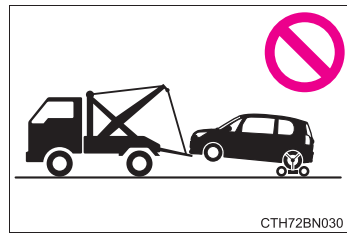
■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかりと取り付けしていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらったときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ワイヤーロープは使用しない
 - ・速度は 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
 - ・前進方向でけん引する
 - ・サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

 **注意****■ 長い下り坂でけん引するときは**

レッカー車で前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。

レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ 輸送用フックについて

輸送用フックで他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

■ 緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

■ Stop & Start システム装着車をけん引するときは (Stop & Start システム装着車)


4 輪すべてを接地した状態でけん引が必要な場合は、システム保護のため、けん引される前にいったんエンジン スイッチを OFF にしてから、エンジン始動またはエンジン スイッチをイグニッション ON モードにしてください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。




次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	<p>ブレーキ警告灯（警告ブザー※）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキ系統の異常 <p>パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。</p> <p>解除後、消灯すれば正常です。</p>

※ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が5km/h以上になると警告ブザーが鳴ります。

ただちに停車してください。

次の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
 ※ ¹	充電警告灯（警告ブザー） 充電システムの異常
 ※ ¹	油圧警告灯（警告ブザー※²） エンジンオイルの圧力異常
 (赤色点灯または点滅)	高水温警告灯（警告ブザー） エンジン冷却水温の異常

※¹ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※² 油圧警告ブザー：


警告灯が表示されている状態で、車速が約 5km/h をこえたときに警告ブザーが鳴ります。

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置するとシステムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・ エンジンの異常 ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 電子制御スロットルの異常 ・ トランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストの異常
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
 (点灯)	スリップ表示灯 <ul style="list-style-type: none"> ・ VSC システムの異常 ・ TRC システムの異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 上記のシステムの作動時には、点滅します。 (→ P. 224)
 (点滅)	Stop & Start キャンセル表示灯★ Stop & Start システムの異常 (Stop & Start システム非作動時は点灯します。→ P. 213)
 (点滅)	PCS 警告灯（警告ブザー） プリクラッシュセーフティの異常
 (点滅)	PKSB OFF 表示灯★（警告ブザー） PKSB（パーキングサポートブレーキ）の異常





★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容
※ 	ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・ブレーキオーバーライドシステムの異常（マルチインフォメーションディスプレイに「ブレーキオーバーライドシステム故障」が表示された） ・ドライブスタートコントロールの異常（マルチインフォメーションディスプレイに「ドライブスタートコントロール故障」が表示された）

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
※3 	半ドア警告灯（警告ブザー※1） いずれかのドアが確実に閉まっていない	全ドアを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約6.1L以下になった	燃料を補給する
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※2） 運転席・助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
※3 	ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール警告灯 アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことにより、ブレーキオーバーライドシステムが作動	アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏む
	アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことにより、ドライブスタートコントロールが作動	ただちにアクセルペダルを離す

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
 (点灯)	PCS 警告灯 警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、 または対処を行うまで作動停止して いる	要因と対処方法 (→ P. 186)
	プリクラッシュセーフティが OFF、 または VSC (ビークルスタビリティ コントロール)システムが停止して いる	→ P. 197
 (点滅)	PKSB OFF 表示灯★ 警告ブザーが鳴らない場合： センサー部の汚れなどによりシス テムが一時的に使用できない	→ P. 245
	マスターウォーニング システムの異常時に点灯・点滅し、 マルチインフォメーションディス プレイに警告メッセージを表示し ます。(→ P. 371)	→ P. 371

※¹ 半ドア走行時警告ブザー：

いずれかのドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえたときにブザーが鳴ります。

※² 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

※³ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

 警告

■ パワーステアリング警告灯が点灯したとき

ハンドル操作が非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

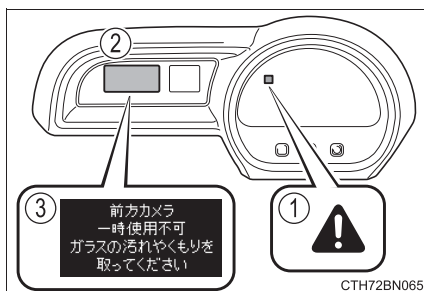
① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 対処方法


マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

	専用警告灯	警告ブザー※	警告内容
点灯	—	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
—	点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	—	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	—	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

上記の点灯状況、ブザーの吹鳴状況と異なる場合があります。その際は表示された内容に従ってすみやかに対処してください。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

 知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 専用警告灯について

次の内容のメッセージが表示されたときは、マスターウォーニングが点灯・点滅しません。その場合は個別の専用警告表示をおこないます。

- 「プリクラッシュセーフティ現在使用できません」が表示されている：
PCS 警告灯が点灯します。(→ P. 369)
- 「VSCがOFFのためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されている：
PCS 警告灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。(→ P. 197)

■ 「充電システム故障」が表示されたとき

充電システムに異常があります。

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■ 「エンジン油圧不足」が表示されたとき

エンジンオイルの圧力が異常に低下しています。

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■ 「販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたとき

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。

トヨタ販売店ですみやかに点検を受けてください。

■ 「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

次のシステムに異常があるおそれがあります。

ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- ヘッドランプオートレベリングシステム★
- オートマチックハイビーム

■ シフトレバーの操作を指示するメッセージが表示されたとき

誤操作や車両の意図せぬ動き出しなどを防止するため、シフトレバーの操作が指示されることがあります。その場合は、メッセージの指示に従ってシフトポジションを変更してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■「P レンジに入れてください」が表示されたとき

シフトレバーがP以外の状態で、エンジン スイッチをOFFにせずに運転席ドアを開けています。

シフトレバーをPにしてください。

■「アクセルとブレーキが両方踏まれています」が表示されたとき

ブレーキオーバーライドシステムが作動しています。(→P. 147)

アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■「前方カメラ一時使用不可 しばらくお待ちください」または「前方カメラ一時使用不可 ガラスの汚れやくもりを取ってください」が表示されたとき

次のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。

(要因および対処方法：→P. 186, 369)

- PCS (プリクラッシュセーフティ)
- LDA (レーンディパーチャーアラート)
- オートマチックハイビーム
- 先行車発進告知機能

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

⚠ 注意**■「充電システム故障」がひんばんに表示されるとき**

充電系の異常やバッテリーが劣化している可能性があります。

トヨタ販売店で点検を受けてください。

パンクしたときは（スペアタイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 318 を参照してください）

警告

■ タイヤがパンクしたときは

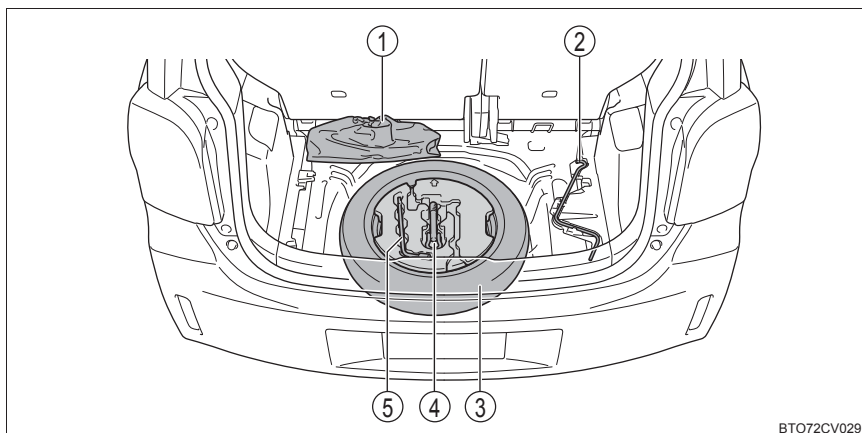
パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

工具とジャッキの位置

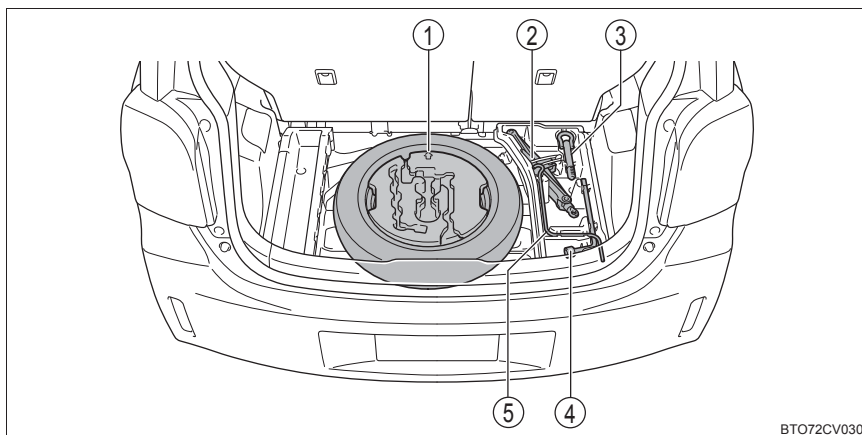
▶ FF車（前輪駆動）



BT072CV029

- | | |
|------------|--------------|
| ① ジャッキ | ④ けん引フック |
| ② ジャッキハンドル | ⑤ ホイールナットレンチ |
| ③ 応急用タイヤ | |

▶ 4WD車（4輪駆動）



BT072CV030

- | | |
|----------|--------------|
| ① 応急用タイヤ | ④ ホイールナットレンチ |
| ② ジャッキ | ⑤ ジャッキハンドル |
| ③ けん引フック | |

 **警告****■ ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。

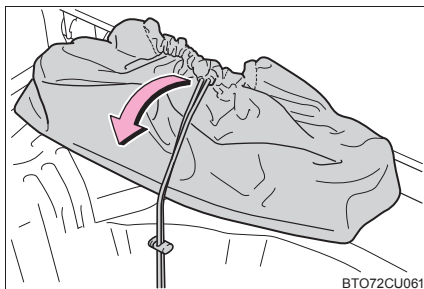
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキの取り出し方

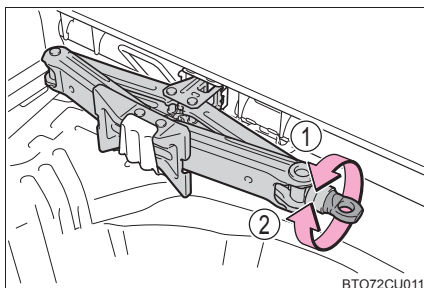
▶ FF車（前輪駆動）

- 1 デッキボードを取りはずす（→ P. 299）
- 2 袋をはずす



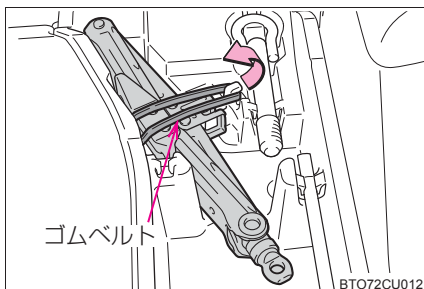
3 ジャッキをゆるめて取りはずす

- ① ゆるむ
- ② 締まる



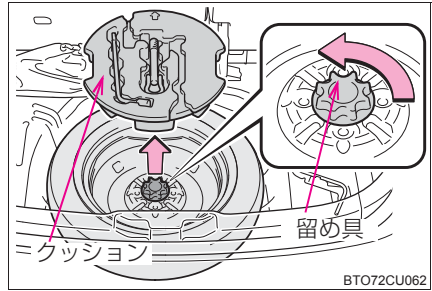
▶ 4WD車（4輪駆動）

- 1 デッキボードを取りはずす（→ P. 299）
- 2 ゴムベルトをはずし、ジャッキを取りはずす



応急用タイヤの取り出し方

- 1 デッキボードを取りはずす (→ P. 299)
- 2 クッションを取りはずし、留め具を取りはずす



BT072CU062

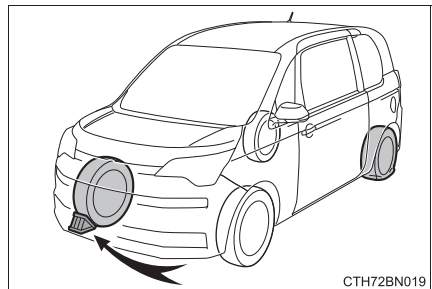
⚠ 警告

■ 応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

- 1 輪止め[※]をする
- [※] 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。



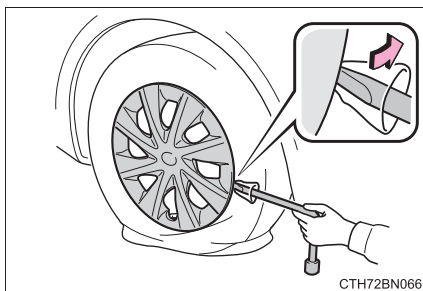
CTH72BN019

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

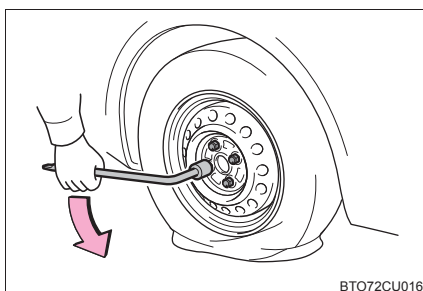
2 フルホイールキャップをはずす*

* スチールホイールのみ

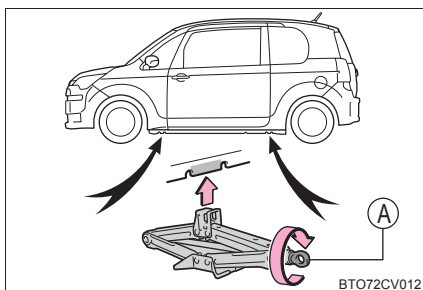
傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いて保護してください。



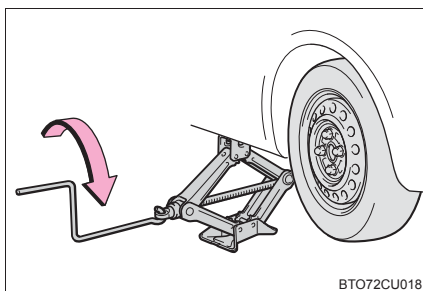
3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



4 ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

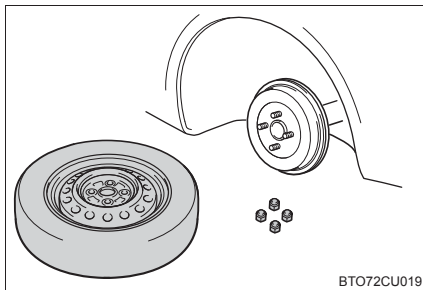


5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上に出します。



BT072CU019

警告

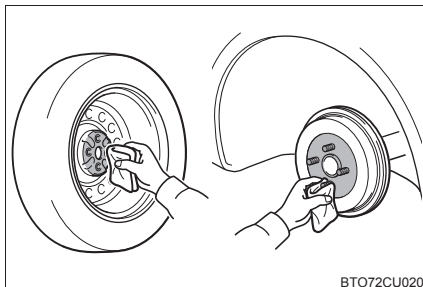
■ タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
 - ・ ホイールの交換後は、すぐに $103\text{N} \cdot \text{m}$ ($1050\text{kgf} \cdot \text{cm}$) の力でナットを締める
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

タイヤの取り付け

1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

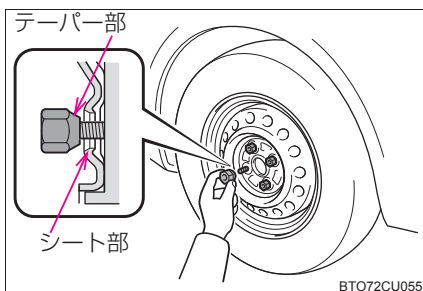


BT072CU020

- 2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

フルホイールキャップ装着車の
スチールホイールからスチール
ホイールにかえるとき（応急用
タイヤを含む）：

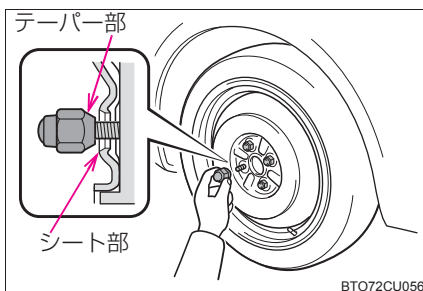
ナットのテーパ部がホイール
のシート部に軽くあたるまでま
わす



BT072CU055

フルホイールキャップ非装着車
のスチールホイールからスチール
ホイールにかえるとき（応急用
タイヤを含む）：

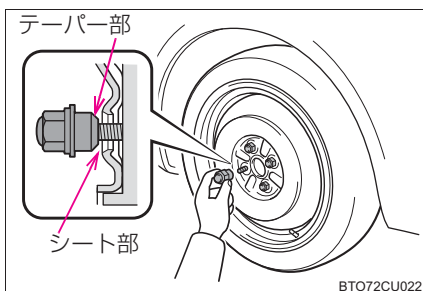
ナットのテーパ部がホイール
のシート部に軽くあたるまでま
わす



BT072CU056

アルミホイールから応急用タイ
ヤにかえるとき：

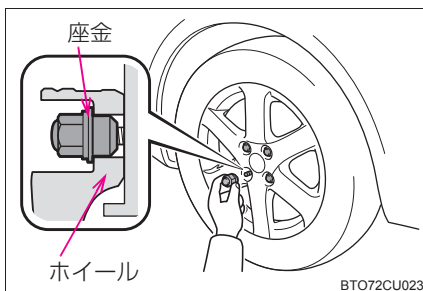
ナットのテーパ部がホイール
のシート部に軽くあたるまでま
わす



BT072CU022

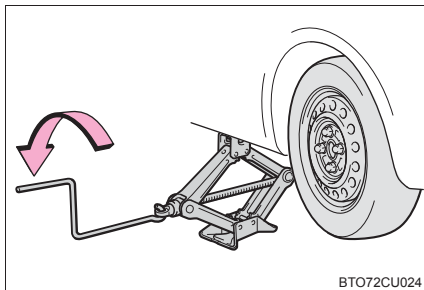
アルミホイールからアルミホ
イールにかえるとき：

ナットの座金がホイールにあ
たるまでまわす



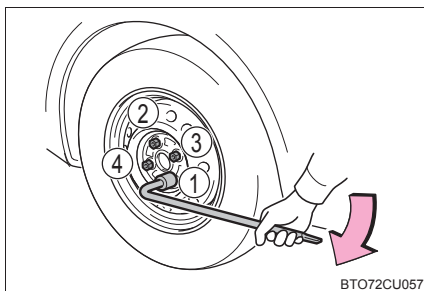
BT072CU023

3 車体を下げる



4 図の番号順でナットを 2、3 度 しっかり締め付ける

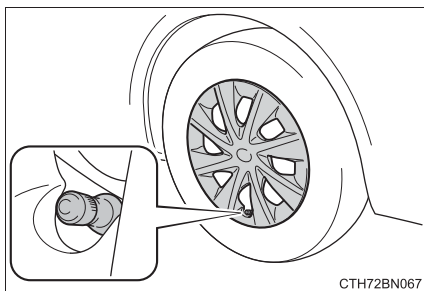
締め付けトルク：
103N・m (1050kgf・cm)



5 フルホイールキャップを取り付ける*

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてフルホイールキャップを確実に取り付ける

* スチールホイールのみ（応急用タイヤに取り付けることはできません）



6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■ 応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。（→ P. 423）

■ 応急用タイヤを装着しているとき

標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。

■ 雪道・凍結路で前輪がバンクしたとき

- 1 後輪を応急用タイヤに交換する
- 2 バンクした前輪をはずした後輪に交換する
- 3 タイヤチェーンを前輪に装着する

▲ 警告**■ 応急用タイヤを使用するとき**

- 必ず指定サイズを使用してください。(→ P. 423)
- お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

■ 応急用タイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があります、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ・ ABS
- ・ ブレーキアシスト
- ・ TRC
- ・ VSC
- ・ EPS
- ・ PCS (プリクラッシュセーフティ)
- ・ LDA (レーンディパーチャーアラート)
- ・ オートマチックハイビーム
- ・ クリアランスソナー★
- ・ パーキングサポートブレーキ★

また、次のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- ・ 4WD システム★

■ 応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h以上の速度で走行しないでください。

応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **注意****■ 応急用タイヤ装着中は段差に注意**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときはご注意ください。

■ タイヤチェーンの装着について

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■ タイヤがパンクしたときは

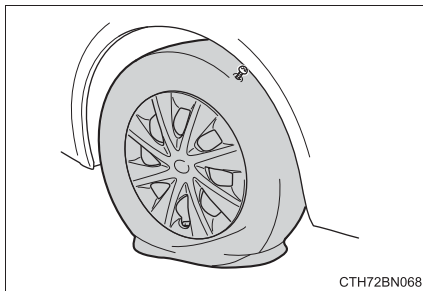
タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



知識

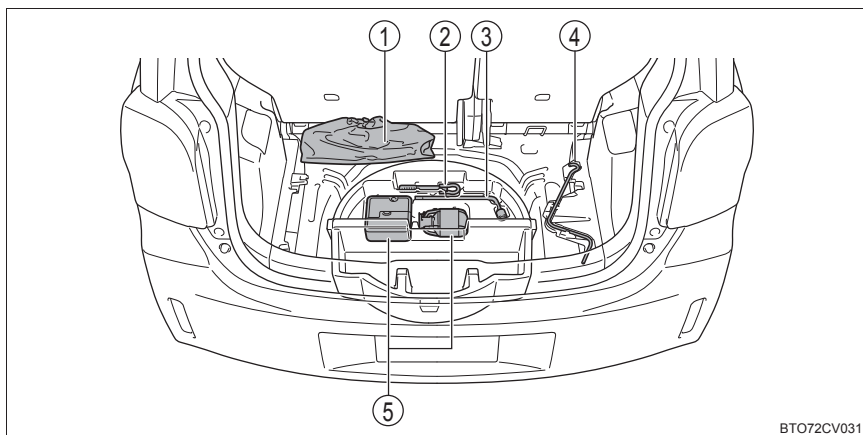
■ 応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2ヶ所以上の切り傷や刺し傷があるとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

▶ FF車（前輪駆動）



① ジャッキ※

④ ジャッキハンドル

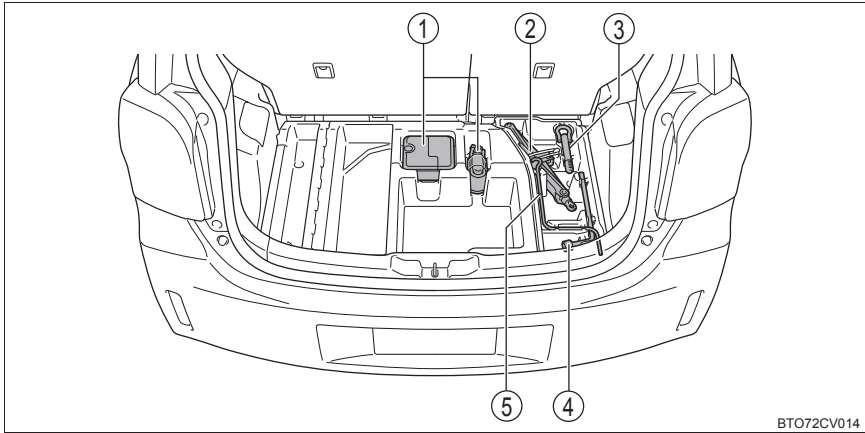
② けん引フック

⑤ タイヤパンク応急修理キット

③ ホイールナットレンチ

※ジャッキの使い方（→ P. 380）

▶ 4WD 車 (4 輪駆動)

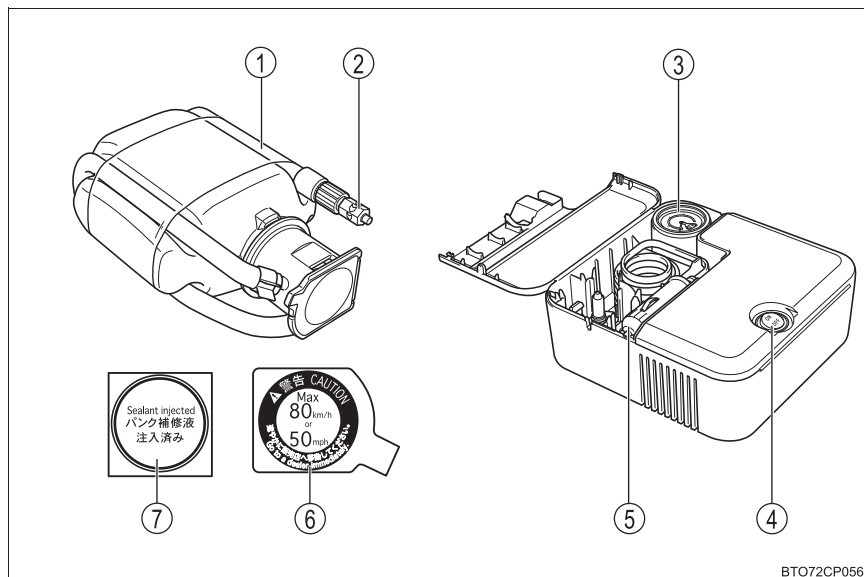


BT072CV014

- ① タイヤパンク応急修理キット
- ② ジャッキ※
- ③ けん引フック
- ④ ホイールナットレンチ
- ⑤ ジャッキハンドル

※ジャッキの使い方 (→ P. 380)

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称



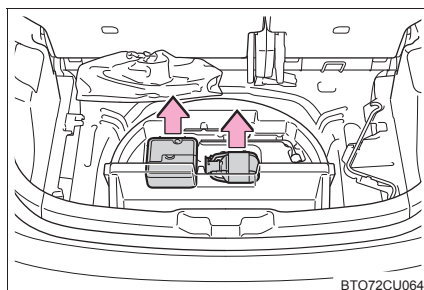
- | | |
|-------------|-----------------|
| ① ホース | ⑤ 電源プラグ |
| ② 空気逃がしキャップ | ⑥ 速度制限ラベル |
| ③ 空気圧計 | ⑦ パンク補修液注入済みラベル |
| ④ スイッチ | |

応急修理キットの取り出し方

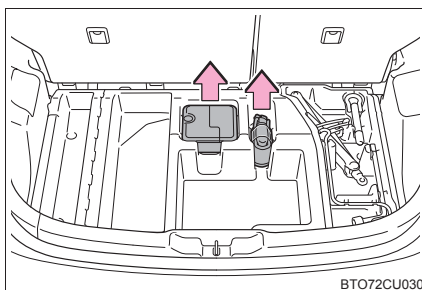
1 デッキボードを取りはずす (→ P. 299)

2 応急修理キットを取り出す

▶ FF車 (前輪駆動)



▶ 4WD車 (4輪駆動)

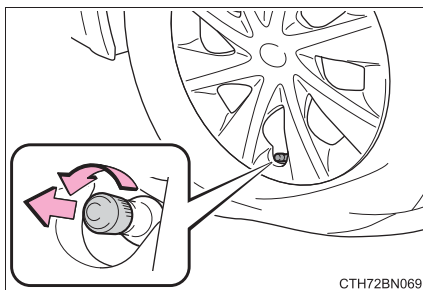


ジャッキの取り出し方

- 1 デッキボードを取りはずす (→ P. 299)
- 2 ジャッキを取り出す (→ P. 378)

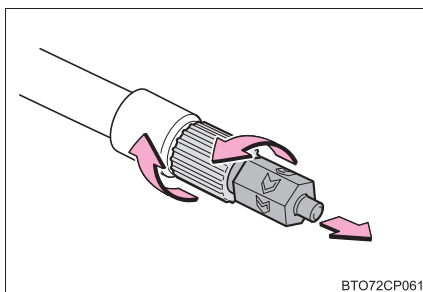
応急修理するとき

- 1 応急修理キットを取り出す
- 2 パンクしたタイヤのバルブから、バルブキャップを取りはずす



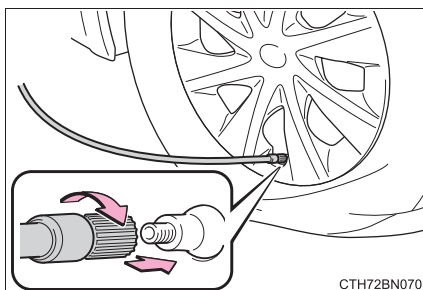
- 3 ボトルの保護フィルムをはがし
ホースをのばす
ボトルのホースから空気逃がし
キャップを取りはずす

ボトルに同封されているパンク補修液
注入済みラベルは指定の位置へ貼り付
けます。(9へ) 空気逃がしキャップは
再度使用するため、なくさないように
保管してください。

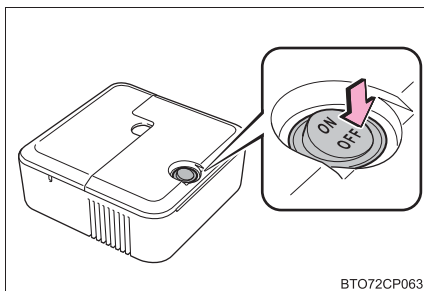


- 4 ボトルのホースをパンクしたタイ
ヤのバルブに接続する

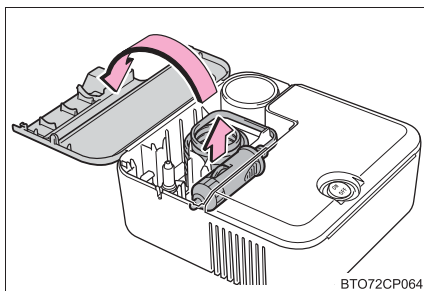
ホース先端を時計まわりにまわして、
しっかりと最後までねじ込みます。



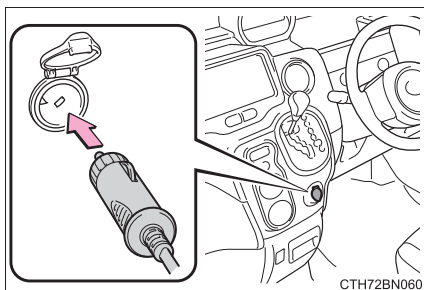
- 5 コンプレッサーのスイッチが
“OFF” であることを確認する



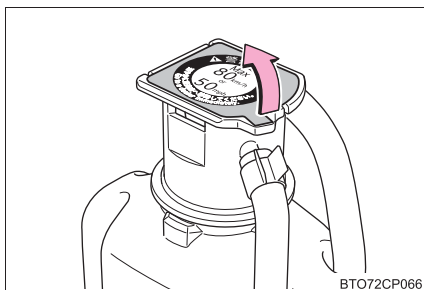
- 6 コンプレッサーの電源プラグを
はずす



- 7 コンプレッサーの電源プラグを
アクセサリースocketに挿し込
む (→ P. 290)

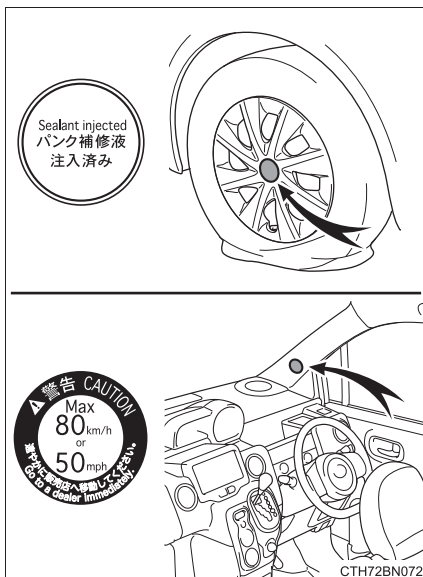


- 8 速度制限ラベルをはがす



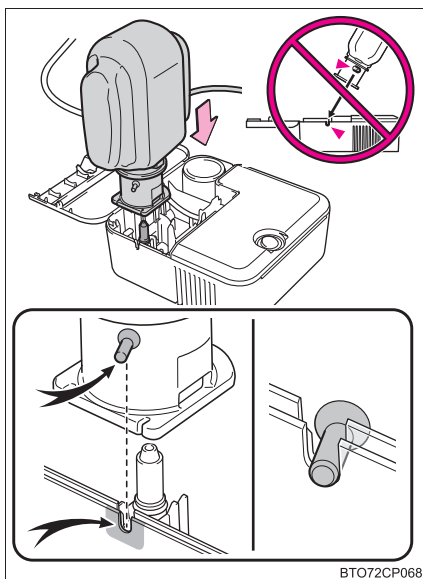
9 付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分にふき取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、トヨタ販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

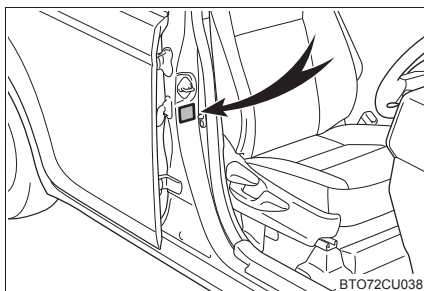


10 ボトルをコンプレッサーに接続する

右の図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルの突起がケースの溝にしっかり合っているか確認してください。

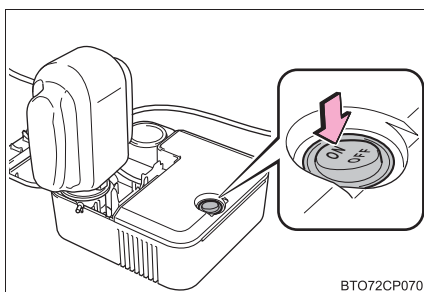


- 11 タイヤの指定空気圧を確認する
運転席側の空気圧ラベルを確認することが
できます。(→ P. 319)



BT072CU038

- 12 エンジンを始動する
- 13 コンプレッサーのスイッチを ON
にし、パンク補修液と空気を充填
する



BT072CP070

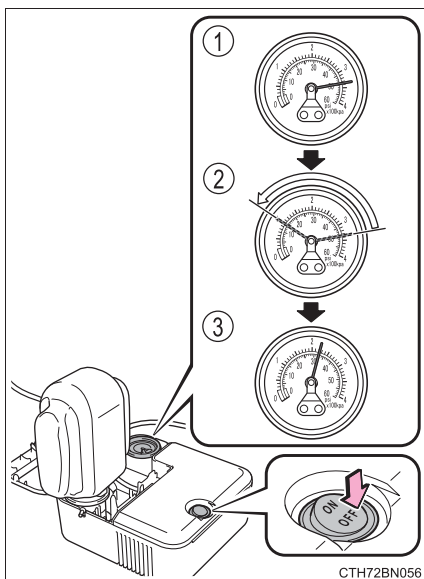
- 14 空気圧が指定空気圧になるまで
充填する

- ① スイッチ“ON”直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が上昇する
- ② 1分程度(低温の場合は5分程度)で実際の空気圧表示になる
- ③ 指定空気圧になるまで充填する

空気圧は、コンプレッサーのスイッチを“OFF”にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

35分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。(→ P. 423)



CTH72BN056

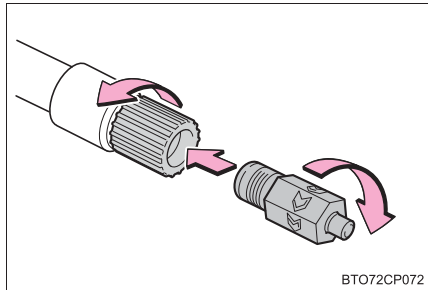
- 15 コンプレッサーのスイッチが“OFF”であることを確認した上で、アクセサリースOCKETから電源プラグを抜き、バルブからボトルのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

- 16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

- 17 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、お車が汚れる可能性があります。

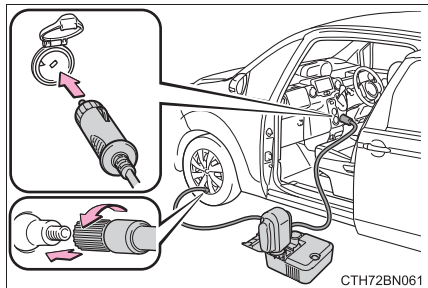


BT072CP072

- 18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

- 19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、安全に走行する（速度 80km/h 以下）

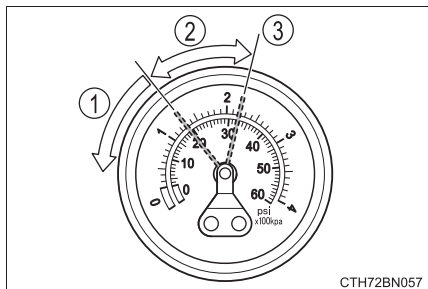
- 20 走行後、ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、再度応急修理キットを接続する



CTH72BN061

- 21 コンプレッサーのスイッチを約5秒間“ON”にし、“OFF”にして空気圧を確認する

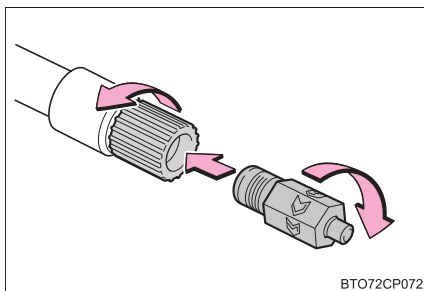
- ① 空気圧が 130kPa 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。
- ② 空気圧が 130kPa 以上、指定空気圧未満の場合：22 へ
- ③ 空気圧が指定空気圧（→ P. 423）の場合：23 へ



CTH72BN057

- 22 コンプレッサーのスイッチを“ON”にして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行あとにあらためて 20 から実施する
- 23 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。



- 24 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する
- 25 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、慎重に 80km/h 以下で運転してトヨタ販売店へ行きます。
- タイヤの修理・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

■ 応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■ 応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。

有効期限はボトルに表示されています。

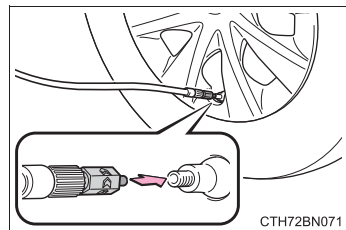
有効期限が切れたパンク修理液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。
- パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- 外気温度が -30°C ～ 60°C のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- コンプレッサー作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■ 空気を入れすぎてしまったとき

- 1 タイヤからホースを取りはずす
- 2 ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く



- 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する
- 4 コンプレッサーのスイッチを“ON”にして数秒間経過後、スイッチを“OFF”にして空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを“ON”にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

 **警告****■ 応急修理キットについて**

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■ パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- 接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあります。
- 充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにキットのスイッチを“OFF”にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。40分以上連続で作動させないでください。

 **警告**

- 応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■ 補修液を均等に広げるための運転について

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・ 空気圧を確認してください。130kPa 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

 **注意****■ 応急修理をするとき**

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットは砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 157）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→ P. 157）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
（→ P. 67）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 404）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

- 電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。
異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 401）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。(→ P. 404)

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 エンジンスイッチをアクセサリモードにする
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んでエンジンスイッチを約15秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

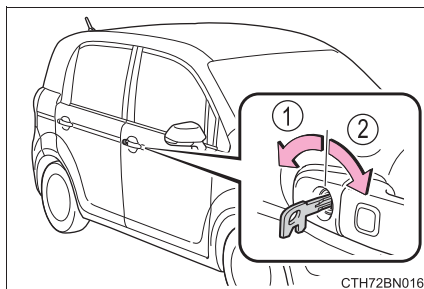
電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→ P. 91）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの解錠・施錠

メカニカルキー（→ P. 85）を使って次の操作ができます。

- ① 全ドア解錠
- ② 全ドア施錠



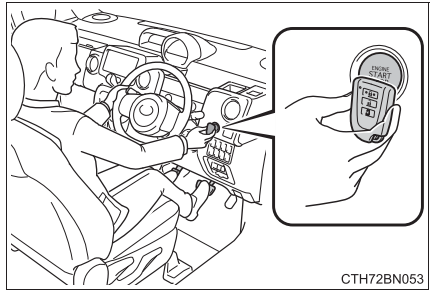
エンジン始動の方法

1 シフトレバーがPの状態ではブレーキペダルをしっかりと踏む

2 電子キーのトヨタエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッション ON モードへ切りかわります。

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、アクセサリモードへ切りかわります。



CTH72BN053

3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイにスマートエントリー&スタートシステム表示灯が表示されていることを確認する

4 エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■ エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、シフトレバーをPにしてエンジンスイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 324)

■ モードの切りかえ

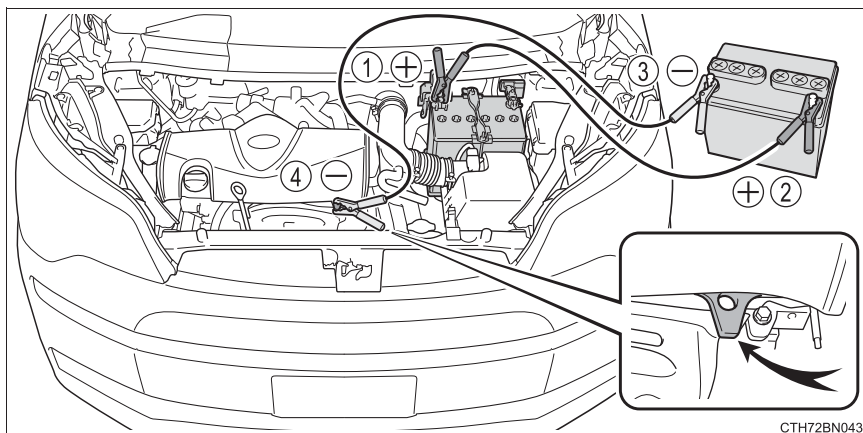
エンジン始動の手順 3 で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P. 158)

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

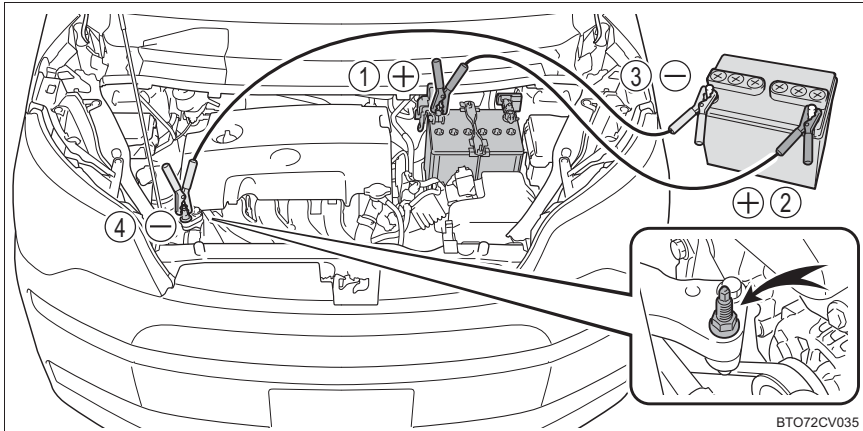
ブースターケーブルと12Vのバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

- 1 ボンネットを開ける
→ P. 312
- 2 バッテリーの+端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ
▶ 2NR-FKE エンジン搭載車



- ① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ
- ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
- ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
- ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、未塗装の金属部(図に示すような固定された部分)につなぐ

▶ 1NZ-FE エンジン搭載車



BTO72CV035

- ① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ
 - ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
 - ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
 - ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ
- 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する
 - 4 エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する
 - 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッション ON モードにしてからエンジンを始動する
 - 6 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

 知識**■ バッテリーあがり時の始動について**

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンが停止しているときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

■ バッテリーがあがったときの留意事項

- バッテリーがあがった直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠をしてください。
- バッテリーがあがったあとの、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。
- 車両は常にエンジン スイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、車両はバッテリーがあがる前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジン スイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーあがり前のエンジン スイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

■ バッテリーがあがってしまった場合は

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーあがり時や取りはずし時など (Stop & Start システム装着車)

バッテリーがあがったあと、またはバッテリー端子をはずしたあとは、約 30 ～ 60 分間、Stop & Start システムが作動しないことがあります。

■ バッテリーの交換について (Stop & Start システム装着車)

装着されているバッテリーは、Stop & Start システム専用品です。S-95 またはそれ以上の性能を持つバッテリーと交換してください。

適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

 **警告****■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です
ので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

■ 車の損傷を防ぐために

車両を押ししたり、引いたりして始動させないでください。
触媒コンバーターが加熱し、火災の原因になるおそれがあります。

 **注意****■ ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

高水温警告灯（→ P. 366）が点滅または点灯した、エンジン出力が低下した（スピードが出ないなど）、またはエンジンルームから蒸気が出ているときは、オーバーヒートの可能性があります。

対処方法

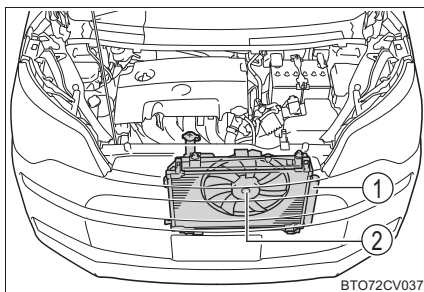
- 1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、エンジンを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

- ① ラジエーター
- ② ファン

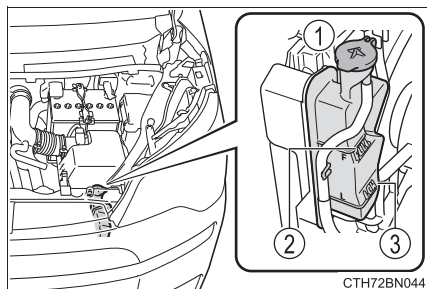
多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



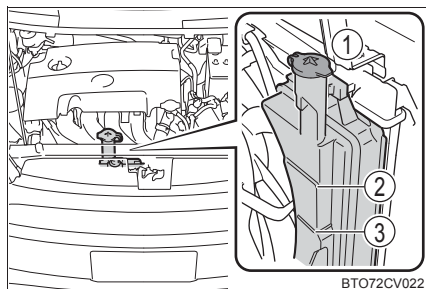
BT072CV037

- 4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）の間にあるかを点検する
- ① リザーバータンク
 - ② “FULL”（上限）
 - ③ “LOW”（下限）

▶ 2NR-FKE エンジン搭載車

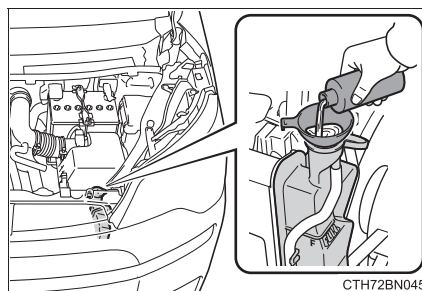


▶ 1NZ-FE エンジン搭載車

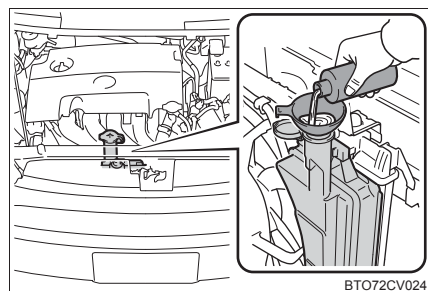


- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→ P. 421）
冷却水がない場合は、応急処置として水を補給してください。

▶ 2NR-FKE エンジン搭載車



▶ 1NZ-FE エンジン搭載車



- 6 エンジンを開始し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

(ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります)

- 7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する

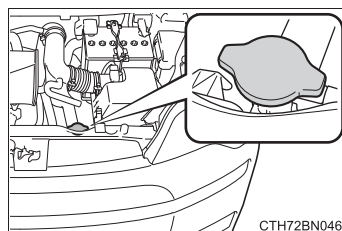
ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

警告

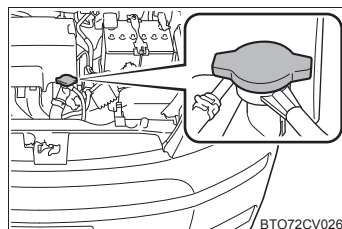
■ エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。ボンネットやエンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

▶ 2NR-FKE エンジン搭載車



▶ 1NZ-FE エンジン搭載車



 **注意****■ 冷却水を入れるときの注意**

エンジンが十分に冷えてから入れてください。

冷却水はゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは


ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

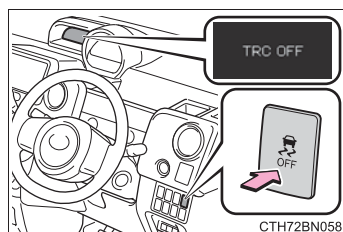
- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてエンジンを停止する
- 2 タイヤ前後の土や雪などを取り除く
- 3 タイヤの下に木や石などをあてがう
- 4 エンジンを再始動する
- 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに TRC を停止することにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  を押す



警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報**8****8-1. 仕様一覧**

メンテナンスデータ
(指定燃料・
オイル量など)416

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧.....426

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目429

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。

トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	42

エンジンオイル

▶ 2NR-FKE エンジン

指定銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値 ^{※1})	
		オイル のみ交換	オイルと オイル フィルター 交換
トヨタ純正 モーター オイル SN 0W-16 ^{※2} (API SN/RC, SAE 0W-16) トヨタ純正 モーター オイル SN PLUS 0W-20 (API SN PLUS/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20) トヨタ純正 モーター オイル SN 5W-30 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30)	2NR-FKE	3.0	3.3

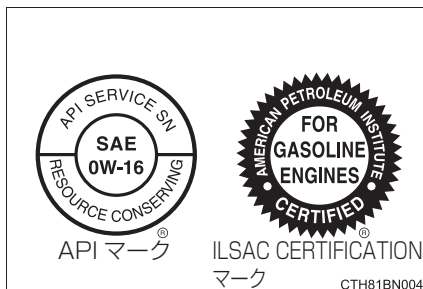
※¹ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機あとに停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※² 0W-16 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

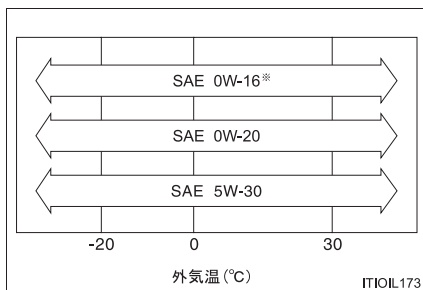
API 規格 SN PLUS/RC、SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。

なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-16 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-16 で説明します）：

- ・ 0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または重負荷走行に適しています。

▶ 1NZ-FE エンジン

指定銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値 ^{※1})	
		オイルのみ 交換	オイルと オイル フィルター 交換
トヨタ純正 モーター オイル SN PLUS 0W-20 ^{※2} (API SN PLUS/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20) トヨタ純正 モーター オイル SN 5W-30 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30)	1NZ-FE	3.4	3.7

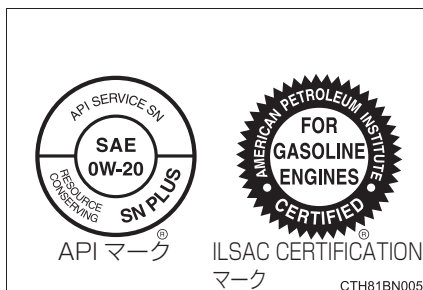
※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機あとに停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※2 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

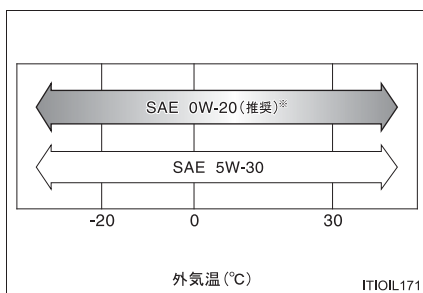
API 規格 SN PLUS/RC、SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。

なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% - 12°C 濃度 50% - 35°C	2NR-FKE	4.9
	1NZ-FE	5.0

トランスミッション

指定銘柄	エンジン	駆動方式	容量 [L] (参考値※)
トヨタ純正 CVT フルード FE	2NR-FKE	FF 車	7.47
	1NZ-FE	4WD 車	7.88

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

 注意

■ CVT フルードについて

上記で指定のトヨタ純正フルード以外をご使用の場合、変速不良、振動などの不具合発生や破損に至るおそれがあります。

トランスファー (4WD 車)

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5, SAE75W-85)	0.45

リヤディファレンシャル (4WD 車)

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5, SAE75W-85)	0.5

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間*	78 以上

* エンジン回転時に 300N (30.6kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

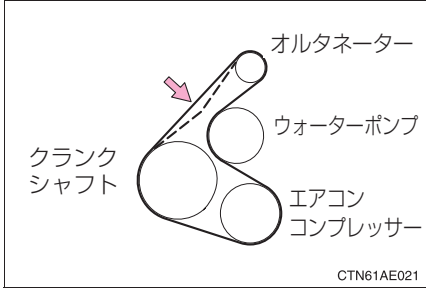
項目	基準値 (回数)
踏みしる 操作力 300N (30.6kgf) のときのノッチ*数	7 ~ 10

* ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度 ("カチッ") という音のことです。

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)	
寒冷地仕様車を除く	1.8
寒冷地仕様車	2.3

Vリブドベルト

項目	エンジン	基準値 [mm]
たわみ量 	2NR-FKE	自動調整式
	1NZ-FE	12.5 ~ 13.5

クラック
シャフト

オルタネーター

ウォーターポンプ

エアコン
コンプレッサー

CTN61AE021

押力 98N (10kgf) (冷間時)

タイヤ・ホイール

▶ 標準タイヤ

タイヤサイズ	ホイール サイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)		
		エンジン	前輪	後輪
175/65R15 84H	15 × 5J	2NR-FKE	230 (2.3)	240 (2.4)
		1NZ-FE	230 (2.3)	230 (2.3)

▶ 応急用タイヤ★

タイヤサイズ	ホイール サイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
T125/70D16 96M	16 × 4T	420 (4.2)	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球 (バルブ)

電球		W (ワット) 数
車外	ヘッドランプ ハイビーム (バルブタイプ: HB3) ハロゲンヘッドランプ装着車 ロービーム (バルブタイプ: H11) ディスチャージヘッドランプ装着車 ロービーム (ディスチャージヘッドランプ: D4S)	60
	車幅灯	5
	フロント方向指示灯/非常点滅灯 (アンバーバルブ) ※ ¹	21
	サイド方向指示灯/非常点滅灯	LED ※ ²
	リヤ方向指示灯/非常点滅灯 (アンバーバルブ) ※ ¹	21
	尾灯	5
	制動灯	LED ※ ²
	後退灯	16
	番号灯	5
	ハイマウントストップランプ	LED ※ ²
車内	パーソナルランプ/インテリアランプ (前側)	5
	インテリアランプ (うしろ側)	8
	フロント足元照明	LED ※ ²
	ラゲージルームランプ	5
	バニティランプ	8

※¹ アンバーバルブはオレンジ色の電球です。

※² LED は、Light Emitting Diodes (発光ダイオード) の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
NSP141	2NR-FKE (1.5L ガソリン)	FF (前輪駆動)
NCP145	1NZ-FE (1.5L ガソリン)	4WD (4輪駆動)

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備が付いています。
トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー& スタートシステム (→ P. 87)	スマートエントリー& スタートシステムの作 動	あり	なし
	作動の合図 (ブザー)	あり	なし
	作動の合図 (非常点滅灯)	あり	なし
	解錠後、ドアを開けな かったときの自動施錠 までの時間	30 秒	60 秒
	半ドア警告ブザー	あり	なし

項目	機能の内容	初期設定	変更後
ワイヤレスドアロック (→ P. 96)	ワイヤレス機能	あり	なし
	作動の合図 (ブザー)	あり	なし
	作動の合図 (ブザー音量)	レベル 7	レベル 0 ~ 7
	作動の合図 (非常点滅灯)	あり	なし
	解錠後、ドアを開けな かったときの自動施錠 までの時間	30 秒	60 秒
	半ドア警告ブザー	あり	なし
	パワースライドドアの 操作	ドア解錠時 に長押し	ドア施錠時に 長押し ドア解錠時に 2 回連続 押し ドア施錠時に 2 回連続 押し ドア解錠時に 単押し なし
パワースライドドア (→ P. 102)	パワースライドドアス イッチによる操作	0.5 秒 長押し	単押し
	閉作動中のブザー吹鳴	あり	なし
ランプ自動点灯・消灯 システム★ (→ P. 170)	ライトセンサーの感度	レベル 3	レベル 1 ~ 5
	暗さを検知してからラ ンプを点灯するまでの 時間	標準	長め
クリアランスセンサー★ (→ P. 229)	フロントセンサーの検 知可能距離	遠い	近い
	バックセンサーの検知 可能距離	遠い	近い

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
オートエアコン★ (→ P. 257)	AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない
イルミネーション (→ P. 269)	消灯までの時間	15 秒	7.5 秒 30 秒
	解錠後の作動	あり	なし
	エンジン スイッチOFF 後の作動	あり	なし

知識

■ 車両カスタマイズについて

解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図音量（ブザー音量調整）」の設定に依存します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく動かせるために初期設定が必要です。

項目	機能の内容	参照
パワースライドドア	・ バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ ヒューズ交換時	P. 104
パーキングサポートブレーキ★		P. 245

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは (症状別さくいん).....	432
車から音が鳴ったときは (音さくいん).....	437
アルファベット順さくいん.....	439
五十音順さくいん.....	440

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 85）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 86）



解錠・施錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 324）
- エンジン スイッチがイグニッション ON モードになっていませんか？
施錠するときはエンジン スイッチを OFF にしてください。（→ P. 158）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
（→ P. 91）



運転席側リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていますか？

チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 99）



スライドドアが全開にならない

- 中間ストッパーがかかっていますか？

スライドドアのドアガラスが大きく開いていたり、給油口が開いていると、スライドドアは途中までしか開きません。（中間ストッパー位置で停止します）ドアガラスおよび給油口を閉じ、いったんスライドドアを全閉にしてから、再度スライドドア開けてください。（→ P. 103）

故障かな？と思ったら**エンジンがかからない**

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジン スイッチを押していますか？（→ P. 157）
- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 160）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 89）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 160）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。
（→ P. 403）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 404）



ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

- エンジン スイッチはイグニッション ON モードになっていますか？
エンジン スイッチがイグニッション ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 164）
-



エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 160）
-



パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→ P. 142）
-



エンジン スイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間アクセサリモードまたはイグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 159）



警告音が鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 437）をご確認ください。
-



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 365、371 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- 応急用タイヤ装着車
車を安全な場所に止め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 375）
 - タイヤパンク応急修理キット装着車
車を安全な場所に止め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 386）
-



立ち往生した

- めかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 412）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状況や誤操作などをお知らせするために各種の警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている	P. 374
	車幅灯・ヘッドランプが点灯している	P. 172
施錠しようとしたとき (施錠できないとき)	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 90
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 94

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 368
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 365
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 368
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 151
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P. 187
車線から逸脱したとき	LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用している	P. 198
前の車が発進しても停車し続けたとき	先行車発進告知機能が作動した	P. 209

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

4WD	
(4 ホイールドライブ)	222, 425
A/C	
(エアコン)	252, 257
ABS	
(アンチロックブレーキシステム)	223, 367
ECO	
(エコノミー / エコロジー)	148
EDR	
(イベントデータレコーダー)	8
EPS	
(電動リックパワーステアリング)	223, 367
FF	
(フロントエンジンフロントドライブ)	425
ILSAC CERTIFICATION	
(イルサックサーティフィケーション)	418, 420
ISOFIX	
(アイソフィックス / イソフィックス)	43
LDA	
(レーンディパーチャーアラート)	198
PCS	
(プリクラッシュセーフティ)	187
PKSB	
(パーキングサポートブレーキ)	236
SRS	
(サブプリメンタルレストRAINT)	33, 367
TRC	
(トラクションコントロール)	223, 224
VSC	
(ビークルスタビリティコントロール)	223, 224

五十音順さくいん

あ

アースポイント (バッテリー あがりの処置).....	404
アームレスト (運転席アームレスト)	292
アイドリングストップ	211
アイドリングストップ時間.....	79
SMART STOP	211
Stop & Start キャンセル 表示灯	213
Stop & Start システム	211
Stop & Start 表示灯	211
アウトターミラー (ドアミラー) ...	139
操作	139
アクセサリースOCKET	290
アクセサリモード	158
アシストグリップ	301
アンチロックブレーキシステム (ABS)	223
アンテナ (オーディオ)	304
アンテナ (スマートエントリー& スタートシステム)	89
アンブレラホルダー	285

い

イグニッションスイッチ (エンジン スイッチ)	157
位置交換 (タイヤローテーション)	318
イベントデータレコーダー (EDR)	8
イモビライザーシステム	67
イルミネーテッドエントリー システム	271
インジケーター (表示灯)	70
インテリアランプ (室内灯)	269
操作	270
ワット数	424
インナーミラー	138

う

ウインカー (方向指示灯)	166
電球 (バルブ)	
の交換	340, 341, 343
方向指示レバー	166
ワット数	424
ウインドウ	142
ウォッシャー	174, 176
パワーウインドウ	142
リヤウインドウ	
デフォグガー	266
ウインドウロックスイッチ	142
ウォーニングランプ	
(警告灯)	70, 365
ウォッシャー	174, 176
液の補充	317
スイッチ	174, 176
タンク容量	422
冬の前の準備・点検	248
動けなくなったときは	
(スタック)	412
運転	146
運転を補助する装置	223
寒冷時の運転	248
正しい運転姿勢	24
手順	146
運転席アパートレイ	274
運転席シートヒーター	293

え

エアコン	252, 257
オートエアコン	257
フィルターの交換	348
マニュアルエアコン	252
エアバッグ	33
SRS エアバッグ警告灯	367
作動条件	38
配置	33
エコドライブインジケーター	148
エレクトリックパワー	
ステアリング (EPS)	223
機能	223
パワーステアリング警告灯	367
エンジン	
エンジンイモビライザー	
システム	67
エンジンがかからない	
(エンジンが始動	
できない)	400
エンジン警告灯	367
エンジン スイッチ	157
エンジンの始動方法	157
オーバーヒート	408
ボンネット	312
エンジンオイル	417
冬の前の準備・点検	248
メンテナンスデータ	417
油圧警告灯	366
エンジン スイッチ	157
イグニッション	157
エンジン スイッチ	157
エンジンフード (ボンネット)	312
開け方	312
エンジンルーム	
エンジンルームから	
蒸気が出ている	408

お

オーディオ	
アンテナ	304
ステアリングスイッチ	297
オートエアコン	257
オートマチック	
トランスミッション	163
操作	163
オートマチックハイビーム	205
オートレベリングシステム	
(ヘッドランプ)	172
オーバーヒート	408
オープナー	
給油口	178
ボンネット	312
オイル (エンジンオイル)	417
応急用タイヤ	375
空気圧	423
交換方法	375
お子さまを乗せるとき	42
ウインドウロックスイッチ ...	142
お子さまの安全のために	42
シートベルトの着用	29
チャイルドシート	43
チャイルドシートの取り付け ...	43
チャイルドプロテクター	99
オドメーター	77
機能	77
表示切りかえボタン	77

か

カーテンシールドエアバッグ	33
カードホルダー	279
カーペット	309
洗浄	309
フロアマットの取り付け方	22
外気温度表示	289
外装の電球 (バルブ)	333
交換要領	333
ワット数	424
カスタマイズ機能	426
型式	425
カップホルダー	277
ガラスの曇り止め	
(リヤウインドウ	
デフォッガー)	266
ガレージジャッキ	314
冠水路走行	154
寒冷時の運転	248

き

キー	84
エンジンが始動できない	400
解錠・施錠ができない	402
キーナンバープレート	84
キーの構成	84
キーレスエントリー	87, 96
キーをなくした	85, 86
正常に働かない	402
電子キー	84
電池が切れた	324, 402
メカニカルキー	85
ワイヤレスリモコン	96
キーレスエントリー	87, 96
スマートエントリー& スタートシステム	87
ワイヤレスドアロック	96
給油	178
給油のしかた	178
緊急時シートベルト固定機構	29
緊急時の対処	
エンジンが始動できない	400
オーバーヒートした	408
キーの電池が切れた	324, 402
警告灯がついた	365
けん引	358
故障したときは	352
車両を緊急停止する	356
水没したときは	357
スタックした	412
電子キーが正常に働かない	402
発炎筒	354
バッテリーがあがった	404
パンクした	375, 386

く

空気圧 (タイヤ)	423
メンテナンスデータ	423
区間距離計 (トリップメーター)	77
機能	77
表示切りかえボタン	77
曇り取り	
フロントウインドウ ガラス	253, 259
ミラーヒーター	266
リヤウインドウ デフォッガー	266
クラクション (ホーン)	169
クリアランスソナー	229
警告ブザー	231
操作	229
クリアランスランプ (車幅灯)	170
スイッチ	170
電球 (バルブ) の交換	339
ワット数	424
クリップ	
フロアマット	22
エンジンルーム内カバー	343

け

警音器 (ホーン).....	169
計器類 (メーター).....	74
警告灯.....	71
照度調整.....	77
表示灯.....	72
マルチインフォメーション ディスプレイ.....	76
メーター.....	74
警告灯.....	71
ABS & ブレーキアシスト.....	367
SRS エアバッグ.....	367
エンジン.....	367
エンジンオイル圧力.....	366
高水温.....	366
シートベルト非着用.....	368
充電.....	366
Stop & Start キャンセル表示灯.....	367
スリップ表示灯.....	367
燃料残量.....	368

パワーステアリング.....	367
半ドア.....	368
PCS (プリクラッシュ セーフティ).....	367, 369
PKSB OFF 表示灯.....	367, 369
プリテンショナー.....	367
ブレーキ.....	365
ブレーキオーバーライド システム/ドライブ スタート コントロール.....	368

警告ブザー

LDA (レーンディパーチャー アラート).....	198
シートベルト非着用.....	368
先行車発進告知.....	209
パーキングブレーキ 未解除走行時.....	365
パワーステアリング.....	367
半ドア.....	90, 96
半ドア走行時.....	368
PKSB.....	241
ブレーキ.....	365
ランプ消し忘れ.....	172
リバース.....	164

化粧ミラー (バニティミラー) ...

287	
けん引.....	358
けん引のしかた.....	358
フック.....	376, 388

こ

コートフック	302
交換	
エアコンフィルター	348
キーの電池	324
タイヤ	375
電球 (バルブ)	333
ヒューズ	326
工具 (ツール)	376, 388
光軸調整ダイヤル	171
航続可能距離	78
後退灯 (バックアップランプ)	
電球 (バルブ) の交換	341
ワット数	424
小物入れ	279
コンビニフック	
(買い物フック)	296
コンライト	
(自動点灯・消灯装置)	170

さ

サイドエアバッグ	33
サイド方向指示灯	166
電球 (バルブ)	
の交換	343
方向指示レバー	166
ワット数	424
サイドミラー (ドアミラー)	139
操作	139
坂道発進補助機能	213
サンバイザー	287

し

シート	117, 119
シートアレンジ	128
シートヒーター	293
正しい運転姿勢	24
チャイルドシート	43
調整	117, 119
手入れ	309
フロントシート	117
ヘッドレスト	125
リヤシート	119
シートヒーター	293
シートベルト	26
お子さまの着用	29
緊急時シートベルト固定機構	29
シートベルト非着用警告灯	368
正しく着用するには	26
着け方・はずし方	26
手入れ	309
妊娠中の方の着用	30
シートベルトプリテンショナー	29
機能	29
プリテンショナー警告灯	367
シートポケット	283
室内灯 (インテリアランプ)	269
操作	270
ワット数	424
始動のしかた	157
シフトポジション	163
シフトレバー	163
シフトレンジの切りかえ	163
シフトロックシステム	
(解除ボタン)	164
操作	163
リバース警告ブザー	164

シフトレバーがシフト

できないときは	164
シフトロックシステム	164
締め付けトルク (ホイール)	383
ジャッキ	
ガレージジャッキ	314
車載ジャッキ	376, 388
ジャッキハンドル	376, 388
車幅灯	170
スイッチ	170
電球 (バルブ) の交換	339
ワット数	424
車両型式	425
車両仕様 (スペック)	416
車両データの記録	7
車両を緊急停止するには	356
手動光軸調整ダイヤル	171
瞬間燃費	78
助手席グローブボックス	275
助手席シートヒーター	293
仕様 (車両仕様)	416

す

スイッチ

イグニッション	157
ウインドウロック	142
ウォッシャー	174, 176
LDA	
(レーンディパーチャー	
アラート)	200
エンジン スイッチ	157
オートマチックハイビーム	205
シートヒーター	293
ドアミラー	139
ドアロック	98
パワーウインドウ	142
パワースライドドア	102
PCS (プリクラッシュ	
セーフティ)	190
非常点滅灯	
(ハザードランプ)	353
VSC OFF	224
フロントワイパー	
デアイサー	268
ランプ	170
リヤウインドウ	
デフォグガー	266
ワイパー	174, 176

- スタック 412
- ステアリングホイール
 - (ハンドル)..... 137
 - 位置調整..... 137
- ステアリングロック 160
 - 解除できないとき 160
- ストップランプ (制動灯)
 - 電球 (バルブ) の交換..... 343
- スノータイヤ (冬用タイヤ) 248
- スピードメーター 74
- スペアタイヤ (応急用タイヤ)
 - 空気圧..... 423
 - 交換方法..... 375
- スペック (車両仕様)..... 416
- スマートエントリー&
 - スタートシステム..... 87
 - アンテナの位置..... 89
 - エンジンの始動..... 157
 - カスタマイズ設定..... 426
 - 警告ブザー..... 90
 - 作動範囲..... 89
 - 正常に働かないとき..... 402
 - 節電モード..... 91
 - 電波がおよぼす影響について... 95
 - ドアの解錠・施錠..... 88
- SMART STOP211
 - アイドリングストップ時間79
 - SMART STOP.....211
 - Stop & Start
 - キャンセル表示灯.....213
 - Stop & Start システム.....211
 - Stop & Start 表示灯.....211
- スモールランプ (車幅灯)..... 170
 - スイッチ 170
 - 電球 (バルブ)
 - の交換 339
 - ワット数.....424
- スライドドア 101
 - スマートエントリー&
 - スタートシステム.....87
 - スライドドア
 - イージークローザー 103
 - ドアガラス 142
 - 挟み込み防止機能..... 104
 - 半ドア警告灯 368
 - 半ドア走行時警告ブザー 368
 - パワースライドドア 102
 - ロックレバー 101
 - ワイヤレスリモコン96

せ

清掃	304, 309
外装	304
シートベルト	309
内装	309
ホイール・	
ホイールキャップ	306
制動灯	
電球 (バルブ) の交換	343
積算距離計 (オドメーター)	77
機能	77
表示切りかえボタン	77
セキュリティインジケータ	67
先行車発進告知	209
センサー	
ライトセンサー	172
洗車	304
前照灯 (ヘッドランプ)	170
手動光軸調整ダイヤル	171
スイッチ	170
電球 (バルブ)	
の交換	336, 337, 343
ライトセンサー	172
ランプ消し忘れ警告ブザー	172
ランプ消し忘れ防止機能	172
ワット数	424
センターマルチボックス	281

そ

速度計 (スピードメーター)	74
----------------------	----

た

ターンシグナルランプ	
(方向指示灯)	166
電球 (バルブ)	
の交換	340, 341, 343
方向指示レバー	166
ワット数	424
タイヤ	318
応急用タイヤ	375
空気圧	322, 423
交換	375
締め付けトルク	383
点検	318
パンクしたときは	375, 386
ホイールサイズ	423
ローテーション	
(位置交換)	318
タイヤが空まわりする	
(スタックした)	412
タイヤチェーン	248

ち

チェーン (タイヤチェーン)	248
チャイルドシート	43
ISOFIX ロアアンカレッジでの	
固定	61
シートベルトでの固定	58
選択方法	48
トップテザーアンカレッジの	
使用	63
取り付け方	56
チャイルドプロテクター	99
駐車ブレーキ	
(パーキングブレーキ)	167
操作	167
ブレーキ警告灯	365
未解除走行時警告ブザー	365
メンテナンスデータ	422

つ

ツール (工具)	376, 388
----------------	----------

て

テールランプ (尾灯)	170
スイッチ	170
電球 (バルブ) の交換	341
ワット数	424
停止表示板収納スペース	300
ディスチャージヘッドランプ	
オートレベリングシステム	172
スイッチ	170
電球 (バルブ) の交換	343
ワット数	424
ディファレンシャル	422
手入れ	304, 309
外装	304
シートベルト	309
内装	309
ホイール・	
ホイールキャップ	306
デッキアンダートレイ	300
デッキボード	299
デフォッガー	
(リヤウインドウ	
デフォッガー)	266
電球 (バルブ)	
交換要領 (外装バルブ)	333
ワット数	424
点検基準値	
(メンテナンスデータ)	416
電子キー	84
作動範囲	89
正常に働かないとき	402
節電モード	91
電池が切れた	324, 402
電池交換	324
電池交換 (キー)	324

と

ドア	98, 101, 112
スマートエントリー& スタートシステム	87
チャイルドプロテクター	99
ドアガラス	142
ドアロックスイッチ	98
半ドア警告灯	368
半ドア走行時警告ブザー	368
ロックレバー	98
ワイヤレスリモコン	96
ドアミラー	139
操作	139
盗難防止装置	
エンジンイモビライザー システム	67
時計	288
トッテザーアンカレッジ	63
Toyota Stop & Start System	211
アイドリングストップ時間	79
SMART STOP	211
Stop & Start キャンセル表示灯	213
Stop & Start システム	211
Stop & Start 表示灯	211
Toyota Safety Sense	182
トラクションコントロール (TRC)	223
トランスミッション	163
操作	163
メンテナンスデータ	421
トリップインフォメーション	77
トリップメーター	77
機能	77
表示切りかえボタン	77

な

内装	
収納装備	272
手入れ	309
「ナノイー」	261

に

荷物	
積むときの注意	155

ぬ

ぬかるみにはまった (スタックした)	412
-----------------------	-----

ね

燃料	178, 416
給油	178
種類	178, 416
燃料残量警告灯	368
容量	416
燃料計	76

は

パーキングサポートブレーキ

(PKSB)..... 236

警告灯..... 367, 369

警告ブザー..... 367

操作..... 238

表示灯..... 73

パーキングブレーキ..... 167

操作..... 167

ブレーキ警告灯..... 365

未解除走行時警告ブザー..... 365

メンテナンスデータ..... 422

パーソナルランプ..... 269

操作..... 270

ワット数..... 424

排気ガス..... 41

ハイビーム (ヘッドランプ) 170

スイッチ..... 170

電球 (バルブ) の交換..... 337

ワット数..... 424

ハイマウントストップランプ

電球 (バルブ) の交換..... 343

ハザードランプ (非常点滅灯) ... 353

スイッチ..... 353

電球 (バルブ)

の交換..... 340, 341, 343

ワット数..... 424

挟み込み防止機能

スライドドア..... 104

パワーウィンドウ..... 143

発炎筒..... 354

バックアップランプ (後退灯)

電球 (バルブ) の交換..... 341

ワット数..... 424

バックドア..... 112

スマートエントリー&

スタートシステム..... 87

ワイヤレスリモコン..... 96

バッテリーがあがった..... 404

バニティ (化粧用) ミラー..... 287

バルブ (電球)

交換要領 (外装バルブ)..... 333

ワット数..... 424

パワーウィンドウ..... 142

ウィンドウロックスイッチ ... 142

閉めることができない

ときは..... 143

操作..... 142

挟み込み防止機能..... 143

巻き込み防止機能..... 143

パワーステアリング..... 223

機能..... 223

パワーステアリング警告灯 ... 367

パワースライドドア..... 102

操作..... 102

挟み込み防止機能..... 104

パンクした

応急用タイヤ装着車..... 375

タイヤパンク応急修理キット

装着車..... 386

番号灯

(ライセンスプレートランプ) ... 170

スイッチ..... 170

電球 (バルブ) の交換..... 342

ワット数..... 424

ハンドル

(ステアリングホイール)..... 137

位置調整..... 137

ひ

ビークルスタビリティ	
コントロール (VSC)	223
ヒーター	
オートエアコン	257
シートヒーター	293
ステアリングヒーター.....	295
マニュアルエアコン	252
非常点滅灯	
(ハザードランプ)	353
スイッチ.....	353
電球 (バルブ)	
の交換.....	340, 341, 343
ワット数.....	424
尾灯 (テールランプ)	170
電球 (バルブ) の交換.....	341
ランプスイッチ	170
ワット数.....	424
ヒューズ	326
表示灯	72
日よけ (サンバイザー)	287
ヒルスタートアシスト	
コントロール.....	223

ふ

ブースターケーブル	
のつなぎ方	404
ブザー	
LDA	
(レーンディパーチャー	
アラート).....	198
高水温	366
シートベルト非着用	368
先行車発進告知.....	209
パーキングブレーキ	
未解除走行時.....	365
パワーステアリング	367
半ドア	90, 96
半ドア走行時	368
PKSB	369
ブレーキ	365
油圧	366
ランプ消し忘れ.....	172
リバース	164
フック	
買い物フック	296
けん引フック	376, 388
コートフック	302
フロアマット固定フック	22

フューエルメーター (燃料計)	76
フューエルリッド (給油口)	178
冬の前の準備 (寒冷時の運転) ...	248
冬用タイヤ	248
ブリクラッシュセーフティ (PCS)	187
PCS スイッチ	190
ブレーキ	
警告ブザー	365
パーキングブレーキ	167
ブレーキ警告灯	365
メンテナンスデータ	422
ブレーキアシスト	223
ABS & ブレーキアシスト	
警告灯	367
機能	223
ブレーキ付近からキーキー音が 聞こえる	151
ブレーキフルード	422
フロアマット	22
フロントシート	117
正しい運転姿勢	24
調整	117
手入れ	309
ヘッドレスト	125
フロントパーソナルランプ	269
操作	270
ワット数	424
フロント方向指示灯	166
電球 (バルブ) の交換	340
方向指示レバー	166
ワット数	424
フロントワイパーデアイサー	268

へ

平均燃費	78
ヘッドランプ	170
手動光軸調整ダイヤル	171
スイッチ	170
電球 (バルブ)	
の交換	336, 337, 343
ライトセンサー	172
ランプ消し忘れ警告ブザー ...	172
ランプ消し忘れ防止機能	172
ワット数	424
ヘッドランプオートレベリング システム	172
ヘッドレスト	125
ベンチシートカップホルダー付 クッショントレイ	278

ほ

ホーン (警音器)	169
ホイール	
交換 (タイヤ)	375
メンテナンスデータ	423
方向指示灯	166
電球 (バルブ)	
の交換	340, 341, 343
方向指示レバー	166
ワット数	424
保証	9
ポストカードホルダー	291
ボトルホルダー	284
ボンネット	312
開け方	312

ま

巻き込み防止機能.....	143
マニュアルエアコン.....	252
マルチインフォメーション ディスプレイ.....	76
LDA (レーンディパーチャー アラート).....	201
ドライブ インフォメーション.....	78
トリップインフォメーション...	77
PCS (プリクラッシュ セーフティ).....	190

み

ミラー インナーミラー.....	138
ドアミラー.....	139
バニティミラー.....	287

め

メーター (計器類).....	74
警告灯.....	71
表示灯.....	72
照度調整.....	77
マルチインフォメーション ディスプレイ.....	76
メーター.....	74
メカニカルキー.....	85
メンテナンスデータ.....	416

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能.....	426
雪道ですべて動けない (スタックした).....	412
油脂類.....	416

よ

4WD オートモードスイッチ.....	222
---------------------	-----

ら

ライセンスプレートランプ (番号灯).....	170
スイッチ.....	170
電球 (バルブ) の交換.....	342
ワット数.....	424
ラゲージルーム内装備.....	299
デッキアンダートレイ.....	300
デスクボード.....	299
ラジエーター オーバーヒート.....	408
メンテナンスデータ.....	421
ランプ インテリアランプ.....	269
室内灯.....	269
電球 (バルブ) の交換.....	333
パーソナルランプ.....	269
非常点滅灯 (ハザードランプ).....	353
ヘッドランプ (前照灯).....	170
方向指示灯 (ターンシグナル ランプ/ウインカー).....	166
ライトセンサー.....	172
ランプ消し忘れ警告ブザー....	172
ランプ消し忘れ防止機能.....	172
ワット数.....	424
ランプ消し忘れ警告ブザー.....	172
ランプ消し忘れ防止機能.....	172

り

リヤウインドウデフォグガー	
スイッチ	266
リヤシート	119
リヤ方向指示灯	166
電球（バルブ）の交換	341
方向指示レバー	166
ワット数	424
リヤワイパー	176

る

ルームミラー	
（インナーミラー）	138
ルームランプ（室内灯）	269
操作	270
ワット数	424

れ

冷却水	421
水温警告灯	366
水温表示灯	72
冬の前の準備	248
メンテナンスデータ	421
冷却装置（ラジエーター）	
オーバーヒート	408
メンテナンスデータ	421
レーンディパーチャー	
アラート（LDA）	198
LDA スイッチ	200
レバー	
給油口	180
シフト	163
ハンドル位置調整レバー	137
方向指示	166
ボンネット解除	312
ロック（レバー）	98, 101

ろ

ロック	
ウインドウロック	142
シフトロック	164
スマートエントリー&	
スタートシステム	87
チャイルドプロテクター	99
ドア	98, 101, 112
ワイヤレスリモコン	96

わ

ワイパー&	
ウォッシャー	174, 176
ワイパーブレード（寒冷地用）	249
ワイヤレスリモコン	96
作動の合図	96
操作	96
電池の交換	324
半ドア警告ブザー	96
ワックス	304
ワット数	424

ガソリンスタンドでの情報

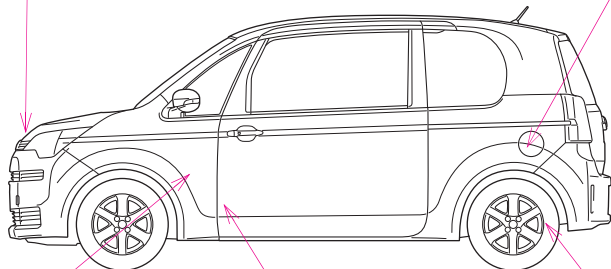
給油や交換などの際に必要な項目をまとめてあります。

ボンネットフック

P. 312

給油口

P. 178



BTOPCCV001

ボンネット解除レバー

P. 312

給油口オープナー

P. 180

タイヤ空気圧

P. 423

燃料の容量 (参考値)	42L
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン P. 178, 416
タイヤが冷えているときの空気圧	P. 423
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時 2NR-FKE エンジン車： 3.0L 1NZ-FE エンジン車： 3.4L オイルとフィルター交換時 2NR-FKE エンジン車： 3.3L 1NZ-FE エンジン車： 3.7L
エンジンオイルの種類	P. 417

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

☎0800-700-7700

オープン時間 365日 9:00~18:00

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
<http://www.toyota.co.jp> にて掲載しております。

「リコール等情報」については、
<http://toyota.jp/recall/index.html> にて掲載して
おります。

トヨタ自動車株式会社
<http://toyota.jp>



M 52B35
01999-52B35
ZC-2020年7月29日
2019年7月3日 初版
2020年8月3日 2版
スぺイド